

# 東日本大震災復興支援 活動の記録

---

2011－2013 年度

立教大学東日本大震災復興支援本部

## 目次

|                                                |    |
|------------------------------------------------|----|
| はじめに 立教大学総長 吉岡知哉                               | 1  |
| 1. 3.11 以後の大学の対応 ～復興支援本部の設置から陸前高田市との連携協定の調印まで～ | 2  |
| (1) 2011 年 3 月 11 日                            | 2  |
| (2) 東日本大震災復興支援本部の設置                            | 6  |
| (3) 立教大学学術推進特別重点資金（立教 SFR）東日本大震災・復興支援関連研究の募集   | 9  |
| (4) 在学生への対応 ー被災学生等への支援ー                        | 10 |
| (5) 陸前高田市を重点支援地区に設定、連携・交流協定の締結                 | 16 |
| (6) 復興支援本部体制の強化（2012 年 5 月）                    | 19 |
| 2. 大学としての取り組みーその 1：ボランティア活動など                  | 21 |
| (1) 2011 年度                                    | 21 |
| (2) 2012 年度                                    | 24 |
| (3) 2013 年度                                    | 29 |
| (4) 参考資料① 「つながる。陸前高田と立教大学」交流展                  | 35 |
| (5) 参考資料② 被災地への息の長い支援を目指して                     | 41 |
| 3. コミュニティ福祉学部（復興支援推進室）の取り組み                    | 46 |
| (1) 活動の経緯と目的                                   | 46 |
| (2) 各拠点の活動内容                                   | 47 |
| (3) 今後の活動の見通し                                  | 57 |
| (4) その他の取り組み                                   | 64 |
| 4. 大学としての取り組みーその 2：講演会、シンポジウム等                 | 67 |
| (1) 2011 年度                                    | 67 |
| (2) 2012 年度                                    | 81 |
| (3) 2013 年度                                    | 88 |
| あとがき 立教大学東日本大震災復興支援本部長 西原廉太                    | 98 |

## はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災から4年の月日が過ぎました。巨大地震と津波、そしてそれに続く原発事故の衝撃は、私たちの世界観、文明観までも根底から揺るがすものでした。今も原発事故は収束の見通しが立たず、被災地の復興も道半ばです。私たちの日々の暮らしや生き方に刻まれた深い傷痕はなお癒えることがありません。

震災からの復興を支援するために、本学では2011年4月に「東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針」を策定し、東日本大震災復興支援本部を設けました。以来、全学的な連携・協力の下、建学の精神である「共に生きる」を理念に復興支援活動を進めています。活動にあたっては、地域の人々のニーズに十分配慮させていただくと共に、息の長い支援を展開することを指針としています。これまで全学的なボランティア活動、学内助成制度による復興支援に関する研究活動、コミュニティ福祉学部「東日本大震災復興支援室」を始めとした学部による活動、チャペルや国際センター等の事務部局による活動、体育会学生等による活動、研究所等による活動など多岐に渡る活動を展開してきました。また、2003年に始まった「林業体験」以来の緊密な関係に基づき、陸前高田市を全学的な復興支援の重点地域に決めました。2012年5月には同市と連携及び交流に関する協定を締結し、学生、教職員によるボランティアやスポーツ教室などの復興支援・地域活性化など多様な分野での連携・交流活動を続けています。

東日本大震災によって、本学の教育研究活動にも大きな影響が生じることとなりました。震災当日の大学キャンパスでの帰宅困難者受入れ、卒業式・入学式の中止、授業開始時期の繰り下げ等は、大学としてこれまで経験のないことであり、難しい決断を迫られることもありました。被災された在校生、受験生への経済的支援、地域行政との危機管理に関する連携等は現在も継続して進めています。

本記録は、震災直後から2013年度まで本学で実施された復興支援活動をまとめたものです。活動に携わった多くの学生・教職員の歩みをご覧いただければ幸いです。本学ではこれからも、被災地の皆さんが安心して暮らし、安定した生活ができるまで、息の長い支援と交流を続けていきたいと考えています。

2015年3月

立教大学総長  
吉岡知哉

2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、東日本大震災が発生した。東京をはじめ首都圏でも最大震度 6 強を記録する大きな揺れが生じ、都内の交通体系はほぼ全面的に停止した。本学では、学生の安否確認を携帯電話の一斉メール機能を活用した緊急連絡システムを通じて行った。

また、本学が立地する豊島区池袋は、駅に JR ほか 7 本の私鉄・地下鉄の路線が乗り入れており、1 日の乗降客数が新宿について国内第 2 位という巨大ターミナルで、当日の夕方から夜半にかけて帰宅困難者が駅周辺にあふれ、空前の混乱状況となった。本学では池袋キャンパスを開放し、4,000 名を超える方々を受け入れた。

震災の状況が次第に明らかになり、東北一帯が壊滅的な被害に遭ったことを受け、本学では災害復興に如何に寄与するかの学内議論を経て、4 月 21 日に「東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針」を策定し、「立教大学東日本大震災復興支援本部」を立ち上げ、復興支援活動に取り組んできた。今回は震災発生日の 2011 年 3 月 11 日から 2014 年 3 月末までの 3 年間余りの本学における活動内容を記録に留める。

## **1. 3.11 以後の大学の対応 ～復興支援本部の設置から陸前高田との連携協定まで～**

ここでは、東日本大震災の発生を受けて、地震直後の大学としての諸対応について紹介するとともに、津波等により深刻な被害を受けた東北地方に対する本学の支援のあり方について体制整備等を行ってきた過程を紹介する。

### **(1) 2011 年 3 月 11 日**

#### **①災害対策本部の設置**

地震発生直後、池袋キャンパス内にある学院総務部内に災害対策統括本部を設置した。当日は、常務理事会が 15 時から開催されることになっており、理事長、大学総長など主要メンバーが学内で執務していたため、災害対策統括本部を直ちに設置することができた。これにより、対応の協議、決定、関係者への指示が即座に出せる体制が整った。

災害対策統括本部では、まず震災の状況と電車等の交通機関の状況把握に努めた。J R 池袋駅、西武鉄道、東武鉄道、東京メトロに電話で問い合わせたが、ほとんど連絡はつかなかった。結局、震災の状況と交通情報は学院総務課に設置してあるテレビに頼らざるを得なかった。

他方、学生を含む学内滞在者には、校内一斉放送により災害対策統括本部の指示や交通情報を適宜伝達するとともに、「落ち着いて行動してほしい」、「建物外に出ることなく建物内で待機するように」との放送を行った。

また、学内教職員の安否確認を行い、動員の可能性のあることを伝えた。そして、大学の池袋・新座両キャンパス、立教新座中高、立教池袋中高、立教小学校（池袋）の各校と連携して行動することを確認した。これらと並行して、学内施設・設備の被害状況を点検し、特段の被害がないことが確認された。

## ②帰宅困難者の受け入れ

当日は、首都圏の交通機関（鉄道、バス等）がストップし、その日のうちの運転再開が見込めないことがわかってきたため、帰宅困難となった学生・教職員が翌日までキャンパス内にとどまることになった（池袋キャンパスでは大学約 1,200 人、立教池袋中高約 320 人、立教小学校約 10 人。新座キャンパスでは大学約 250 人、立教新座中高約 270 人、合計約 2,050 人）。ここまでは「想定内」であったが、これに加えて、巨大ターミナル駅である池袋駅近くの池袋キャンパスに、主に池袋駅周辺に滞留していた約 3,300 人の一般の帰宅困難者を受け入れる事態が生じた。このことはマスメディアでも取り上げられたが、首都圏の他大学も多くの帰宅困難者を受け入れることになった。

本学の両キャンパスは東京都及び埼玉県から広域避難場所に指定されている。広域避難場所は地域住民がたとえば火災のために一時的に利用する場所としての認識を持っていたが、これほど多くの帰宅困難者を受け入れることは想定外のできごとであった。

当日の夕方 5 時頃から一般の帰宅困難者の受け入れが始まった。災害対策統括本部の指示により、一般の帰宅困難者を受け入れた後も校内一斉放送で震災状況や交通機関の運行状況などの情報伝達を行い、水やクッキーといった防災用備蓄品を供出した。また、池袋キャンパスの食堂業者の方には、わずかな人数で、夕食用に 2,600 個のおにぎりを握っていただいた。それとともに、正確な情報伝達が一般の帰宅困難者にとっても最重要事項だと判断し、避難場所となった教室に、災害関係のテレビ番組を放映することにした。さらに、帰宅困難者の中には高齢の方や、乳幼児を抱えた方もいたため小規模の教室を用意した。

幸いにも大きな混乱はなく、総数約 4,500 人全員が翌日の昼までに大学を離れることになった。後日、学生や帰宅困難者の方から感謝のメールやお手紙をいただいた。

## ③残された課題

<受け入れが困難な場合も>

今回は、電気、ガス、水道といったインフラが機能していたこと、春期休暇中のため学生が少なかったことなど、大きな混乱を回避できる条件が揃っていたが、もし、通常の授業が行われ、キャンパスに多くの学生が登校していたら、また、停電、断水などでインフラ設備が機能しなくなったら、などと考えると、まだまだ大規模地震発生時の課題が残されている。特に、大規模地震が発生した場合、首都圏では帰宅困難者の受け入れがいかに大変な問題かを体験したわけだが、日常の池袋キャンパスのように、数千人の学生であふれているキャンパスに多数の地域住民や帰宅困難者を受け入れることは困難なことと思われる。

<行政との連携>

首都圏でこれほど多くの帰宅困難者が発生することを、そして、ターミナル駅に多くの帰宅困難者が滞留することを、私たちは身をもって知ることになった。こうした場合に大学が独自の判断で帰宅困難者を受け入れ、対応することは非常に困難であり、また適切でもないと思われる。行政を中心に公共機関や事業体が帰宅困難者をどこで何人ぐらい受け入れていくか連携して対応することが重要となる。豊島区では、2008 年に鉄道会社、百貨店、地元商店会、教育機関、警察、消防署、豊島区などをメンバーに「池袋駅周辺混乱防止対策協議会」を立ち上げ、駅周辺に帰宅

困難者が滞留した場合の対応策を協議してきた。しかし、3.11 では想定をはるかに上回る帰宅困難者が駅周辺に滞留したこともあり、必ずしも機能したとは言えない。ほとんど機能しなかったという表現が当たっているかもしれない。豊島区でも今回のことを重視して、行政のリーダーシップのもと、帰宅困難者が発生した場合の対応をより具体的に進めていただいている。本学もこの協議会のメンバーであり、積極的にその活動にかかわりたいと考えている。

その後、豊島区との間で協議が進み、2013 年 12 月 18 日に豊島区と本学院との間で下記の協定が締結された。

#### 【参考資料】

##### 帰宅困難者対策の連携協力に関する協定

大地震等の災害時に発生する帰宅困難者を支援するため、一時滞在施設の提供など、帰宅困難者対策の連携協力に関して、豊島区防災対策基本条例（平成 25 年豊島区条例第 6 号）第 25 条に基づき、豊島区（以下「甲」という。）と立教学院（以下「乙」という。）との間において、次のとおり協定を締結する。

（目的）

**第 1 条** 本協定は、大地震等の災害に起因し、公共交通機関の運行が停止するなどの事由により発生した帰宅困難者に対し、甲が実施する応急対策活動に対する乙の連携協力に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（災害時の連携協力の内容）

**第 2 条** 甲は、災害発生時に必要があると認めるときは、本協定に基づき乙に対し、次に掲げる事項の全部又は一部について要請することができる。

- （1）帰宅困難者に対し、乙の施設の一部を一時滞在施設として提供し運営すること。
- （2）帰宅困難者に対し、乙が備蓄する飲料水、食料等を提供すること。
- （3）帰宅困難者対策の活動拠点等に従事する人員を提供すること。
- （4）その他災害時要援護者への対応など、乙が甲に協力できる事項に関すること。

**2** 乙は、前項に規定する要請があった場合には、施設の被害や学生等の滞在状況等に応じて、甲との連携協力が可能な場合は、甲の要請の全部又は一部について受けるものとする。

**3** 乙は、甲の要請に基づき、帰宅困難者に対し乙が提供する備蓄物資等に不足が生じた場合は、甲に対し必要な備蓄物資等の提供を要請することができる。

（平常時からの連携協力の内容）

**第 3 条** 甲は、災害発生時に備え、平常時より帰宅困難者対策として、次に掲げる事項の全部又は一部について、乙に要請することができる。

- （1）備蓄物資や活動拠点用資器材を保管しておくための倉庫や場所等を提供すること。
- （2）災害時の応急対策活動を迅速に行うため、帰宅困難者対策訓練を実施すること。
- （3）その他の帰宅困難者対策で、乙が甲に協力できる事項に関すること。

**2** 乙は、前項に規定する要請があった場合には、教育・研究等の活動に支障がないと認められる場合は、甲との連携協力について、甲の要請の全部又は一部について受けるものとする。

**3** 乙は、甲の要請に基づき、第 1 項に規定する帰宅困難者対策に連携協力する場合は、甲に対し必要な範囲で支援を要請することができる。

(要請)

**第4条** 本協定に基づく要請は、協力を要請する理由、要請内容その他必要な事項を記載した文書により行うものとする。ただし、これにより難しい場合には、口頭で乙に要請することができる。

2 前項ただし書の場合においては、事後において速やかに文書を提出するものとする。

(一時滞在施設の開設期間等)

**第5条** 第2条第1項第1号に掲げる一時滞在施設の開設期間は、災害発生の日から3日以内とする。

2 甲は、災害の被害の状況等により、一時滞在施設の開設期間を延長する必要があると認められた場合には、甲乙協議のうえ、開設期間を延長することができる。

3 甲は、乙が早期に教育・研究等の活動を再開できるよう配慮するとともに、一時滞在施設の早期解消に努めるものとする。

4 甲は、一時滞在施設の開設が必要なくなった場合は、乙に対し、一時滞在施設の閉鎖の要請を文書で通知するものとする。ただし、これにより難しい場合には、口頭で乙に要請することができる。

5 前項ただし書の規定に基づき、口頭で乙に要請した場合は、事後において速やかに文書を提出するものとする。

(費用負担)

**第6条** 本協定に基づき、帰宅困難者を受け入れた場合に乙が供出した水・食料等の費用については、災害救助法（昭和22年法律第118号）の規定を参考とし、甲と乙の協議のうえ、甲が乙に支払うこととする。

(損害補償)

**第7条** 第2条の規定により、災害発生時に業務に従事した乙の勤務員（乙への協力者を含む。）が負傷し、もしくは疾病にかかり、又は死亡した場合は、豊島区防災業務従事者損害補償条例（平成17年豊島区条例第38号）の規定に基づき、これを補償するものとする。

2 甲の要請に基づき、帰宅困難者等の受入れを行う際に、乙及び第三者に発生した損害については、乙にその損害の発生原因について故意又は重大な過失がない限り、甲がその費用を負担するものとする。

3 乙は、甲の要請に基づき、帰宅困難者等の受入を行った際に、乙及び第三者に発生した損害について乙がその費用を負担した場合は、乙にその損害の発生原因について故意又は重大な過失がない限り、その費用相当分を甲に求償するものとする。

(有効期間)

**第8条** 本協定の有効期間は、平成25年12月18日から平成26年12月17日までとする。

ただし、期間満了の3か月前までに甲、乙いずれからも本協定の廃止又は見直しの申出がない場合は、引き続き1年間更新されるものとし、以降も同様とする。

(協議)

**第9条** この協定に定めのない事項及び協定に疑義が生じた場合は、甲乙協議のうえ、定めるものとする。

甲と乙は、この協定を証するため、本書2通を作成し、それぞれ記名押印のうえ、各1通を保有する。

平成25年12月13日

豊島区長 高野之夫 立教学院理事長 糸魚川順

## （２）東日本大震災復興支援本部の設置

震災の状況が次第に明らかになり、東北一帯が壊滅的な被害に遭ったことを受け、本学では災害復興に如何に寄与するか学の議論を経て、4月21日に「東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針」を策定し、「立教大学東日本大震災復興支援本部」を立ち上げ、復興支援活動に取り組んできた。

### ①東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針

（4月21日付 学内外に向けた告知文）

3月11日（金）に発生した東日本大震災は、日本全体に未曾有の社会的・経済的打撃を与えました。これまで本学は、「まずできることから始めよう」と考え、募金活動を通じた被災地の支援活動に取り組んできました。しかし、大震災の発生から1カ月を経て、被災地では、復興に向けた各種支援への期待がますます高まっています。

そこで、本学では、下記の通り「東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針」を策定し、全学的な連携・協力の下、被災地の復興支援をさらに進めていくことになりました。今後、本学が展開する被災地への支援は、この指針に基づいて組織的・継続的に行われます。本学では「共に生きる」ことを大切にしています。今こそ、この気持ちを被災者の方々のために、共に復興の道を歩むことで届けたいと考えます。

なお、本指針では、教職員・学生による、震災地支援のための自発的な取り組み（狭義のボランティア）については触れていませんが、これを妨げるものではありません。

### 【参考資料】

#### I. 活動指針

◎大学としての活動方針は、（１）復興支援活動全体の統括（下記のⅡ）、（２）大学主体としての復興支援活動（下記のⅢ）、（３）各部局等による復興支援活動（下記のⅣ）、の3領域をカバーします（活動体系）。

◎息の長い復興支援活動を展開します（活動時期）。

◎被災地での復興支援活動だけでなく、復興支援活動の企画立案や関東圏域での支援活動も視野に入れた活動を展開します（活動地域）。

◎教育、研究、及び社会貢献活動という大学業務のあらゆる分野において、復興支援活動を展開します（活動分野）。

◎復興支援活動にあたっては、教職員学生への事前研修事後のフォローやリスク管理を徹底するとともに、被災地域の人々のニーズに十分配慮します（活動倫理）。

#### Ⅱ. 復興支援活動全体の統括

本学に「立教大学東日本大震災復興支援本部」を設置します。同本部事務局は、本学ボランティアセンターに置きます。

同本部は、東日本大震災に係る本学の復興支援活動全体を統括し、活動にあたる各部局との連絡調整や本学の復興支援活動全体についての情報発信を行います。



### Ⅲ. 大学主体の復興支援活動

教育分野では、学内の教育活動奨励金制度等を通じて、ボランティアの単位化、サービ斯拉ーニング的展開の可能性の検討を行います。

研究分野では、学内の競争的研究助成金制度等を通じて、復興支援の在り方等に関する調査研究を行います。

社会連携分野では、ボランティアセンターを中心に教職員学生向けの災害救援系講座を開講し、被災地における復興支援活動の事前研修を行います。

### Ⅳ. 本学各部局による復興支援活動

本学は各部局による復興支援活動を幅広く支援します。本学が支援認定した復興支援活動には、教職員学生の参加を促します。本学が支援認定した復興支援活動には、必要に応じて財政支援を行うとともに、年度ごとの活動計画書と活動報告書等の提出公開を義務づけ、復興支援活動の透明化を図ります。

#### ②復興支援本部の設置

復興支援本部が設置され、陸前高田支援ボランティア活動の実施、ボランティアセンターを中心とした「東日本大震災復興支援セミナー」の開催、学生相談所等各部局と連携したボランティア事前研修会、公開講演会などを実施した。また、本部企画として陸前高田野球教室などのスポーツ交流、図書館支援、留学生スタディツアー、震災の風化を防ぐことを目的とした東京芸術劇場での交流展等の活動を各部局と連携し展開した。また 2013 年度より池袋キャンパスに復興支援交流スペースを開設し運用を開始した。

#### ③災害ボランティア援助金支援認定制度の整備

大震災で被災した東北一帯は本学が立地する東京や埼玉からは遠く、ボランティア活動を行うための交通費の一部補助を目的として、以下の支援認定制度を策定した。規程はその後、復興支援の長期化、学生の経済的負担の軽減の観点から見直しが行われ、各部局で実施される学生ボランティアに利用されている。

##### ■2012 年度支援認定プログラム

- ・コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト
- ・学生支援局 Three-S (Support Station by Students) による「ZeRo バスツアー」
- ・東日本大震災・RDY (立教生ができることをやろう) 支援プロジェクト——石巻でボランティアをしよう！先発隊
- ・生活支援・オーラルヒストリー・プロジェクト
- ・釜石市復興ボランティアおよび、釜石シーウェイブスや地元中学生との交流
- ・Small Group Communication 受講生有志による陸前高田支援英語ボランティア

## ■2013 年度支援認定プログラム

- ・唐桑における復興まちづくり支援活動「行こう、感じよう、考えよう」（東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト）
- ・コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト
- ・生活支援・ライフストーリー・プロジェクト
- ・唐桑における復興まちづくり支援活動「気仙沼市唐桑ツアー～自ら始める～」（東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト）
- ・立教大学 学生キリスト教団体 復興支援プロジェクト 東北巡礼キャラバン隊～よりそうための3日間～
- ・陸前高田復興支援 ―英語による課題解決型プログラム―

## 【参考資料】

### 立教大学災害ボランティア援助金規程

（趣旨）

第1条 この規程は、「立教大学災害ボランティア援助金（以下「援助金」という。）」の運用に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第2条 援助金は、本学学生のボランティア活動を活性化させるために、災害が発生した地域において復興支援ボランティア活動に参加する学生及びその主体となるボランティア活動の運営等に対する経済的支援を行うことを目的とする。

（支給対象）

第3条 援助金は、別に定める「立教大学支援ボランティア活動認定審査委員会」（以下「委員会」という。）により支援認定を受けた設置機関（以下「認定機関」という。）の災害ボランティア活動に参加する学生及びボランティア活動の運営等に対し支給する。

（援助金の使途基準）

第4条 認定機関は、委員会により決定された援助額を、ボランティア活動を行うために必要となる諸費用として、次の各号に掲げる基準に従って使用することができる。

- (1) ボランティア保険料 全額
- (2) 交通費及び宿泊費 別途定める。
- (3) 運営費等 申請に基づき判断する。

（事務）

第5条 援助金に関する事務は、認定機関の事務局が行う。

（改廃）

第6条 この規程の改廃は、総長が行う。

附 則

この規程は、2011年12月22日から施行する。

附 則

この規程は、2012年7月19日から施行する。

## ④勤務員ボランティア休暇制度の新設

立教学院専任勤務員が奉仕活動を通じて社会に貢献すること[ボランティア活動]を支援するため、2011年12月1日にボランティア休暇制度(年間5日間)が新設された。

### （３）立教大学学術推進特別重点資金（立教 SFR）東日本大震災・復興支援関連研究の募集

※立教 SFR : Rikkyo University Special Fund for Research

#### ① 設置の趣旨

立教 SFR(東日本大震災・復興支援関連研究)は、東日本大震災による被災地域の復興等に資することを目的とした個人またはプロジェクトチームが行う研究活動を助成する種目として新設するものである。取組内容が具体的で、災害復旧・復興等への効果が期待される研究活動を募集する。東日本大震災・復興支援という社会的課題に焦点を置いた本研究種目においては、特に研究成果の社会的な発信を重視していく。(提案資料より抜粋)

#### ② 採択された復興支援関連研究（2011～2013 年度採択分）

##### 共同研究

| 学部         | 研究者       | テーマ                                        | 年度          |
|------------|-----------|--------------------------------------------|-------------|
| 理学部        | 村田次郎（准教授） | 災害復興の為の環境放射能調査とその新規計測法の開発                  | 2011<br>－13 |
| 社会学部       | 間々田孝夫（教授） | 震災被害の格差に関する統計的社会調査による実証研究<br>－震災被害と社会階層の関連 | 2011<br>－13 |
| コミュニティ福祉学部 | 森本佳樹（教授）  | 被災地および被災者の支援のあり方に関する探索的研究<br>～生活者の視点から～    | 2011<br>－13 |
| 〃          | 大石和男（教授）  | 被災者に対する心理面への長期的で効果的な支援に向けた研究：ポジティブ心理学の応用   | 2012<br>－13 |
| 観光学部       | 橋本俊哉（教授）  | 観光資源の持続的活用による風評被害の克服に関する研究－福島県北塩原村を事例として－  | 2013<br>－15 |

##### 個人研究

| 学部              | 研究者         | テーマ                                    | 年度          |
|-----------------|-------------|----------------------------------------|-------------|
| 文学部             | 野中健一（教授）    | 東日本大震災による住民の食用野生生物資源への影響とその食文化を守るための研究 | 2011<br>－13 |
| コミュニティ福祉学部      | 空閑厚樹（准教授）   | 震災後復興構想における持続可能なコミュニティ形成の方法論に関する調査研究   | 2011<br>－13 |
| 異文化コミュニケーション研究科 | 上條直美（特任准教授） | 東日本大震災からはじまる学び－学校教育における実践事例研究          | 2011        |

（肩書きは当時）

## （４）在学生への対応 ー被災学生等への支援ー

大震災のあった 2011 年は 2010 年度の卒業式、2011 年度の入学式がともに中止となった。以下は、3 月 11 日の大震災発生時から 4 月 22 日の「復興支援活動指針」(上記)の策定・公示に至る、学生に対する本学の対応(HP 上での告知)を時系列にまとめたものである。

### ①東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 12 日付）

このたびの大規模地震発生直後、立教大学は、本学の学生・教職員に対してただちに、携帯電話を利用した緊急連絡システムから安否を照会する電子メールを一斉に送信し、教職員と学生の無事をほぼ確認しております。今後もさらにこの確認作業を進めてまいります。

なお、東京都の広域避難所として、市民を含む約 4,000 名の帰宅困難者に、翌 12 日（土）12 時頃まで、池袋キャンパスの教室を全面的に開放し、公共交通の正常化を確認の上で、池袋駅方面へご案内しました。新座キャンパスにおいても同様の措置を講じました。

### ②3 月 16 日（水）～22 日（火）における業務（3 月 15 日付）

本学では、昨日〔14 日（月）〕の段階で、19 日（土）まで一部の窓口業務を行う旨お伝えいたしましたが、その後の計画停電の実施やこれに伴う鉄道運行の休止・遅延、及び福島第 1 原子力発電所の事故対応の未収束等により、窓口業務を行うことが困難になりました。

つきましては、16 日（水）～22 日（火）までの間、すべての窓口業務をとりやめます。また、学生によるキャンパスへの入構を原則として禁止します。23 日（水）以降の業務については、後日ホームページに掲載いたします。

またこの期間も被災地出身の学生に対応するために、下記電話にて問い合わせの受け付けをします。

学生部【受付時間】：平日 10 時から 15 時、土曜日 10 時から 12 時

新座キャンパス事務部学生課【受付時間】：平日 10 時から 15 時、土曜日 10 時から 12 時  
状況の変化によっては対応できなくなる場合があります。ご了承下さい。

### ③卒業式等の中止（3 月 15 日付）

本学では、東日本大震災の影響による計画停電の実施やこれに伴う交通機関の混乱、福島第 1 原子力発電所の事故対応の未収束等に鑑み、下記の通り予定されていた卒業式等を中止します。

関東地方においても余震の続く状況では、多くの学生を一カ所に集めて行う式典は、安全面の考慮から控えざるを得ません。皆様のご理解をお願いします。

なお学位記や卒業証明書等の取扱いについては、後日ホームページに掲載します。

中止となる行事は以下の通りです。

3 月 24 日（木）

卒業礼拝、卒業式（社会学部・経営学部・観光学部・コミュニティ福祉学部・現代心理学部）

3 月 25 日（金）

卒業式（経済学部・文学部・理学部・法学部）、大学院学位授与式

3 月 23 日（水）

立教セカンドステージ大学修了式

### ④総長からの「卒業生へのメッセージ」動画配信のお知らせ（3 月 17 日付）

3 月 23 日（水）13 時頃から、総長からの「卒業生へのメッセージ」をホームページにおいて動画配信する予定です。卒業生や保護者の皆様には、卒業式等への出席に代えて、ぜひ自宅等においてご覧ください。

**⑤計画停電への対応と3月23日（水）から3月31日（木）までの大学業務（3月22日付）**

東日本大震災の影響で、計画停電が実施され、今後も、交通機関の正常な運行が確保されない状況が続くものと思われます。したがって、大学は、当面の対応として、3月23日（水）から3月31日（木）までの業務を以下の通りとします。皆さまのご理解とご協力をお願いします。  
※業務内容は割愛。

**⑥学位記および卒業（修了）証明書等の交付（3月23日付）**

学位記、卒業（修了）証明書、成績証明書および講座関係の免許状・修了証書は、以下のよう  
に交付します。  
日時・受付場所：3月24日（木）～ 25日（金）10:00～17:00／池袋キャンパス 5122 教室

**⑦2011 年度入学式の中止及び前期授業開始日変更（3月23日付）**

東日本大震災の影響による計画停電の実施やこれに伴う交通機関の混乱、福島第1原子力発電所の事故対応の未収束、および余震の断続的な発生など、関東地方の混乱は今なお続いています。  
こうした状況に鑑み、本学では、4月4日（月）、5日（火）に開催を予定していた2011年度の入学式を中止することにいたしました。また、前期授業開始日を5月6日（金）に延期いたします。これは、皆さんの安全や、計画停電中の授業実施の困難さを考慮した苦渋の決断によるものです。  
入学式の中止および前期授業開始の延期に伴い、「新入生オリエンテーション行事表」のうち「学生証等交付」を除いたすべてのプログラム、履修登録等の日程も4月中旬以降に変更することになりますが、現在、詳細について検討中です。決定次第あらためてホームページにてお知らせするとともに、郵送でお送りします（4月上旬を予定）。

**⑧新入生歓迎活動（3月24日付）**

4月1日（金）から4月9日（土）に予定されていた新入生歓迎活動（クラブ・サークルの勧誘やビラ配布）をこの期間には行わないこととしましたのでお知らせします。  
今後、新歓期間（クラブ・サークルの勧誘等）を設けるかについては検討中です。

**⑨奨学金を希望する方へ（新入生・在学生）（3月25日付）**

東日本大震災に伴う学費減免以外にも奨学金を希望する方や、被災の有無に関わらず奨学金を希望する方は、該当する下記の項目を確認のうえ、定められた期日までに手続きを行ってください。  
在学生の春季一括募集奨学金の日程変更についても下記3でご案内しております。  
1. 新入生：被災に伴う学費減免の申請を行う方  
2. 新入生：被災地域以外の方  
3. 在学生：春季一括募集奨学金に出願した方  
4. 在学生：これから奨学金を受けたい方  
5. 外国人留学生：これから奨学金を受けたい方（国際センター）

**⑩「2011 年度入学金・学費等の減免措置」等について（3月25日付）**

今回の災害等により、保証人（学費負担者）の方の家屋の被災状況が甚大、または収入状況の変化が著しいことが判明した場合は、2011 年度入学金・学費等の減免を申請することができます。

## 【資料】

2011 年度入学予定者（新入生）の方

### I. 対象者

2011 年度立教大学入学試験合格者（学部・大学院）のうち、本学への入学の意思を持つ方で、次の 1・2 の条件をともに満たす方。

1. 保証人（学費負担者）が、平成23年（2011年）東日本大震災にかかる災害救助法適用地域※1 において被災し、次の（a）～（c）のいずれかに該当する方。

（a）居住する住居が全壊（焼）、半壊（焼）または一部損壊した場合

（b）失職または自営業の維持もしくは再開の見通しが立たないこと等により収入の変化が生じた場合

（c）死亡、行方不明または負傷により入院等長期加療が必要となった場合※2

2. 入学金・学費等の減免措置を希望する方※3

※1 災害救助法適用地域は、下記を参照してください。

※2 災害救助法適用地域への単身赴任および出張等で被災された方も対象となります。

※3 減免内容は、提出書類に基づく被災の状況等を審査したうえで決定いたします。また、すでに入学金・学費等を納付済みの方には、審査の後、減免額を返還いたします。

＜災害救助法適用地域（2011 年 3 月 23 日現在の適用地域、東京都を除く）＞

青森県：1 市 1 町、宮城県：全 35 市町村、岩手県：全 34 市町村、福島県：全 59 市町村、新潟県：2 市 1 町、長野県：1 村、茨城県：28 市 7 町 2 村、栃木県：8 市 7 町、千葉県：3 市 1 町

### Ⅲ. 減免措置の基準

提出書類に基づく被災の状況に応じて、個別に審査し、2011 年度入学金・学費等の減免額を決定します。

### Ⅳ. 2012 年度以降の学費等の減免措置について

2011 年度に本措置による学費等減免を受けた 2011 年度入学予定者の 2012 年度以降の学費等の減免については、毎年度 4 月に学費負担者の所得等を確認のうえ、基準を満たした方について、措置の内容を決定いたします。

※2010 年度以前入学者（在学生）の方

2010 年度以前入学者（在学生）に対する 2011 年度の学費等の減免措置については、2011 年度入学予定者（新入生）に対する措置の「I. 対象者」、「II. 提出書類」、「IV. 減免措置の基準」を準用し、提出書類に基づく被災の状況に応じて、個別に審査し、2011 年度における学費等の減免額を決定します。「IV. 2012 年度以降の学費等の減免措置」については、留年者を除き同様の対応いたします。

#### ⑪4月1日（金）からの大学業務（3月29日付）

東日本大震災の影響で、計画停電が実施され、現在も交通機関の正常な運行が確保されない状況が続いていますが、4月1日（金）からは、下記の通り、大学事務局の窓口業務時間を通常に戻します。図書館の開館時間などは、それぞれのホームページでご確認ください。

#### ⑫ここに痛手を受けた方へ（学生相談所より）（4月1日付）

大きなショックに見舞われた際には、さまざまな形でこころの痛手が現れます。個人が受け止める痛手の大きさや深刻さは、被害の大きさにかかわらずません。そして、それらを言葉にして人に伝えることが回復につながります。ここに痛手を感じていらっしゃる方は、どうぞ学生相談所をお訪ねください。

自分や家族、知人が直接被害に遭っていなくても、このような出来事によって不安になったり、過去の体験がよみがえったりすることがあります。「気分が落ち着かない」「疲れが取れない」「眠りが浅い」というようなことがあったらご相談ください。

また、大きなショックによる影響は、1年後、2年後など時間がたってから現れることが多いものです。今は何も感じていなくても、「学生相談所」の存在を心に留めておいてください。

#### ⑬2011年度新入生オリエンテーション行事 日程・内容の変更について（4月8日付）

東日本大震災の影響により延期していた2011年度新入生オリエンテーション行事の日程・内容が決定しました。詳細は下記リンク先にてご確認ください。

※中止としたもの

・キャンパスライフオリエンテーション、先輩による「履修要項」読み方指南（ナビ）、奨学金説明会、キャンパスツアー、オープンチャペル、新入生キャンプ in 清里、新入生1DAYプログラム

#### ⑭新入生オリエンテーション期間の新歓活動（4月8日付）

立教大学では新入生オリエンテーション期間の変更に併せ新入生歓迎活動期間を設けることとしました。

#### ⑮新入生への総長からのメッセージ動画配信のお知らせ（4月14日付）

4月15日（金）15時より、新入生の皆さんに向けた吉岡総長からのメッセージをインターネット動画配信します。吉岡総長からのメッセージに加え、この動画では、広田立教学院院長からのメッセージ、立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊によるアンセムの奉唱、佐藤チャプレン長による祈祷の様子が配信します。

#### ⑯被災地域出身の本学学生の安否確認完了（4月22日付）

本学では東日本大震災発生以来、被災地域（青森県・岩手県・福島県・茨城県および千葉県沿岸部）出身のすべての在学生（本年3月に卒業した学生を含む）の安否確認作業を行ってまいりましたが、4月21日（木）時点で、全員の無事が確認されました。

#### ⑰被災後のこころのケアのためのリーフレット配布のお知らせ（4月25日付）

「震災で大切なものをなくした方たちへ～大きな危機をのりきるために～」

震災のこころへの影響は、時間を経て表れます。学生相談所では、被災した方たち、またその方たちを支える方たちのために、災害後の心身の変化や危険、回復への過程についてのリーフレットを作成しました。学生相談所・学生部・教務事務センター・チャペル・ボランティアセンター・新座事務部などの窓口においておりますのでご自由にお持ちください。

**⑮陸前高田「炭の家」での高齢者介護ボランティア募集（説明会 4/27）（4 月 25 日付）**

毎年学生部が行う「林業体験」のフィールド、岩手県陸前高田市矢作町生出地区にある「炭の家」では、被災された要介護高齢者の方々を受け入れています。

ボランティアセンターでは、立教大学と長く関わりのあるこの「炭の家」での介護ボランティアを募集します。

活動は5月9日～6月末までの約2か月間、各ボランティアが1週間交替で行う形です。

おのおのはたらきをつないでいくことによって、入居されている方々の生活の支えになることを願います。

今後地域の方々が落ち着いた生活を取り戻していくことに向かって、支援の思いをつなぐ立教のバトンを本学学生、校友の皆さまで渡していきます。

**⑯ヤコブ文庫による図書の贈呈（4 月 25 日付）**

ヤコブ文庫では、立教学院各校の児童・生徒・学生・大学院生を対象に勉学に必要な図書を贈呈します。

特に東日本大震災で被災された学生の方はぜひご応募ください。

**⑰立教大学への入学予定者および在學生で大震災により被災した地域の出身者を対象とした入学  
金免除・学費減免などの財政支援策の整備**

**【参考資料／（2011 年 4 月 6 日付 総長から在學生宛の文書）】**

このたびの東日本大震災で犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表します。

また、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

東日本大震災は、天災であると同時に、人間社会の根本を揺るがす未曾有の出来事です。私たちはこの事実を正面から見据え、可能な限りの支援活動を行うとともに、高等教育機関の使命として、困難の中から未来を切り開く青年の育成に、全力を注ぐ決意です。

以下に、本学による震災復興への支援活動をお伝えします。

**1. 被災した新入生・在學生への奨学支援について**

被災した新入生・在學生を支援するため、緊急の救援金を募集します。お寄せいただいた救援金は、被災学生への各種奨学支援に活用させていただきます。また、2011 年度入学金・学費等の減免措置も講じています。

勉学に必要な図書を贈呈する「ヤコブ文庫」もご利用ください。

**2. 被災地への義援金について**

被災地を支援するため、学内に募金箱を設置するとともに、義援金専用口座を開設しました。お寄せいただいた義援金は日本赤十字社に届け、被災者支援に活用させていただきます。

ご賛同いただけるすべての方々からのご支援を心よりお願い申し上げます。



【参考資料／2011 年 10 月 26 日付 受験生へのご案内】

**東日本大震災で被災された、2012 年度入学予定の方へ（2012 年度学費減免等について）**

「2012 年度東日本大震災にかかる入学金・学費減免等」の制度が決定しましたので、詳細をご確認ください。

**1. 立教大学 入学金・学費減免制度（2012 年度）**

申請資格：保証人または学費負担者が、平成 23（2011）年に発生した東日本大震災にかかる災害救助法適用地域（ただし東京都を除く）または福島原子力発電所事故に伴う避難地域において被災し、次の（A）または（B）に該当する方。

（A）居住する住居が全壊（焼）、半壊（焼）した方

（B）福島原子力発電所事故に伴う避難地域の指定を受け、避難している方

減免額：入学金の全額および 2012 年度学費の 1/2 額を減免します。

減免方法：入学金については全額を返還します。学費については 2012 年度分納 2 回目分を減免します。

**2. 立教大学東日本大震災経済支援給与奨学金（給付 返済不要）**

申請資格：

下記（1）～（3）のすべてに該当する方が申請できます。

（1）上記「1. 立教大学 入学金・学費減免制度」に申請する方

（2）下記「3. 日本学生支援機構奨学金」を受給する方

（3）収入の減少、支出の増大等により経済的に困窮している方

支給額：

文系学部学生年額 40 万円、理学部学生年額 60 万円を一括支給します（7 月入金予定）。また、一人暮らしをする学部学生のうち特に困窮度の高い者については、「ひとり暮らし応援奨学金（年額 20 万円）」を上乗せ支給します。

博士課程前期課程学生（法務研究科学生）30 万円、博士課程後期課程学生 40 万円を一括支給します（7 月入金予定）。

**② 総長から東日本大震災についてのメッセージを学生、教職員、保護者、校友に発信**

「考え続けること、覚えておくこと －1 年目の 3.11 のために－」（2012 年 3 月 11 日）

「記憶すること、学ぶこと －2 年目の 3.11 のために－」（2013 年 3 月 11 日）

「私たち自身の問題として －3 年目の 3.11 にあたって－」（2014 年 3 月 11 日）

## （５）陸前高田市を重点支援地域に設定、連携・交流協定の締結

立教大学にとって、東北地方は元来、日本聖公会による「農村伝道」の伝統（岩手県折壁地区等）があり、また 2003 年以降は学生部による「林業体験プログラム」が岩手県陸前高田市矢作町生出地区で始まり、宿泊所として町営の「炭の家」が提供されてきた。

陸前高田市と本学とは、震災前から積み上げてきた交流と繋がりがあり、3.11 以後はそれを深化させるものとして現地の人々に寄りそうことを念頭に活動が行われている。

陸前高田市を重点的にとらえるもうひとつの理由は、津波被害の深刻さによるもので、同市は太平洋沿岸の平野部に市の都市機能のほぼすべてが集中していたため、庁舎、社会福祉施設・図書館等の社会教育施設・文化施設・体育施設、医療衛生施設、消防防災施設、学校等が流出し、全半壊するに至った。このため、東北の被災地の中でも「津波による被害が最も深刻でかつ甚大な都市」とされている。



東北全域

### ■陸前高田市

岩手県の南東部、宮城県との県境にあり、太平洋に面した三陸海岸の一角を占める。「日本の渚百選」に選ばれた高田松原など、風光明媚な土地としても有名で、海産物の牡蠣は「広田湾の牡蠣」として首都圏や関西の老舗料理店で高級食材として扱われている。

### ■陸前高田市の被災状況

総人口 24,246 人（住基人口 平成 23 年 3 月 11 日現在）のうち、生存確認数が 22,180 人（平成 24 年 3 月 1 日時点）、死亡者数（震災分）は 1,691 人（市民で身元が判明し死亡届の出された人数）、行方不明者数 41 人（安否確認要請のあった人数）、確認調査中 16 人。市内での遺体発見数 1,555 人（平成 24 年 2 月 29 日現在＝市民以外を含む）。

（出所：陸前高田市公式発表資料）

## 陸前高田市 市域図



以下、協定の調印までを時系列に記す。

### ・2011 年 6 月、大学部長会における総長提案

「震災で甚大な被害を受けた陸前高田市との間で、本学が同市と培ってきた互恵関係に基づく復興支援の重点地域としての設定を学内外に表明したい」との総長発言を受け、陸前高田市を全学的な「重点支援地域」に指定することに決定。

### ・2011 年 11 月、「陸前高田 P T」発足

復興支援本部内に、「陸前高田復興支援活動構想プロジェクトチーム」を設置、教職員 8 名により構成。スポーツ、文化、教育、福祉、産業等の各分野について、具体的支援活動の構想を検討し、11 の試案として取りまとめた。これらが、順次、実現に向けて具体的に動き出した。

### ・2012 年 5 月、陸前高田市との連携・交流協定の締結

陸前高田市と本学が、長期にわたって、より多様な分野での連携・協力を実施するため、協定を締結した。

#### 【参考資料】

#### 陸前高田市と立教大学との連携及び交流に関する協定書

陸前高田市（以下「市」という）と立教大学（以下「大学」という）は、平成 15（2003）年度以来、市内矢作町生出地区における林業体験事業を通じて交流を深めてきた。市と大学の友好関係に基づき、東日本大震災に対する市の復興計画及び大学の復興支援・社会連携方針に沿って、互いに共通する課題解決や豊かな社会を創造する未来の人材を育成するために相互に連携及び協力することに合意し、次の通り協定を締結する。

#### （目的）

第 1 条 本協定は、市と大学が多様な分野で包括的に連携及び協力し、市の震災復興に向けた地域課

題の解決と地域活性化の実現、発展に寄与することを目的とする。

（連携及び協力内容）

第 2 条 市と大学は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携及び協力するものとする。

（1）教育、文化、福祉、産業等、市の地域活性化に関すること

（2）人材育成、交流事業などに関すること

（3）大学の教育、研究の発展に関すること

（4）その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること

（連絡調整窓口）

第 3 条 市と大学は、前条に掲げる事項の円滑な推進を図るため、それぞれに連絡調整のための窓口を設置するものとする。

（協議事項）

第 4 条 市と大学は、本協定に基づく連携及び協力の具体的な内容並びに成果の利用条件その他必要な事項について、その都度協議して定めるものとする。

（情報保護）

第 5 条 市と大学は、本協定に基づく連携及び協力にあたり、個人情報等の保護に留意するものとする。

（有効期間）

第 6 条 本協定の有効期間は、協定締結の日から 5 年間とする。ただし、有効期間満了の 2 カ月前までに、双方のいずれかからも改廃の申し入れがないときは、両者協議の上、更新するものとし、その後も同様とする。

（その他）

第 7 条 市と大学は、本協定に準じて立教学院各校（立教小学校、立教池袋中学校・高等学校、立教新座中学校・高等学校）に対して、連携及び協力を求めることができる。

第 8 条 本協定に定めのない事項または本協定の運用に関し疑義が生じた場合は、双方で協議の上決定するものとする。

本協定締結の証として本協定書を 2 通作成し、それぞれ署名の上各自 1 通を保有する。

平成 24 年 3 月 26 日

陸前高田市長 戸羽太

立教大学総長 吉岡知哉

## （６）復興支援本部体制の強化（2012 年 5 月）

2011 年 3 月 11 日の震災発生以降、様々な復興支援活動を行ってきたが、同年度末の活動総括の結果、支援本部が主催する活動と学内の学部・研究科等による活動との連携が不十分であったことが確認できた。そこで、復興支援本部体制そのものを見直し、制度の再構築と重点支援地域としての陸前高田への息の長い復興支援に向けた本学の役割の再確認を行った。

具体的には、各支援活動の統括、連絡調整を図ると共に、学内外への情報発信、学内諸活動の推進（支援活動認定）、支援本部主催活動の企画・実施をさらに組織を挙げて展開することにした。

様々な形で展開されている学生、教職員の取り組み、学部・研究科の活動について、それぞれの情報を共有し、相互の連携を高めるため、以下の会議体を設けて、オール立教の支援体制を強化することとなった。

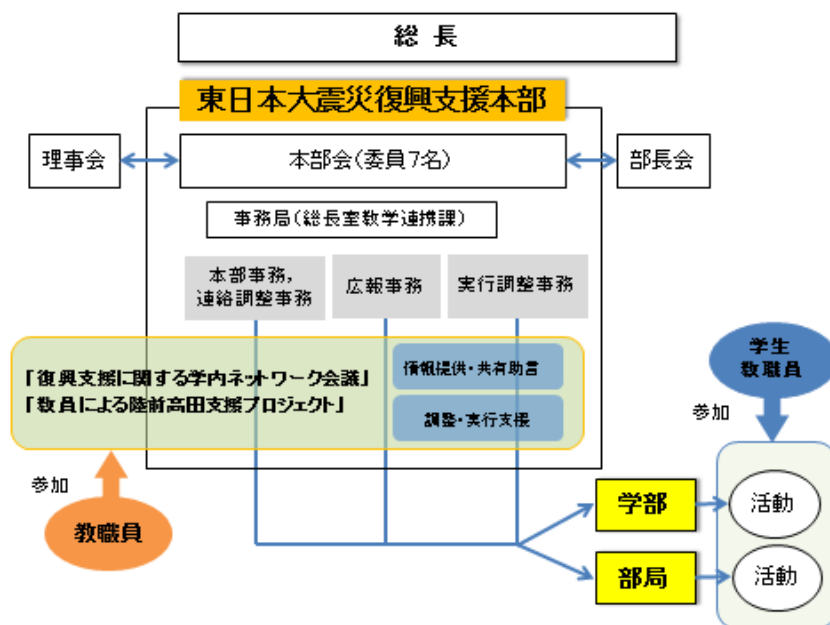
### ◇「立教大学復興支援ネットワーク会議」

学内で復興支援活動に取り組む教職員が参加し、情報の共有と相互の連携を図る。

### ◇「陸前高田支援教員プロジェクト」

教員の専門性を生かした支援活動を推進する。コミュニティ福祉学部・松山真教授、河東田教授等が市職員の業務をサポートする活動を行った。

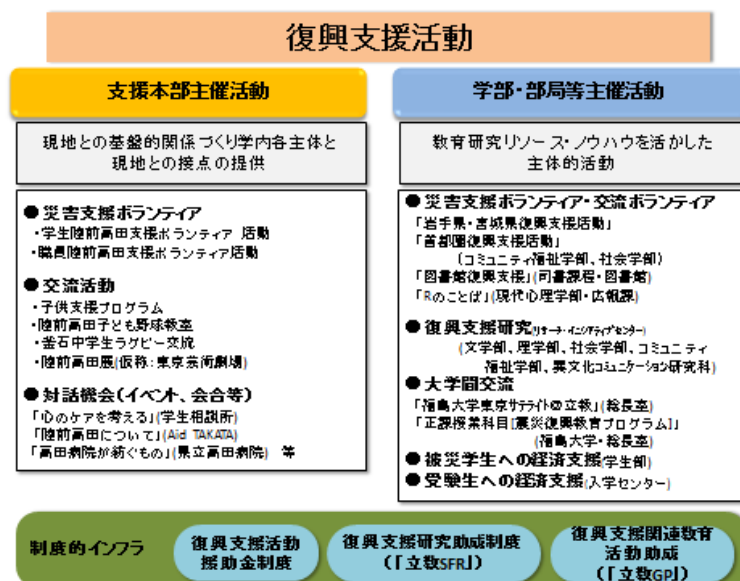
以上の復興支援本部の体制、学部等との関係を図示すると次のようになる。



復興支援本部会議は、活動方針に関する決定と情報共有の場。本部長は社会連携担当副総長が、副本部長としてボランティアセンター長、組織運営担当副総長、本部員として学生部長、総長室長、コミュニティ福祉学部教員、総長室教学連携課長で組織し、事務局としてボランティアセンター、総長室教学連携課が対応している。

学部、研究科、研究所、事務局、学生・教職員など、多様な主体から構成される「大学」という組織において、それぞれの意思を尊重した多様な復興支援活動が幅広く展開される環境を「復興支援本部」が提供する。

復興支援活動の枠組みを図示すると以下の通り。活動は、復興支援本部主催によるものと、学部・部局等が主催するものがある。



## 1. 活動の種類：

- ・がれきの撤去などを中心とした災害支援ボランティア
- ・仮設住宅での子供支援や住民との対話を通じた交流・傾聴ボランティア
- ・大学の「知」による支援活動研究。大学の既存の研究補助制度である「立教SFR」に新たに「東日本大震災・復興支援関連研究」を設け実施している。人文・社会科学、自然科学の分野から教育関連や環境放射能調査の計測法の開発等様々な分野で8件の取組が行われている。
- ・物的支援：募金活動、福島県立磐城高校図書館備品の提供等
- ・被災学生への経済支援：奨学金、入試選考料免除等の支援活動
- ・その他：福島大学との連携(東京サテライト@立教、正課授業の展開)、被災地での図書の整理、ラグビー部による釜石でのボランティア・ラグビー教室、野球部による野球教室、バレーボール部・女子バレーボール部によるバレーボール教室
- ・対話機会：被災地の現在、求められているもの等を知る講演会、東京芸術劇場との連携協定による「陸前高田展」の開催等

## 2. 活動の地域：

※陸前高田市の他にも、大学としてすでに多くの被災地と関わりを持っている。

- ・岩手県陸前高田市（重点支援地域）
- ・岩手県釜石市
- ・宮城県気仙沼市
- ・宮城県石巻市
- ・福島県いわき市、福島大学等
- ・首都圏(東京都練馬区・新宿区)では避難されている方々の支援

## 2. 大学としての取り組みーボランティア活動など

ここでは、東日本大震災復興支援本部が主催する活動および同本部が支援認定した学部等による活動を中心に記載する。

学生が被災地へ赴く際には、事前の準備・研修と事後の振り返りが必須事項となる。被災地の現状、立教大学と被災地との関わり、復興支援の方向性と課題…等を現地での諸注意と共に、何故被災地へ行くのか、いま被災地の人々は何を感じているのか、自分は復興支援のために何ができるのか、等について考えを深める。活動の内容は、被災地の瓦礫撤去に始まる災害支援から、土地のかさ上げが進行する時期での市民との交流や産業復興支援へと変化してきた。

※コミュニティ福祉学部復興支援推進室の取組は3.(P46～)に掲載。

### (1) 2011年度

#### ■陸前高田支援ボランティア＜夏季・秋季＞

|             |                                                                                                                                                                                    |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日         | 夏季：第1期 2011年8月7日（日）～8月11日（木）<br>第2期 8月21日（日）～8月25日（木）<br>第3期 8月28日（日）～9月1日（木）<br>第4期 9月4日（日）～9月8日（木）<br>第5期 9月11日（日）～9月15日（木）<br>秋季：第6期 11月2日（水）～11月6日（日）                          |
| 主催          | 立教大学東日本大震災復興支援本部                                                                                                                                                                   |
| 事務局         | 立教大学ボランティアセンター                                                                                                                                                                     |
| 説明会         | 池袋キャンパス：7月4日（月）、7月7日（木）<br>新座キャンパス：7月6日（水） ※いずれも昼休みに実施                                                                                                                             |
| 事前研修会       | 講義「心のケアを考える」（講師：山中淑江 現代心理学部教授、学生相談所カウンセラー）、講義「災害ボランティアの実際」（講師：宮崎賢哉 財団法人日本法制学会災害救援ボランティア推進委員会）、講義「陸前高田災害ボランティアセンターからのオリエンテーション」（講師：伊藤雅人、千葉竜也）、メンバー、引率スタッフとの顔合わせ、装備品などの確認、チャペルにて出発礼拝 |
| 参加者         | 計87名（男36名、女51名）                                                                                                                                                                    |
| 引率者         | 各期大学職員2名（男女各1）                                                                                                                                                                     |
| 活動コーディネーション | 各期ボランティアセンタースタッフ1名                                                                                                                                                                 |
| 現地受け入れ先     | 陸前高田市災害ボランティアセンター＝活動<br>ホロタイの郷「炭の家」（岩手県陸前高田市矢作町字清水川8-3）                                                                                                                            |
| 活動内容        | ・津波の被害を受けた市街地訪問後、主に沿岸部（小友、米崎地区）で活動<br>・小友地区旧小友駅前の側溝の泥出し（秋季）<br>・個人宅敷地内や農地の草刈・瓦礫の撤去、家具の運び出し、掃除<br>・漁港に打ち上げられた貝殻と瓦礫類の撤去、仕分け                                                          |

|         |                                                                                                                                                                                |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生田地区にて、地震で壊れた炭焼き窯の修復作業</li> <li>・地元消防団、教育委員会、市職員、災害VCスタッフからお話を聴く</li> <li>・振り返りとして、毎日感想を述べ合った</li> </ul>                               |
| 事後プログラム | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加学生各自の振り返りレポートを文集化して現地と大学に配布</li> <li>・参加者全員を対象に事後プログラムを実施</li> </ul>                                                                 |
| 備考      | <p>説明会には、池袋・新座キャンパスを合わせて320名の学生が参加し、被災地支援への関心の高さが伺えた（実際の申込者数は87名）。</p> <p>事前研修会は参加必須とし、陸前高田市でボランティア活動をされている方々をお招きして震災直後の状況等を伺った。</p> <p>学生に「活動参加の栞」、引率者に「スタッフマニュアル」を作成、配布。</p> |

### ■夏休みに東北でボランティアをしよう

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2011年8月16日（火）～（1～6期）                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 主催   | 社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 協力   | RQ市民災害救援センター・ピースボート災害ボランティアセンター                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 場所   | 宮城県本吉郡南三陸町・宮城県石巻市                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 参加   | <p>1期：8月16日（火）～8月22日（月）2名</p> <p>2期：8月16日（火）～8月20日（土）7名</p> <p>3期：8月19日（金）～8月27日（土）1名</p> <p>4期：8月23日（火）～8月27日（土）2名</p> <p>5期：8月30日（火）～9月3日（土）11名</p> <p>6期：9月13日（火）～9月17日（土）6名      合計 29名</p> <p>8月16日からの4泊5日については、RQ市民災害救援センターを通して南三陸町へ派遣、それ以外の日程はピースボート災害ボランティアセンターを通して石巻へ派遣した。</p> |
| 趣旨   | 震災に関連したボランティアへ参加したいという意欲はあるものの、活動に踏みきれない学生に対して、池袋キャンパス内にある本プロジェクトを通してより多くの学生に活動の機会を開く。                                                                                                                                                                                                  |
| 活動内容 | RQ市民災害救援センター・ピースボート災害ボランティアセンターと協力し南三陸町および石巻市における支援活動へ学生を派遣。参加学生は各団体の指示のもと、支援活動に従事した。                                                                                                                                                                                                   |

### ■職員ボランティア

|      |                                                                                           |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2011年12月2日（金）～4日（日）                                                                       |
| 主催   | 東日本大震災復興支援本部                                                                              |
| 活動内容 | 瓦礫撤去、個人宅片付け、農地などの整備、仮設住宅での生活支援など。戸羽市長をはじめ、地元の方々からお話を伺った。6名が「ボランティア休暇制度(P.9)」を利用しての参加となった。 |
| 宿泊先  | 陸前高田市生田地区    ホロタイの郷「炭の家」                                                                  |



### ■子ども支援ボランティア

|     |                                                                                                                              |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2011年12月16日（金）～3月                                                                                                            |
| 主催  | 東日本大震災復興支援本部                                                                                                                 |
| 概要  | 長部地区・広田地区にて、現地住民プロジェクト「P@CT」主催の学習支援活動「みちくさルーム」への参加による小中学生への支援。<br>1泊3日のコースを延べ6期開催（参加学生総数約40名）。これを機に、旧広田水産高校仮設住宅の住民全体との交流へ発展。 |

### ■冬休みに東北でボランティアをしよう

|      |                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2012年1月6日（金）～（1～3期）                                                                    |
| 主催   | 社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト                                                 |
| 協力   | ピースボート災害ボランティアセンター                                                                     |
| 場所   | 宮城県石巻市                                                                                 |
| 参加   | 1期：1月6日（金）～1月9日（月）2名<br>2期：1月13日（金）～1月16日（月）4名<br>3期：2月3日（金）～2月11日（土）2名      合計8名      |
| 趣旨   | 震災に関連したボランティアへ参加したいという意欲はあるものの、活動に踏みきれない学生に対して、池袋キャンパス内にある本プロジェクトを通してより多くの学生に活動の機会を開く。 |
| 活動内容 | ピースボート災害ボランティアセンターと協力し石巻市における支援活動へ学生を派遣。参加学生は各団体の指示のもと、支援活動に従事した。                      |

### ■図書館再生支援ボランティア

|         |                                                                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日     | 2012年2月22日（水）～2月25日（土）                                                                                     |
| 主催      | 学校・社会教育講座司書課程                                                                                              |
| 概要      | 全国からの寄贈図書が保管されている生出小学校にて、市教育委員会と岩手県立図書館との連携・協力により、建設が進められている仮設図書館への移送に向けた図書の整理作業を学生が担当。司書課程を中心とする学生11名が参加。 |
| 事前研修会   | 2012年2月4日（土）13：00<br>①ボランティア派遣の目的<br>②陸前高田の紹介、被災地・被災者と接すること（山中淑江カウンセラー）<br>③事前準備、生活上の注意                    |
| 活動内容    | ①寄贈図書の仕分け・選定 ②選定図書の分類・書誌データの入力                                                                             |
| 協働作業    | 岩手県立図書館（3名）、陸前高田市教育委員会（3名）                                                                                 |
| 事前調整、仲介 | 生出地区コミュニティ推進協議会                                                                                            |

### ■陸前高田市追悼式への参加

|     |                                                                |
|-----|----------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2012年3月11日（日）                                                  |
| 主催  | 陸前高田市                                                          |
| 参加  | 西田東日本大震災復興支援本部副本部長                                             |
| 概要  | 陸前高田市を重点支援地域とし、連携・交流協定を結んだ本学から同市追悼式に立教大学として参加し弔意をお伝えした。関係者と懇談。 |

## （２）2012年度

### ■陸前高田市との連携・交流協定調印式

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2012年5月23日（水）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 場所  | 陸前高田市役所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 概要  | <p>調印式では、戸羽太市長と吉岡知哉総長が協定書を取り交わした。本協定に基づき、陸前高田市と立教大学は、同市の復興に向けた地域課題の解決と地域活性化の実現、発展に寄与することを目的として、教育・文化・福祉・産業等、市の地域活性化に関すること、人材育成・交流事業に関すること、大学の研究・発展に関することなど、多様な分野で包括的に連携・協力することとなった。</p> <p>本協定に基づき、立教大学は、陸前高田復興支援ボランティア、子ども支援ボランティア、図書館再生支援など、2011年度に実施した復興支援活動の継続に加えて、震災の影響により昨年中止した林業体験プログラムの再開、同市小友地区にコミュニティ福祉学部が開設した「高田サポートハウス」を拠点とした地域交流活動、体育会硬式野球部による少年野球教室の開催、現代心理学部による映像プロジェクト「Rのことば」、経営学部学生による活動など、さまざまな取り組みを実施する。</p> |

### ■映像ビデオ『Rのことば』制作

|     |                                                                                                                                          |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2012年5月～2013年3月                                                                                                                          |
| 担当  | 現代心理学部、広報課                                                                                                                               |
| 概要  | <p>陸前高田市の日常や今後の復興への思い、そして将来の夢を、陸前高田市の人々が語り、その模様を映像化して、語り継ぎ発信していくためのプロジェクト。</p> <p>映像は、佐藤一彦教授（現代心理学部映像身体学科）が監修し、同学科の学生たちも制作に携わった。</p>     |
|     | <p>Vol.1：戸羽太氏（陸前高田市長）</p> <p>Vol.2：村上知幸氏（陸前高田市秘書係長、高田野球スポーツ少年団監督）</p> <p>Vol.3：河野和義氏（八木澤商店会長）</p> <p>※DVDを作成、陸前高田市・立教大学のWebサイト上でも公開。</p> |

### ■子ども支援ボランティア

|         |                                                                                                                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日     | 2012年5月26日（土）～27日（日）、7月7日（土）～8日（日）、8月15日（水）～16日（木）                                                                                                         |
| 主催      | ボランティアセンター                                                                                                                                                 |
| 概 要     | 陸前高田市旧広田水産高校仮設住宅、NPO法人P@CTと連携                                                                                                                              |
| 活動受け入れ先 | 市民団体P@CT：伊藤雅人氏（陸前高田市社会福祉協議会職員）、旧広田水産高校仮設住宅自治会、NPO難民支援協会                                                                                                    |
| 活動内容    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元ボランティア組織P@CT主催の「みちくさルーム」で小学生の学習支援</li> <li>・仮設住宅自治会主催の草刈、落ち葉撤去作業に参加</li> <li>・住民との交流（バーベキュー大会、高田音頭など）</li> </ul> |

### ■生活支援・オーラルヒストリー・プロジェクト（東京都新宿区）

|      |                                                                                                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2012年7月14日（土）～随時                                                                                                                                 |
| 主催   | 社会学部                                                                                                                                             |
| 協力   | 新宿区社会福祉協議会・Joy Study Project                                                                                                                     |
| 場所   | 都営百人町アパート（東京都新宿区）                                                                                                                                |
| 趣旨   | ボランティア活動を通して関係を作り、避難者のライフストーリー／オーラルヒストリーの聞き取りを行う。                                                                                                |
| 活動内容 | 被災地からの避難者が居住する都営アパートにて新宿区社会福祉協議会・Joy Study Projectが開催しているサロン活動「さんさん広場」、および夏祭り「さんさん祭り」に参加。活動を通して避難者との交流をはかり、関係ができた避難者のライフストーリー／オーラルヒストリーの聞き取りを行う。 |

### ■職員ボランティア

|      |                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2012年6月29日（金）～7月1日（日）                                                          |
| 主催   | 東日本大震災復興支援本部                                                                   |
| 概 要  | 陸前高田市災害ボランティアセンターを通じて、個人宅片付け、中学校グラウンド整地手伝い。15名参加。                              |
| 宿泊先  | 生出地区ホロタイの郷「炭の家」                                                                |
| 活動内容 | 陸前高田市役所訪問、八木澤商店訪問、陸前高田市内見学（旧市役所、図書館、体育館、一本松）、講演会（市職員・大和田氏）、瓦礫撤去、個人宅片付け（市内小友町）。 |

### ■立教野球教室@陸前高田（第1回）

|     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 実施日 | 2012年7月8日（日）                      |
| 主催  | 体育会野球部、学生部（共催：陸前高田市スポーツ少年団）       |
| 場所  | 長部小学校仮設グラウンド                      |
| 参加  | 野球部部員20名、陸前高田市内の野球チーム（3チーム）より約90名 |

|      |                                                                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動内容 | 立教大学野球部員が、少年野球チームに野球の基礎（外野・内野・バッテリー）を指導し、ピッチング、バッティング等の模範プレーを披露。                                                        |
| 趣旨   | 野球教室を通じて、陸前高田市の子どもたちが、物事に真摯に取り組む姿勢や、人と協力して何かを成し遂げることの素晴らしさ、困難な状況も自ら打開していくことの大切さに気付く機会をつくるとともに、学生自身にとっての貴重な学びの場となることを期待。 |
| 備考   | 事前勉強会を実施。内容：陸前高田市における本学の復興支援の取り組み、陸前高田市の津波被害について（津波映像、被害状況及び陸前高田市で生きる人々）、「Rのことば」視聴（7月4日新座キャンパス）。                        |

#### ■ 広田町仮設住宅での盆踊り大会

|     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 実施日 | 2012年8月15日（水）                     |
| 主催  | ボランティアセンター                        |
| 概要  | 旧広田水産高校仮設住宅夏祭り実行委員会と立教学生盆踊り委員会の共催 |

#### ■ 陸前高田支援ボランティア＜夏季・秋季＞

|      |                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 夏季：第1期 2012年8月8日（水）～12日（日）<br>第2期 8月22日（水）～26日（日）<br>第3期 9月12日（水）～16日（日）<br>秋季：第4期 11月1日（木）～5日（月）                                                                |
| 主催   | 東日本大震災復興支援本部                                                                                                                                                     |
| 参加   | 各期学生15名、計60名。引率職員3名。                                                                                                                                             |
| 活動内容 | 市内の小友地区と横田地区で沿道整備（安全柵の製作と設置等）、学童保育での児童との遊び・学習支援、災害ボランティアセンターを通じて泥の掻き出し作業など。<br>受入れ先の小友地区の新田部落会、横田地区の「たけのこ学童クラブ」の方々との交流。宿泊先ホロタイの郷「炭の家」では陸前高田市役所職員や地元住民の方々のお話を伺った。 |

#### ■ 釜石市復興ボランティアおよび、釜石シーウェイブスや地元中学生との交流

|     |                                                                                              |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2012年8月8日（水）～10日（金）                                                                          |
| 主催  | 体育会ラグビー部、学生部                                                                                 |
| 場所  | 岩手県釜石市                                                                                       |
| 参加  | ラグビー部部員61名。引率教員1名。                                                                           |
| 趣旨  | 釜石市復興ボランティア活動として、またラグビーの名門釜石シーウェイブスの協力の下、地元中学生ラガーとの交流をはかる。                                   |
| 概要  | 釜石市内の瓦礫清掃、津波から生還した方々による講話、2019年ラグビーワールドカップ（日本開催）の釜石市誘致に向けてフラッグの設置、釜石シーウェイブスおよび釜石市中学生ラガーとの交流。 |

■生活支援・オーラルヒストリー・プロジェクト（大槌町・陸前高田市）

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 第1期：2012年9月10日（月）～14日（金）、第2期：11月4日（日）～7日（水）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 主催   | 社会学部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 協力   | 特定非営利活動法人「まちづくり・ぐるっとおおつち」、大槌町役場、陸前高田市役所、陸前高田市災害ボランティアセンター、陸前高田市小友町新田部落会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 場所   | 岩手県上閉伊郡大槌町、岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市唐桑町                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 参加   | 教員3名、桜井ゼミ学生16名、院生3名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 趣旨   | 本プロジェクトは、被災者のニーズに応じた生活支援をおこない、併せて3.11経験を中心に被災者の生活史を傾聴することで人びとのオーラルヒストリーをアーカイヴ化することを目標とする。なお、このアーカイヴ化を将来的に、社会学部のプロジェクトおよび学部横断的に立教大学として継続することが望ましいと代表者は考えており、今後のアーカイヴ化に向けた本格的なプロジェクト企画の実現可能性を探る試みでもある。                                                                                                                                                                                                                       |
| 活動内容 | <p>第1期：</p> <p>大槌町：「ぐるっとおおつち」のキッチンカーでの仮設住宅への弁当配達、大槌復興農園「兼沢農園」で農作業を行った。活動を通じて住民と交流し、「おらが大槌復興食堂」・「兼沢農園」関係者・「ぐるっとおおつち」関係者などへのインタビューを実施した。</p> <p>陸前高田市：小友町の新田部落会による研修会・同町でのボランティア活動、ボランティアセンターのコーディネートによる瓦礫処理などのボランティア活動を行った。活動を通じて知り合ったり紹介されたりした8名の方にインタビューを実施した。</p> <p>第2期：</p> <p>完成したインタビューのトランスクリプトを本人に渡し、今後の編集方針とトランスクリプトの保管、公開に向けた許諾をとった。また数名に追加インタビューと新規のインタビューを行った。</p> <p>トランスクリプト集『震災経験のライフストーリー2012年度』を制作した。</p> |

■石巻でボランティアをしよう！先発隊

|      |                                        |
|------|----------------------------------------|
| 実施日  | 2012年8月1日（水）～4日（土）                     |
| 主催   | 社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト |
| 協力   | 特定非営利活動法人パルシック（PRCIC）                  |
| 場所   | 宮城県石巻市北上町                              |
| 参加   | 教員1名、学生4名                              |
| 趣旨   | 現地支援活動への参加および今後の活動に向けた関係づくり            |
| 活動内容 | 「パルシック」の農業復興支援プロジェクトに参加し、畑に残された細かな     |

|  |                                                                                                                                                                                                                                    |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>瓦礫の撤去や草取り、仮設住宅住民向けの農園での収穫、選別、販売の手伝いなどを行った。加えて、仮設住宅で開催するお茶っこのチラシ配りや、交流花壇の草取りの手伝いなども行い、地域住民や「パルシック」職員と交流を深めた。</p> <p>2012年度の学園祭では、「パルシック」の漁業復興支援プロジェクトで支援している北上町産わかめを購入し、現地の状況を紹介しつつ、わかめスープとして販売した。同時に募金活動も行い、石巻市へ義援金として送付した。</p> |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### ■図書館施設備品の寄贈

|        |                                                                              |
|--------|------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012年11月7日（水）                                                                |
| 主催     | 東日本大震災復興支援本部、図書館                                                             |
| 概要     | 旧図書館で使用していた備品について、被災した宮城県および岩手県の高校等に寄贈を実施した。                                 |
| 寄贈先・内容 | 陸前高田市内の小中学校（7校）、市教育委員会、岩手県大槌町立図書館、福島県立磐城高等学校、福島県立いわき海星高等学校に、閲覧机10台・椅子188脚を寄贈 |

#### ■英語ワークショップ陸前高田英語ボランティアby Small Group Communication 有志

|     |                                                                                                                                                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2012年11月24日（土）～25日（日）                                                                                                                                                                                |
| 主催  | 経営学部                                                                                                                                                                                                 |
| 参加  | 経営学部学生12名                                                                                                                                                                                            |
| 場所  | 陸前高田市教育委員会「学びの部屋」                                                                                                                                                                                    |
| 概 要 | 経営学部の専門科目『Small Group Communication (SGC)』の受講生有志による英語・国際交流ボランティア活動を実施。同学部の松永正樹助教が引率し、アメリカ、イギリス、韓国、デンマーク、ニュージーランドからの留学生9名を含む12名のSGC受講生有志が陸前高田市を訪れ、気仙沼地域を含む現地視察と共に、地元の中学生たちと英語を使いながら触れ合うボランティア活動に従事した。 |

#### ■戸羽太陸前高田市長が本学を訪問、東京芸術劇場にて講演会

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 実施日 | 2012年12月8日（土）     |
| 主催  | 立教大学              |
| 概 要 | 演題：「被災地の本当の話をしよう」 |

■「つながる。陸前高田と立教大学」交流展～東日本大震災を忘れないために～(第1回)

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 実施日 | 2012年12月5日（水）～16日（日）             |
| 主催  | 立教大学                             |
| 共催  | 東京芸術劇場、陸前高田市                     |
| 企画  | 特定非営利活動法人陸前高田支援連絡協議会（Aid TAKATA） |
| 概 要 | 総来場者1,200名                       |

※展示パネルの詳細は、（４）つながる。「陸前高田と立教大学」交流展 で紹介。

■陸前高田市広田地区仮設住宅における傾聴ボランティア

|     |                                                                               |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 第1班：2013年2月19日（火）、第2班：2月27日（水）                                                |
| 主催  | ボランティアセンター                                                                    |
| 概 要 | 広田町自主防災会より、住民の被災体験を聞き取って記録化してほしいとの依頼を受けて実施。<br>参加学生：第1班4名、第2班5名、現地調整役：1名 計10名 |

■陸前高田市追悼式への参加

|     |                                                                |
|-----|----------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年3月10日（日）                                                  |
| 主催  | 陸前高田市                                                          |
| 参加  | 西田東日本大震災復興支援本部副本部長                                             |
| 概要  | 陸前高田市を重点支援地域とし、連携・交流協定を結んだ本学から同市追悼式に立教大学として参加し弔意をお伝えした。関係者と懇談。 |

### （３）2013年度

■唐桑における復興まちづくり支援活動「行こう、感じよう、考えよう」／「若者でもできること、若者だからできること」／「気仙沼市唐桑ツアー～自ら始める～」

|      |                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2013年4月30日(火)～5月3日(金)、8月4日(日)～7日(水)、<br>12月21日(土)～24日(火)                          |
| 主催   | 社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト                                            |
| 協力   | からくわ丸                                                                             |
| 場所   | 宮城県気仙沼市唐桑町                                                                        |
| 参加   | 4月：教員1名、学生10名、8月：教員2名、学生5名、<br>12月：教員2名、学生9名                                      |
| 趣旨   | 被災地を訪れたことがない学生が支援活動に参加するきっかけを開く。また、復興まちづくり活動に協力するとともに、今後継続的に唐桑町で活動を行うことができる基盤を作る。 |
| 活動内容 | 気仙沼市唐桑町で復興まちづくりに取り組む「からくわ丸」の活動に参加。                                                |

|  |                                                                                                                                                                                                                                     |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>「からくわ丸」メンバーに町を案内してもらいつつ地元住民と交流する「唐桑ツアー」、まち歩きによって町の魅力を再発見し記録する「あるもの探し」、地元住民から郷土料理を教わりレシピに残す「クッキングまんま」、仮設住宅集会室でのストラップ作り、クリスマスイベント「メリーカラクワス」などに参加した。活動を通して、地元住民やからくわ丸メンバーと交流した。また、宿泊先の唐桑御殿「つなかん」の女将からは震災時の経験談を伺い、参加者全員で意見を交わした。</p> |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### ■「つながる。陸前高田と立教大学」交流展 学内パネル展示

|     |                                                                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | <p>2013年5月21日(火)～27日(月) 池袋キャンパス<br/>2013年6月4日(火)～10日(月) 新座キャンパス</p>                                                 |
| 主催  | 東日本大震災復興支援本部、教学連携課                                                                                                  |
| 概要  | <p>学生および教職員に東日本大震災、陸前高田と本学の関係、本学のボランティア活動について伝える機会とし、大学が呼びかける復興支援ボランティアへの関心を促した。2012年12月に東京芸術劇場で開催した交流展のパネルを展示。</p> |

#### ■陸前高田市立（仮設）図書館への書架寄贈

|     |                                                                             |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年6月12日（水）                                                               |
| 主催  | 東日本大震災復興支援本部、学校・社会教育講座事務室、図書館                                               |
| 概要  | <p>新図書館建築に伴い旧図書館本館で使用していた書架を、陸前高田市立（仮設）図書館および書庫として利用している米崎小、高田小、竹駒小に寄贈。</p> |

#### ■陸前高田スタディツアー（第1回）

|      |                                                                                                      |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2013年6月15日（土）～16日（日）                                                                                 |
| 主催   | 東日本大震災復興支援本部、国際センター                                                                                  |
| 参加   | 29名／留学生12名(韓国、中国、ルウェー、アメリカ、フランス、ポーランド、オランダ、オーストラリア)、日本人学生17名                                         |
| 趣旨   | <p>海外からの留学生及び在学中に海外留学を予定している日本人学生を対象に実施。気仙沼市、陸前高田市の被災現状を知ると共に、震災後の復興について考える機会を提供。</p>                |
| 活動内容 | <p>気仙沼市、陸前高田市の被災地を地元の方にご案内・ご説明いただく。宿舎にて陸前高田市役所職員の方による講演。陸前高田市内および気仙大工左官伝承館を見学。震災当時の様子を伺い現地の方と交流。</p> |
| 備考   | 事前研修会を日本語と英語で開催。                                                                                     |



■立教大学「野球教室」@陸前高田市（第2回）

|      |                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2013年7月7日（日）                                                    |
| 主催   | 東日本大震災復興支援本部                                                    |
| 場所   | 陸前高田市立第一中学校仮設グラウンド                                              |
| 参加   | 野球部部員22名、市立第一中学校・市立気仙中学校野球部部員約50名                               |
| 活動内容 | 野球の基礎を学ぶ（守備・打撃、バッテリーのコーチング等）。その他、野球部員がピッチング、バッティング等の模範プレーを披露する。 |
| 備考   | 今年度は中学生を対象に実施。                                                  |

■協定締結1周年 本学総長、復興支援本部長ら陸前高田市を訪問

|     |                                                                               |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年7月17日（水）                                                                 |
| 主催  | 東日本大震災復興支援本部                                                                  |
| 場所  | 陸前高田市役所                                                                       |
| 内容  | 市との協定締結1周年を機に、吉岡総長、西原本部長、西田副本部長、松山調査役らが市を訪問し、共同で記者会見（「これまでおよびこれからの支援の報告」）を実施。 |

■「陸前高田支援教員プロジェクト」始動

|     |                                           |
|-----|-------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年7月～                                  |
| 概要  | 本学教員自らの専門性を活かし支援活動をする専任教員5名のプロジェクトチームが発足。 |

■立教大学「バレーボール教室」@陸前高田市（第1回）

|      |                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2013年8月25日（日）                                                                                     |
| 主催   | 東日本大震災復興支援本部                                                                                      |
| 協力   | 気仙バレーボールスポーツ少年団監督菅野洋氏（陸前高田市役所農林水産部）                                                               |
| 場所   | 市立矢作小学校体育館（旧下矢作小学校体育館）                                                                            |
| 参加   | （立教）体育会バレーボール部13名、女子バレーボール部19名<br>（陸前高田）下矢作VBSS、竹駒VBSS、米崎フェニックス、広田ブルードルフィンズ、気仙バレーボールスポーツ少年団より約60名 |
| 活動内容 | バレーボール部部員と共に、体作り運動やボールを使ったウォーミングアップ、パス・サーブ・スパイクの練習、試合形式でのゲームなど。                                   |
| 概 要： | 陸前高田市は小学生から高校生までバレーボールが盛んな地域であり、各世代での全国大会への出場経験を持つ。昨年度実施した野球教室と同様に、体育会バレーボール部の協力を得てバレーボール教室を開催。   |
| 備考   | 事前勉強会を実施（8月20日新座キャンパス）。                                                                           |

### ■陸前高田支援ボランティア＜夏季・秋季＞

|     |                                                                                        |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 夏季：第1期：2013年8月4日(日)～8月8日(木)<br>第2期：2013年8月22日(木)～8月26日(月)<br>秋季：2013年11月1日(金)～11月5日(火) |
| 主催  | 東日本大震災復興支援本部                                                                           |
| 参加  | 各期とも学生15名、職員3名                                                                         |
| 概 要 | 小友町新田地区を中心に、ボランティア活動を通じて、住民の皆様と対話・交流を促進。NPO法人P@CTの紹介で、古川沼地域での遺品類拾い上げ作業に参加。             |

### ■経済学部教員が陸前高田市を訪問

|     |                                                                          |
|-----|--------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年9月5日（木）～6日（金）                                                       |
| 主催  | 経済学部                                                                     |
| 参加者 | 郭洋春（経済学部長、教授）、池上岳彦（経済学部教授）、櫻井公人（経済学部教授）                                  |
| 概要  | 被災地の現状を把握すると共に、復興支援活動の可能性を探るために、陸前高田市の戸羽市長、財政課長、市議会議員、企業経営者、地元の方々と懇談、協議。 |

### ■生活支援・ライフストーリー・プロジェクト

|      |                                                                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 第1期：2013年9月12日（木）～17日（火）<br>第2期：2013年10月31日（木）～11月2日（土）                                                                                                         |
| 主催   | 社会学部                                                                                                                                                            |
| 協力   | 特定非営利活動法人「まちづくり・ぐるっとおおつち」、大槌町役場、陸前高田市役所、陸前高田市小友町新田部落会                                                                                                           |
| 場所   | 岩手県上閉伊郡大槌町、岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市唐桑町                                                                                                                                  |
| 参加   | 教員4名、「震災のフィールドワーク」受講者・桜井ゼミ学生22名、院生3名                                                                                                                            |
| 趣旨   | 被災者のニーズに応じた生活支援を行うと共に、3.11の経験を中心に被災者の人びとのライフストーリーの傾聴・対話を通して、被災者が直面する現在の困難や希望を理解しエンパワーする。自らの経験を語りつぐ意義を認めた被災者については、そのライフストーリーをアーカイヴ化し、その経験を持続的な復興への橋渡しとすることをめざす。  |
| 活動内容 | 第1期：<br>大槌町：仮設住宅で「おちゃっこ」をして入居者と飲食と懇談、大槌復興農園「兼沢農園」で援農、地元住民に被災経験を中心にライフストーリー・インタビューを実施した。<br>陸前高田市・唐桑町：小友町にて道路側溝の整備と新田部落会による研修、唐桑町にて被災家財道具の片付けの手伝い、地元住民およびボランティア参 |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>加者へのライフストーリー・インタビューを実施した。</p> <p>第2期：</p> <p>完成したインタビューのトランスクリプトを本人に渡し、今後の編集方針とトランスクリプトの保管、公開に向けた許諾をとった。また数名に追加インタビューと新規のインタビューを行った。</p> <p>トランスクリプト集『震災経験のライフストーリー 2013年版』、『2013年度「震災のフィールドワーク」報告書』、桜井ゼミ震災班卒業論文集『震災経験を受け継ぐ——陸前高田市のフィールドワーク報告書』を制作。</p> |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### ■「つながる。陸前高田と立教大学」交流展 ホームカミングデー・パネル展

|     |                                                                      |
|-----|----------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年10月20日(日)                                                       |
| 主催  | 東日本大震災復興支援本部、校友会                                                     |
| 概 要 | 本学校友(総数約17万人)を対象としたイベントの中で、キャンパス内にパネルを展示、陸前高田と本学の関係、本学のボランティア活動を伝えた。 |

#### ■「つながる。陸前高田と立教大学」交流展～東日本大震災を忘れないために～(第2回)

|     |                                                                              |
|-----|------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年12月4日(水)～15日(日)                                                         |
| 主催  | 立教大学                                                                         |
| 共催  | 東京芸術劇場、陸前高田市                                                                 |
| 企画  | 特定非営利活動法人Aid TAKATA                                                          |
| 場所  | 東京芸術劇場ギャラリー2                                                                 |
| 概要  | 東京の方に東日本大震災、陸前高田と本学の関係、本学のボランティア活動について伝える機会とし、東日本大震災の風化を防ぎ復興について思いを寄せる機会とする。 |

#### ■職員ボランティア(第3回)

|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 実施日 | 2013年11月22日(金)～24日(日)               |
| 主催  | 東日本大震災復興支援本部                        |
| 参加  | 職員1名、学外者1名(東京芸術劇場) 引率者1名            |
| 概要  | NPO法人P@CTの紹介で、古川沼地域での遺品類拾い上げ作業等に参加。 |

#### ■戸羽太陸前高田市長が本学を訪問、東京芸術劇場にて講演会

|     |                                                                                               |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年12月8日(土)                                                                                 |
| 主催  | 立教大学                                                                                          |
| 概 要 | 東京芸術劇場で開催中の第2回「つながる。陸前高田と立教大学」交流展での講演「陸前高田の現状と課題、そして希望ある未来へ」およびボランティアセンター設立10周年記念シンポジウムの特別講演。 |

### ■英語による課題解決型プログラム

|     |                                                                                                                                                            |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 事前研修：2014年2月20日（木）、25日（火）<br>コア研修：東京：2014年3月15日（土）、21日（金）<br>陸前高田：2014年3月16日（日）～20日（木）<br>事後研修：4月23日（水）                                                    |
| 主催  | グローバル教育センター                                                                                                                                                |
| 参加  | 計16名、うち留学生3名                                                                                                                                               |
| 趣旨  | 陸前高田のファンを増やすためのプランを考えよう！<br>※陸前高田市の復興支援団体SAVE TAKATAより課題提起を受けて。                                                                                            |
| 概 要 | 東京（3月15日）：現地訪問準備<br>陸前高田（3月16日～20日）：市街地視察、復興商店街、商店、レストラン、農家、観光関連施設などを訪問、ゲストスピーカー講演及び座談会。<br>東京（3月21日）：提案第1ドラフト発表（各チーム）、復興支援関連NPO職員からのアドバイスをを受けて検討・修正、振り返り。 |
| 備考  | 事前研修：被災地及び復興支援に関する学習、陸前高田と立教大学の関わり、現地調査準備（調査手法・インタビュー手法）、SAVE TAKATA講義（組織概要・現地状況・課題提示）、個人・チーム目標設定、チームビルディング。                                               |

### ■陸前高田市追悼式への参加

|     |                                                                |
|-----|----------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2014年3月9日（日）                                                   |
| 主催  | 陸前高田市                                                          |
| 参加  | 西田東日本大震災復興支援本部副本部長                                             |
| 概要  | 陸前高田市を重点支援地域とし、連携・交流協定を結んだ本学から同市追悼式に立教大学として参加し弔意をお伝えした。関係者と懇談。 |

### ■復興支援プロジェクト／東北巡礼キャラバン隊～よりそのための3日間～

|      |                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2014年3月21日（金）～23日（日）                                                                                                                                                                              |
| 主催   | チャプレン室                                                                                                                                                                                            |
| 場所   | 福島県相馬郡新地町「センターしんち」仮設住宅                                                                                                                                                                            |
| 活動内容 | 「相手に寄り添う」奉仕活動・ボランティア活動として、仮設住宅で生活する被災された方々との交流活動等を実施。被災地巡礼＝相馬港、ときわ旅館跡地、磯山聖ヨハネ教会跡地、ふじ幼稚園（旧園舎）（津波被害を受けた地区）。雁小屋仮設住宅での交流活動（アジア寺子屋、ローバース、アコライトギルド、G.F.S.、B.S.A.）、広畑地区での交流活動（聖歌隊、ハンドベルクワイア、オーガニスト・ギルド）。 |

#### （４）参考資料①

##### 「つながる。陸前高田と立教大学」交流展～東日本大震災を忘れないために～の開催

NPO 法人陸前高田支援連絡協議会(Aid TAKATA)では、3.11 の後、震災による津波の被害の甚大さを震災以前の風景と対比させつつ写真で展示する会を開催してきた。本学では東京芸術劇場と連携し、2012 年 12 月と翌 2013 年 12 月に Aid TAKATA の企画による写真パネル展を開催した。第 1 回目の展示は、津波被害の烈しさを訴えるものだったが、第 2 回目からは瓦礫も撤去され市内が平地化されたこともあり、震災に対する記憶の風化を食い止め、持続的な復興支援を呼びかける内容へと変化している。ここではその第 2 回目(2013 年度)の展示内容をご紹介します。

- ・ 名称：「つながる。陸前高田と立教大学」交流展～東日本大震災を忘れないために～
- ・ 期間：第 1 回＝2012 年 12 月 5 日（水）～16 日（日）12 日間  
第 2 回＝2013 年 12 月 7 日（土）～15 日（日）9 日間
- ・ 場所：東京芸術劇場（2012 年はアトリエイースト、2013 年はギャラリー2）
- ・ 主催：立教大学
- ・ 共催：陸前高田市、東京芸術劇場
- ・ 企画：NPO 法人陸前高田支援連絡協議会（Aid TAKATA）
- ・ 後援：豊島区
- ・ 協力：NPO 法人池袋まちづくりゼファー

##### □学内（池袋・新座キャンパス）での交流パネル展の開催

- ・ 2013 年 5 月 21 日（水）～27 日（火）／池袋キャンパス 11 号館ロビー
- ・ 2013 年 6 月 4 日（火）～10 日（月）／新座キャンパス 1 号館情報ラウンジ

##### □ホームカミングデーでの開催

- ・ 2013 年 10 月 20 日（日）／池袋キャンパス 11 号館ロビー

## 立教大学の教育理念



立教大学は、1874年(明治7年)に「聖書と英語」を学ぶ私塾として設立されました。創立139年を迎えた現在、東京都豊島区池袋と埼玉県新座市の2つのキャンパスに10学部約20,000名の学生が学んでいます。

オフィシャルシンボルである楯のマークには、十字架と聖書が描かれており、その聖書にはラテン語で「PRO DEO ET PATRIA」と記されています。「普遍的なる真理を探究し」(Pro Deo)、「私たちの世界、社会、隣人のために」(Pro Patria) 働くことのできる「専門性に立つ教養人」を育成することが、本学の教育理念です。

東日本大震災復興支援においては、この「PRO DEO ET PATRIA」の理念のもと、学生・教職員が多様な活動を展開しています。

## 立教大学における東日本大震災復興支援活動の経緯

- 震災直後 教職員・学生有志による復興支援が検討・開始される。
- 2011年4月 「東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針」を策定。同指針に基づき、「立教大学東日本大震災復興支援本部」を設置。また、コミュニティ福祉学部が「復興支援推進室」を設置。
- 2011年 6月 長年にわたり本学と交流のあった岩手県陸前高田市を全学的な「重点支援地域」に指定。
- 2012年5月 陸前高田市との連携・交流協定を締結。
- ～現在 (2013年) 復興支援本部主催の災害ボランティア活動、コミュニティ福祉学部の学部を挙げた復興支援活動をはじめ、社会学部、図書館、学生部、ボランティアセンター等がそれぞれの専門性を活かした取り組みを実施しています。2013年度より海外からの留学生を主な対象としたスタディーツアーや学内交流展の開催、体育会による野球教室やバレーボール教室なども始まりました。

## 活動方針・メッセージ

### 【基本理念】 「共に生きる」

これまで大切にしてきた陸前高田の皆様との  
出会い・対話・交流をさらに深め、「人」の活力創りを支えます。

### 【活動方針】

- 息長く、学生・教職員が足を運びます。
- 「陸前高田」を積極的に発信します。
- 陸前高田に根差した学習・研究に取り組みます。

## なぜ、陸前高田か？

立教大学ではこれまでキャンパスのみならず社会での様々な「体験」を重視した教育活動を行ってきました。その一環として学生部の「林業体験プログラム」を、2003年度～2013年度(2011年度は休止)の計10年間にわたり、陸前高田市矢作町生田(おいで)地区において実施してきました。毎年学生を迎えてくださる同地区コミュニティ推進協議会の皆様をはじめ、市役所職員や市民の方々と共に深い友好関係を築いて参りました。

陸前高田市は、東日本大震災で中心市街地全域が津波による壊滅的な被害を受け、被災地の中でも最も被害の大きい都市といわれます。本学は、長年にわたり交流があった陸前高田市を全学的な「重点支援地域」に指定させていただき、復興支援活動を行っています。



## 陸前高田と立教大学

2012年5月23日 陸前高田市との連携・交流協定を締結  
本学では、陸前高田市の復興に向けた地域課題の解決と地域活性化の実現、発展に寄与することを目的に、教育・文化・福祉・産業等・市の地域活性化、人材育成、研究等の多様な分野で包括的に連携・協力します。



戸羽太・陸前高田市長(写真左)と吉岡知雄校長

## 東京芸術劇場と立教大学

2011年6月 東京芸術劇場との連携協定を締結

東京都における芸術文化振興への寄与と本学の教育研究の活性化を目的に、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)との間で、連携協定を締結しました。本文交流展は、この協定に基づく活動の一つです。東京をはじめ各地の皆様へ、陸前高田や被災地の状況をお伝えする趣旨に東京芸術劇場より賛同いただき、実現の運びとなりました。



東京芸術劇場における立教大学入学式

### ●夏季 陸前高田支援ボランティア

- ◇実施時期: 第1期: 2013年8月4日～8日、第2期: 8月21日～25日
- ◇参加者: 学生 各期15名(全学から公募)、引率職員各3名、ボランティアコーディネーター1名
- ◇主な活動地区: 小友町新田地区、気仙町今泉地区、市内小中学校、米崎町、高田町

#### ◇主な活動内容

小友町新田地区では、避難先を示す標識看板の杭打ち、被災で亡くなった方々の魂を弔う万灯籠の制作、被災で汚れてしまった虎舞用具(お祭り用民具)の洗浄、ゴミ集積所の改修などを行いました。その他、副市長と地区住民との対話集会にも参加させていただき、復興を願う人々の思いに触れました。

また、気仙町今泉地区での伝統的な祭り「けんか七夕」に参加し、祭りの復活を心待ちにされていた地元の方々と共に七夕飾りを施した山車を引いて練り歩きました。

市教育委員会による「学びの部屋」の学習支援活動に参加し、市内小中学校に集まった児童・生徒たちの勉強をお手伝いし、将来の夢を共に語る機会になりました。

復興サポートステーションのコーディネートにより、米崎町の高齢者宅地の草刈、古川沼でまだ行方不明の方々の手掛かりを探しました。

宿8先の「木口タイの御炭の家」で、地元新聞社「東海新聞」記者の鈴木英里氏(立教大学卒業生)や、県立高田病院医師の高橋祥氏、新田地区自治会長の渡辺健悦氏などから、震災復興の歩みなどさまざまなお話を聞かせていただき、学生たちが自分を見つめ直すきっかけとなりました。







### ●秋季 陸前高田支援ボランティア

◇実施時期: 2013年10月31日～11月4日  
 ◇参加者: 学生 14名(全学から公募)、引率職員4名  
 ◇主な活動場所: 高田町、広田町、米崎町

#### ◇主な活動内容

高田町の古川沼では、埋め立てられる予定の土地の砂をふるいにかけ、未だ行方不明の方々の手掛かりを探しました。

広田町の広田漁港では、船が流されてしまったことで本来であれば数か月前に終了しているはずの水揚げ作業のお手伝いを行いました。

復興サポートステーションのコーディネートにより、米崎町では、ボランティアや観光などに訪れた方々に見てもらえるように、個人宅敷地内にチューリップの球根を植え付けました。

宿泊先の「ホロタイの郷 炭の家」では、夏季と同様、震災復興の歩みについて多くの方々と対話しました。地場企業で唯一仮設住宅の建設入札に参加した韓長谷川建設社長の長谷川順一氏、北海道から被災地へ赴き「はまらっせん」農園プロジェクトを立ち上げた県立高田病院医師の高橋祥氏、震災翌日から自家発電で新聞を発刊された東海新報社記者の鈴木英里氏、から震災当時の状況や今の想いをお聴きしました。



### ●国際交流／陸前高田スタディツアー

本学で学ぶ外国人留学生、本学からの海外留学を予定している日本人学生30名が参加し、2013年6月15日、16日の2日間、陸前高田市、気仙沼市を巡るスタディツアーを実施しました。

被災状況を深く理解するために、事前研修プログラム、現地住民との対話機会を多く設けました。参加学生の多くが、「母国または留学先の国で今回の経験を伝えたい」など、今後の行動を起すきっかけになったと語っています。

#### 【参加者の国籍】

日本、アメリカ、オランダ、中国、フランス、ノルウェー、韓国、ポーランド、オーストラリア





## ●第2回 立教野球教室@陸前高田

体育会野球部では昨年引き続き、第2回「立教野球教室@陸前高田」を実施しました。昨年は小学生のチームを対象に、今年は陸前高田市立第一中学校、同気仙中学校の野球部員約50名の皆さんと本学野球部員22名が楽しいひと時を過ごしました。中学校野球部員の中からは昨年度小学6年生としてこの野球教室に参加した生徒が、また、本学野球部でも4名の部員が昨年から続けて参加したことで再会を喜ぶ場面もあり、中学生も大学生もスポーツを通じてすぐに打ち解けグラウンドは3チームの歓声に包まれました(2013年7月7日)。



## ●立教バレーボール教室@陸前高田

陸前高田市は以前より、小学生から高校生までバレーボールが盛んな地域で、各世代での全国大会への出場経験があります。バレーボールが愛される地域ならではの取り組みをしたいと、体育会バレーボール部(12名)・女子バレーボール部(18名)が、市内の小学生を対象としたバレーボール教室を矢作小体育館で実施しました(2013年8月25日)。参加してくれた市内5チームの62名の一人ひとりが「ボールも心もつないでゆく」のコンセプトのもと、学生たちと一緒に思い切り汗を流しました。



## ●協定締結1年を迎えての共同記者会見

陸前高田市役所にて、これまでの本学の活動および今後の活動について、共同記者会見を開催し、本学の吉岡助教総長は、「震災を風化させないことに重きを置いた活動を今後も進めていく」と発言しました。総長・副総長は記者会見で先立ち、市内の震災遺構(奇跡の一本松、タビック、気仙中学校等)を訪問。また、2011年に総長がボランティアをさせていただいた新田地区自治会の方々と懇談の場を持ちました(2013年7月17日)。



## ●全学共通カリキュラム「震災復興論入門」等の開講

「震災復興に関わる理論と実践を学ぶことにより、各学部で展開されている震災復興プログラム等の受講や震災復興ボランティアに参加する上での基礎的素養や態度を身につける」ことを目的に、本年度から、全学部生を対象とした全学共通カリキュラムに「震災復興論入門」という科目を開講しました。

毎回、ゲスト講師をお呼びし、陸前高田市や福島県の震災復興のあり方について、学生も交えた熱い双方向の授業が展開されています。その他、各学部専門科目でも震災復興関連の科目が展開されています。また、本学独自の研究助成制度・立教SFRに「東日本大震災・復興支援関連研究」の分野を設け、多彩な研究が行われています。



## ●学内交流パネル展

東京芸術劇場で開催した交流展を、写真パネルを中心に学内で開催しました。池袋キャンパス、新座キャンパスにて、それぞれ5日間展示を行いました。また、校友会有志の方々のご協力を得て、第59回ホームカミングデーで、交流パネル展を開催しました。当日はNPO法人Aid TAKATAの皆さんによる陸前高田の特産品も販売されました(2013年5月、6月、10月)。



## ●市立図書館への備品寄贈等支援

立教大学の学校・社会教育講座事務局および図書館は、陸前高田市立図書館および仮設書庫に書棚を寄贈すると共に、本学の旧図書館で使用していた備品などの寄贈を行いました(2013年5月)。



## ●高田高校から立教大学へ。

2013年4月、立教大学コミュニティ福祉学部と岩手県立高田高校との間で、指定校推薦枠が設けられ、同校から2名の生徒が入学しました。そのお二人に文章を寄せて頂きました。

私はいま、大好きな野球をしながら楽しい大学生生活を送れていることに感謝しています。2年前の3月11日を境に私の生活は一変しました。高校を辞めて働くことになりました。また高校を卒業したとしても進学せず働くつもりでした。それほど苦しい生活でした。しかし、両親や友達との支えもあり、何よりも立教大学から指定校入学への道を開いて頂いた事が私にとって大きな出来事でした。人生に希望の光を貰いました。そして様々な奨学金などの支援を得て東京六大学の高いレベルの中で野球をさせてもらっています。これからの日々で感謝し学校生活を送りたいと思っています。また地元の方々に自分のように震災を乗り越え新しい人生を歩んでもらうためにも、いつの日か陸前高田市に帰る一日でも早い復興の手助けになればいいと思っています。(コミュニティ福祉学部1年次生/男子)

震災によって私はたくさん大切なものを失いました。また、震災前よりは生活も厳しくなり、進路にとっても悩んでいました。今、立教大学という選択をしたことは間違っていないと思うし、素晴らしい教員、学生に出会えたことに感謝しています。私は勉強、交友関係、バイトなどでも充実した大学生活を送っています。これも背中を押してくれた家族、先生、友のおかげだと思います。陸前高田と立教大学のつながりというのをこれから大事にしていきたいと思っています。そのために私も何かしていきたいと考えています。(コミュニティ福祉学部1年次生/女子)

## ●立教小学校と陸前高田とのつながり。

立教小学校の3年生から6年生の児童88名が、赤と緑の色画用紙に色とりどりの絵とメッセージを描いてクリスマスカードを作り、陸前高田市内の小中学校に贈ります。震災のあった年の暮れに4年生のひとクラスで始まった小さなプランが、昨年は児童会の働きかけで有志100名近くに広がり、今年もまたその活動を継続して行っています。

また、毎週の礼拝で児童がお小遣いなどからお預けしている献金を積み立てて、市内の小中学校で足りない文具などを復興支援団体のP@Cに調べてもらい、地元の業者さんから購入して届けてもらっています。ささやかですが、息の長い取り組み(＝つながり)です。





## ●コミュニティ福祉学部 陸前高田交流プログラム

コミュニティ福祉学部復興支援プロジェクトの教員7名が2011年7月に初めて陸前高田市を訪ねました。  
その後、2011年11月に『コミュニティ福祉学部・陸前高田サポートハウス』を開館し、以後毎月、陸前高田交流プログラムを実施してきました。2013年11月までに23回実施することができました。その他にも3単位で多くの学生が陸前高田を訪れています。  
今回は、その陸前高田交流プログラムの内容をお伝えします。

### 陸前高田プログラム参加者数

|          |    |         |    |         |      |
|----------|----|---------|----|---------|------|
| 2011年11月 | 7  | 9月      | 7  | 2013年7月 | 11   |
| 2012年1月  | 7  | 10月     | 5  | 8月      | 15   |
| 2月       | 5  | 12月     | 3  | 9月      | 13   |
| 3月       | 8  | 2013年1月 | 7  | 10月     | 7    |
| 3月       | 10 | 3月      | 12 | 11月     | 7    |
| 6月       | 10 | 5月      | 7  |         |      |
| 7月       | 18 | 6月      | 7  | 合 計     | 166人 |



陸前高田市小友(おとも)町にある民家をお借りすることができました。津波が来た所から200mくらいしか離れていない場所です。  
他のボランティア団体の拠点は数時間もかかる場所にしか設置できなかったことを考えると本当にありがたいことです。  
さらに、布団も食器も全てすぐに生活できるよう整えられており、本当に感謝しています。ここは、一時避難所として25人もの方が4ヶ月以上生活されていた場所です。そこに暮るとき、ここで生活できる感謝の気持ちと共に、避難生活に思いを馳せることができる場所です。  
その民家であることの良さを最大限に活用するプログラムを考え実施してきました。

### はじまりの始まり

このプログラムへの参加は、「はじまりの始まり」に過ぎない。参加することに意味があるのではなく、参加した後に自分なりの関わり方を始めて欲しい。

### 「支援する」立場ではなく、人として付き合う

何かをするために陸前高田に行く必要はありません。「支援する」と決めた瞬間、立場が規定されてしまいます。人として普通に付き合うこと。その中で生まれる関係が重要で、学生という社会経験の浅い者が、人生経験も生活力も豊かな方々から、「教えてもらおう」「助けよう」と、それが普通の社会で生まれる関係ではないでしょうか。

### 徹底的に個別的に交流する

大勢の中の一人として関わるのではなく、誰かが分からないままではなく、顔も名前も分かって交流することが求められています。「また来ます。」「よく来たね。」「そんな暖かい関係が生まれます。

### 繰り返し交流することで「絆」になる

陸前高田交流プログラムは、2013年11月で23期に達しました。約2年間、毎月実施してきました。学生は代わっても、同じ人たちと交流を続けています。最初は「緑」があって交流していましたが、「緑」が積み重ねることで太い「絆」となっています。

### 準備された交流から、自主的な交流に

学生は、車に乗せられて到着した場所で交流をします。いわば「準備された交流」です。でも、帰ってから手紙や写真を送るということを続け、個人的交流が深まることによって自分で作ったいい交流になっていきます。卒業式の晴れ姿の写真を送ったり、卒業後も自主的な交流が続いています。

### 支援される人ではない、自分の持っている力を発揮する

震災前は、陸前高田の人たちは普通の人でした。仕事をし、家族と共に生きていました。震災から2年半経ち、元の生活に戻る時期が来ています。いつまでも支援を受ける人としてではなく、一人の人として生活することが出来るひとです。震災前に出来ていたこと、持っていた力を発揮できるはずです。その力を発揮できるような交流を考えています。



### 苦しい過去を共有するだけでなく、楽しい時間も共有する

楽しくしていた多くの人が亡くなり、日常生活の場であった街並みが消えてしまうという大きな喪失と苦しみをおぼれました。その苦しみも少しでも理解したいと思います。高田や今泉の元の街並みの写真を手に街を歩いています。一時避難所となっていた家で、夜間に灯りを点けて避難生活の追体験をしてみます。



写真は、出来上がった「かまもち」

それと同時に、一緒に郷土料理「かまもち」「なべ焼き」「どんこ鍋」などの作り方を教えていただき、一緒に作って食べています。わたしたちには珍しいこの郷土料理はおばあちゃんの手料理です。大勢でテーブルを囲み賑やかに食べる時、あたたかい交流が生まれます。

### 楽しい未来と一緒に創る

「準備された交流」を経験した学生は、帰ってから交流した方々に自分の写真を添えて手紙を書きます。これが「はじまりの始まり」です。名前も顔も分かって交流が続いていきます。おそらく数年後には、「結婚しました。」「子どもが生まれました。」というようなうれしい便りも届けることができるでしょう。



## ●社会学部の取り組み

### 授業「震災のフィールドワーク」

その方の言葉で、その自分の身を語っていただくと、その語りにつづいて耳を傾ける。そして、「あなた」と「わたし」との間で生み出された語りを1つ1つ記録し、残していく。

このようなインタビューの手法をライフストーリー・インタビューと言います。この授業では、陸前高田、唐桑、大槌を訪ね、地元で生活することをお手伝いしながら地元の方々と関係を築き、ライフストーリー・インタビューをおこないます。学生は、お話をうかがった方との間で生み出された語りや、相手の方が生活している場所を自分自身が様々な経験をすることを通して、その方の生きた世界に切り、報告書にまとめていきます。そして、お話をうかがった方の許可をいただいて、語りを復讐に添えています。

本年度は、陸前高田・唐桑地区と大槌地区に分かれ、8月12日～9月17日にフィールドワークとインタビューをおこないました。さらに10月31日～11月2日にはインタビュー記録を拝読し、9月に出来た方々のものを再び訪ねました。本日は、そのごく一部をご紹介します。(写真解説:陸前高田・唐桑地区 山口希希/大槌地区 小林真平)

### 【参加した学生の声】

出会いとは、ただ会っただけで出会いとなるのでしょうか。その人との1対1の関係性ができたときが本当の出会いなのではないでしょうか。この授業では、本来の意味での出会いというものを知ることができたように思えます。相手に寄り添いながら話を聞くことで、自分もその場を共有している人であるという感覚が相手との関係性を作ることにもつながったと思います。また、その関係性の中で1対1で話を聞くことで公の場では聞けないような、その方の言葉には素直な思いや感情を感じることもできました。この授業を通して、私たちにとって、そこで出会った人たちは、被災地の人ではなく大槌、陸前高田、唐桑の人となりました。これからは、被災地としてくるのではなく、それぞれの町をしっかりと見ていきたいと思っています。(大槌地区 渡辺理樹)

### 東日本大震災・RDV(復興生活者であること)支援プロジェクト

社会学部では、震災直後に東日本大震災・RDV(復興生活者であること)をやるべき支援プロジェクトを立ち上げました。これまで、学生団体Frontiersと連携して、講演会、写真展、交流スペースの確保、被災地への学生派遣などをおこなっています。学生自身が東日本大震災に自ら関わり、関係を築かせていくきっかけ作りをおこなってきました。現在は、新居区における避難者支援・地域コミュニティ活性化活動や、気仙沼市唐桑町における復興まちづくり活動に協力しています。



### <仮設集会所でのお茶っご準備中>

大槌町では、仮設集会所で主に仮設住民の方向けのボランティアイベント、お茶っごを行いました。お茶っごとは、お茶やお菓子を囲み、みんなでおしゃべりする場です。今回は十五夜におなみ、おはぎを住民の方と一緒に作り、楽しくお話をすることができました。予想以上に住民の方も集まって下さり、震災に関する貴重なお話も伺うことができました。現地に到着して初めての活動であったため緊張や不安もありましたが、このお茶っごで住民の方々と接することがきっかけで、以降の活動のモチベーションにも繋がりました。



#### <大槌町での開きの様子>

大槌町は非常にコンパクトな町です。そのため、開き取りをおこなった対象者同士が知り合いであったり、血縁関係があったりということも多々あり、そこも1つの調査地としての興味深い点でした。

各自の関心に促った方にお話を伺いましたが、その中でも全員が共通して「その人のライフストーリー」というものを体系的に伺いました。これはこの調査の目的であり、結果的にその人自身でしか出てこない語りであったり、ただ客観的に震災を描くだけではない個人が感じたものをそのままに伺うことができました。

住民の方はもちろん、市役所の方、ボランティアの方、シェフの方、さらにはカフェを営むミュージシャンなど多様な人々にインタビューをおこなうことができました。是非これからも継続した関係性を保ちたいと思います。



#### <陸前高田市小友町でのボランティア活動>

道路にガードレールとして設置していた竹を回収し、細かく切り分けるお手伝いをさせて頂きました。その後、震災当時の小友町の様子などお話を伺い、小友町周辺を案内してくださりました。

ボランティア活動で地域の皆さんと交流することで、その土地の特徴を知ることができ、その上でお話を伺ったためその理解がより一層深まりました。



#### <陸前高田市高田町でのインタビュー>

震災当時、陸前高田市内最大規模の避難所であった、陸前高田市立第一中学校で自治会代表をなさっていた横田裕信さんにお話を伺いました。避難所の様子や課題点、そして地域の繋がりになどについて語って頂きました。

「人ってね、やっぱりいいね。知恵を出し合ってね、そのなんとか課題を乗り越えていく進もうとするものね」という語りが印象的でした。

#### <宮城県気仙沼市唐桑町での活動>

牡蠣や帆立の養殖業を営む一方で、「つなかん」という宿泊所を営んでいる菅野一徳さん。津波で自宅が浸水し一度は取り壊そうと考えていましたが、ボランティアとの出会いから、改修を行い宿泊所となっています。「いろいろな人に助けられたから、だから亡くなった人の分まで1日3日生きようと思った」という言葉から菅野さんの力強さをとても感じました。(右写真)



仮設住宅の会長である馬場昭昭さんにインタビューを行いました。

馬場さんはかつて家が建っていた土地の隣にある小さな小屋を「カエル塾」と名付け、ボランティアに書として提供しています。

とても気さくな方で、「震災がなければ(ボランティアの皆さんに)出会えなかった。その出会いに本当に助けられた。震災に対してありがたうと感謝を申し上げたい」と語ってくださいました。(左写真)

## (5) 参考資料②

以下の文章は、日本私立大学連盟が発行する『大学時報』第 344 号(2012 年 5 月号)に掲載されたもので、同連盟の許諾を得て採録する。

### 被災地への息の長い支援を目指して —立教大学と岩手県陸前高田市との連携・交流協定締結—

立教大学副総長 西田邦昭

#### はじめに

昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故は、日本全体に未曾有の社会的・経済的打撃を与えた。立教大学は、東日本大震災の復旧・復興を支援するために、4 月末に「東日本大震災に伴う立教大学復興支援活動指針」を策定し、大学内に「立教大学東日本大震災復興支援本部」を設置した。

そして、6 月中旬に、本学学生部が 8 年間にわたり「林業体験」でお世話になってきた岩手県陸前高田市を復旧・復興支援の重点地域とさせていただき、6 月 29 日には本学の吉岡知哉総長が陸前高田市の戸羽太市長を表敬訪問し、立教大学として同市の復旧・復興活動を息長く支援することを表明した。

昨年の 5 月以降、陸前高田市内において様々な支援活動を展開してきているが、それ以前の「林業体験」での交流も含めた本学と陸前高田市との連携・交流関係をさらに確かなものとするために、「陸前高田市と立教大学との連携及び交流に関する協定書」を締結することに合意し、現在、調印式の日程の調整に入っている。

この間、復興支援本部の一員として陸前高田市の復旧・復興支援活動に携わってきた立場から、本学の取り組みを紹介させていただく。

#### 夏季災害ボランティア活動

陸前高田市を重点支援地域として指定させていただく以前の 5 月上旬から 6 月中旬にかけて、「林業体験」の宿舎として利用していた「炭の家」(陸前高田市が管理している宿泊・研修施設)に被災された高齢者の方々が避難されていたので、その方々の介助ボランティアを実施した。そして、夏季休業中に学生による災害ボランティア活動を計画し、「林業体験」でお世話になってきた同市の生田(おいで)地区コミュニティ推進協議会に受け入れをお願いした。

宿舎となる「炭の家」の収容人数等の関係から、各期の募集人数を 15 名ずつとし、8 月 7 日から 9 月 15 日までに 1 期 4 泊 5 日を 5 期にわたり実施することにした。また、余震や津波、熱中症、学生の心理的ダメージなど多くのリスクが想定されたので、各期 3 名の職員を同行させることにした。7 月上旬に開催した説明会には 300 名を超える学生が参加し、復旧・復興を支援する活動に協力したいという学生達の強い思いを感じた。

8 月上旬には参加者を対象に事前研修会を開催し、学生相談所のカウンセラーから、傷ついた被災者と向き合うにあたって注意すべき事柄、また現地の災害ボランティアセンターのスタッフ

を招き、現地の様子や活動内容、注意すべき事柄について研修を受けた。

現地では、日中は陸前高田市災害ボランティアセンターの仲介により、沿岸地域での草刈り、瓦礫撤去、側溝の汚泥処理、漂流物の処理、個人宅の片づけなどの作業を行った。また生出地区で、被災して使用出来なくなった炭窯の解体や新たな炭窯作りを手伝った。

夜は、市役所の職員、消防団員、災害ボランティアセンターや社会福祉協議会の方々から、震災当時の様子や、避難所や仮設住宅での生活の様子、地元の方々の思いなどを伺った。また、作業現場においても、作業依頼主から直接お話を伺うこともあった。

## 学生たちの反応

ボランティア期間中は、毎晩「振り返り」の時間を持った。その中で、ある学生が語った言葉が強く印象に残っている。

「今、自分は20歳である。被災地の復旧・復興には10年、20年かかるだろう。10年後自分は30歳、20年後自分は40歳、社会の中核を担う年齢になっている。復旧・復興を担っていくのは我々の世代である。今、日本で起きていることを自分の目できちんと確かめておきたいと考え、このボランティアに参加した。」

今の若者は他人に関心がない、社会に関心がないとしばしば言われるが、決してそんなことはない。学生達は今日日本で起きている悲惨な状況を自分のこととしてきちんと受け止めようとしている。

## 陸前高田市長からいただいた言葉

夏季災害ボランティアの最終日に、陸前高田市の戸羽市長に夏季活動終了のご報告に伺った。戸羽市長は、津波で奥様を亡くされた中、市民の先頭に立って復旧・復興活動に取り組んでいらっしゃる方である。その際市長から、私どもの活動への感謝の言葉とともに、次のような言葉をいただいた。

「皆さんは、東北の人間は我慢強い、辛抱強いとおっしゃるけれども、そんなことはありません。昼間はみんな笑顔で皆さんと接しているけれども、夜一人になると泣いています。今は多くの方々に陸前高田に来ていただき、思いを寄せて励ましていただいているから頑張れるけれども、時間が経つにつれ報道も少なくなって忘れていかれると、私たちは頑張ることができなくなります。どうか立教大学には、これからも細くてもよいので息の長い支援をお願いします。」

夏季災害ボランティア終了後に、参加した学生の「活動ふりかえりレポート」を戸羽市長にお送りしたところ、100ページに及ぶレポートをすべてお読みになり、感謝のお手紙をいただいた。小稿の最後に掲載してあるので、是非お読みいただきたい。

陸前高田市は、震災前の人口が約2万4千人の小さな町だが、今回の津波で2千人を超える方々が死亡または行方不明となっている。また、震災後、人口の流出が続き厳しい状況に置かれている。

期間中に会った地元の方々からは、何度も「忘れないでください」という言葉をかけられた。

## 秋以降の活動

秋季休業中には、夏季休業中と同様に学生による災害ボランティアを実施した。そして、今回の震災を契機に本学では職員のボランティア休暇制度を新設し、この制度を利用し 12 月には職員によるボランティア活動を実施した。本年 2 月には、本学の司書課程で学んでいる学生が図書館支援のボランティアを実施した。市立図書館は津波で流され、図書館で働いていた方々も全員亡くなられた。震災後、日本全国から図書が寄贈されたが、その多くは廃校になった小学校に保管されたままになっていた。仮設図書館開設の準備と移動図書館での利用のため、保管されていた約 8000 冊の図書の中からまずそこで利用される約 1500 冊を選書するというボランティア活動を本学の司書課程で学ぶ学生達が行うことになった。被災地である陸前高田の市民にどのような本を選書すればよいのか、寄贈してくれた方々の思いをどこまで反映させればよいのか、学生達は悩みながら選書した。とても貴重な体験をさせていただくことができた。

また、昨年 12 月からは月 1 回、仮設住宅に住んでいる小学生を対象とした「子ども支援」のボランティアを実施している。津波により壊滅的な被害を受けた陸前高田では、多くの学校の校庭に仮設住宅が建てられ、その結果子ども達が走り回る空間がなくなった。また、仮設住宅内は狭く、子ども達もいろいろなストレスを抱えている。そこで、現地の若い人達が、陸前高田の未来を担っていく子ども達が勉強をしたり体を動かしたりできる場を作っていきたいと考え、始めた活動である。現地の団体と協働した企画として継続的に実施している。大学生は、子どもにもお年寄りにもオールマイティな存在である。月 1 回程度で物理的にも離れており困難を伴う活動であるが、現地の団体と意思疎通を図りながら、より良い活動に発展させていきたいと考えている。

東日本大震災復興支援本部の活動とは別に、本学コミュニティ福祉学部においても復興支援室を開設し、石巻、南三陸、気仙沼、陸前高田において支援活動を展開している。陸前高田では民家をお借りし「高田サポートハウス」を開設している。そこを拠点に、教員がゼミの学生を連れて週末や休みの期間に訪れ、地域住民との交流を深める取り組みを行っている。

大震災以降、陸前高田市内にある小学校では紙類やスポーツ用具の購入費用が不足している。そこで、立教大学が属している学校法人立教学院の下にある立教小学校では、毎月の礼拝の際に集めている献金の一部を、小学校に紙類やスポーツ用具を寄付する活動を行っている現地の団体に送金し、購入費用に充ててもらおう活動を行っている。

## 今後の支援活動構想

今般、本学と陸前高田市との間で包括協定を締結することになったが、被災地とこうした協定を締結することに対して驚きや違和感を抱かれる方もおられることだろう。しかし、私たちにとっては、ごく自然の流れであったように思う。8 年間にわたる陸前高田市での林業体験を通して、多くの学生、卒業生、教職員が生産地区や市役所を中心に地元の方々との交流を続けてきた。そして今回の活動にあたっては、旧くからの友人を迎えるように私達を温かく受け入れて下さり、全面的に協力して下さいました。

協定書案の前文には、「互いに共通する課題解決や豊かな社会を創造する未来の人材を育成するために相互に連携及び協力することに合意し」と記されている。工学部や医学部を有していない人文・社会科学系学部を中心とした本学が行う支援活動は、教員の専門性や学生の学び・特技等

を生かし、市民の方々に寄り添い、人と人がつながり交流していく活動が基本となるであろう。現在、本学の復興支援本部の下にプロジェクトチームを設置し、中堅の職員を中心に今後の陸前高田への支援活動を構想している。今後の活動の方針として次の4つの柱を掲げている。①多様な「意思」にもとづいて参加できる機会を提供する。②学部等が主体となって、小さくとも多様な交流を継続する。③現地からのフィードバックを大切にする。④教育・研究の新しいスタイル形成にも取り組む。

これまでの災害ボランティアや子ども支援ボランティアなどに加えて、仮設住宅で生活されている方々との交流、スポーツなどを通じた大学生と子ども達との交流、地元の事業体での大学生と中・高校生によるサービスマーケティング、本学卒業生が制作した映画の上映会など多様な活動を構想している。また、教員の中からは専門性を生かした支援活動を行う動きも始まっており、復興支援本部や複数の学部単位による多様な支援活動を展開していく予定である。

## おわりに

今回の災害ボランティア活動は、大震災により壊滅的な被害を受けた陸前高田の復旧に、少しでも力になればという思いで企画したものであり、学生の学びや成長を目的としたものではなかった。しかしながら、作業や地元の方々との出会いを通して、家族や親族を失い、家を失い、仕事を失い、友や仲間を失い、これ以上ない苦しみの中で、その苦しみに耐えながら一歩前に歩み出そうとされている姿や、市外からのボランティアに対して、「ありがとうございます」、「頑張ってくださいね」、「怪我しないように気をつけてくださいね」など温かい声をかけてくださり、笑顔で迎えてくださる姿に接し、学生達は生きることの辛さと人間の強さや優しさを学んだ。学生達がこれから大学で学び、社会の中で生きていく上での「根っこ」とでも呼べる大変貴重な体験をさせていただくことが出来た。

(戸羽太陸前高田市長からのお手紙)

ボランティアに参加して頂いた皆様へ

立教大学二〇一一年度夏季陸前高田支援ボランティアに参加して下さいました皆様に市民を代表し、心から感謝を申し上げます。

立教大学と本市は長年にわたり御縁を頂いておりますが、今回東日本大震災で壊滅的な被害を受けた陸前高田市に沢山の学生諸君がボランティアに来て下さった事は、言葉にできない程嬉しく思っています。

皆さんのレポートを読む時間がなく、今日まで御礼も言えずに歳月が経ってしまい申し訳ありません。レポートを全て読ませて頂き思った事は、人間て優しいな、まだまだ日本も捨てたものじゃないな。という事でした。

絶望という言葉があります。

私自身四十六年間生きてきて、生まれて初めて「絶望」というものを感じました。妻を亡くし、二人の子供をどうやって育てていくか。市長として陸前高田市を再生できるのか。普段は強気な性格である私が、まさに身動きひとつとれない「絶望」の中にいました。



しかし、そんな私を絶望の淵から救ってくれたのは人々の優しさでした。失ったものは本当に沢山ありますが、一方で得たものも沢山ありました。

人は一人では生きていけないなどと歌の歌詞だけの世界と思っていましたが、日本中から、世界中から頂いた励まし、優しさにより今日も何とか頑張れているのだと思っています。

皆さんがボランティアで経験された事、感じた事は皆さんの今後の人生に必ず生かして下さい。多くの犠牲の上に皆さんの経験があったという事を忘れないで下さい。

私たちは必ず陸前高田市を世界に誇れる美しい町として復興させます。

復興には長い長い時間がかかります。

皆さんもその頃には結婚され、お子さんもいるかもしれませんね。

私たちが復興を遂げた時、どうかご家族で陸前高田市にいらして下さい。そして奥様や旦那様、そしてお子様にボランティアに来た時の話をしてあげて下さい。

まとまらない文章で申し訳ありません。

皆様、本当にありがとうございました。

平成二十三年十一月二十二日

陸前高田市長 戸羽 太

### 3. コミュニティ福祉学部・復興支援推進室の取り組み

コミュニティ福祉学部は、東日本大震災発生直後、本学の中でもいち早く学部挙げての組織的な支援活動に取り組み始め、復興支援本部とともに、全学の復興支援活動を牽引する大きな役割を担ってきた。本章では、同学部による多様な活動について紹介する。

#### （１）活動の経緯と目的

2011年3月11日の東日本大震災発生後、コミュニティ福祉学部では、個々に被災地で支援活動を開始する教員や、学内に支援活動と呼びかける者が自然発生的に現れた。

そうした流れの中で、同年4月13日、学部教授会にて、「コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト」の設置が承認され、公式に支援活動が始まった。

本プロジェクトとしては、学部の専門性を発揮できるのは、被災から半年程度経過した後と予想し、当初は体制を整えることに注力した。学生とともに安全に安心して活動を行うためには、ある程度整った宿泊先、住民と直接関わることができる活動などについての情報が必要と思われた。当時は、ボランティアは寝袋持参で集会所等に寝るような状況であった。

東日本大震災は被害が広範囲に及んだため、当初から5年後、10年後を見据えた支援活動を想定し、活動期間として、初期・中期・長期の三段階を設定した。活動場所は、（１）被災地（２）東京都内と近隣地域（３）大学キャンパス内の三地域を想定し、それぞれに担当教員を配置した。2011年当初の活動資金としては、学部管轄予算から300万円を充てた。

活動の目的は、復興の歩みに細く長く寄り添う“伴走型支援活動”を行うことと、復興支援活動の現場で、参加学生に対して、学部理念でもある「人間の尊厳」を肌で感じ、学ぶ機会を提供することである。

被災地の状況を把握し、活動拠点を探するため、2011年7月9日～11日に、プロジェクトメンバー8名（森本佳樹教授、松山真教授、湯澤直美教授、原田晃樹准教授、空閑厚樹准教授、和秀俊助教、鈴木忠義助教、大学院学生）が、東北地方の視察を行った。岩手県一関市内に泊まりレンタカーで行ったが、当時はホテルもレンタカーも予約が取れないほど、ボランティア団体や復興関係者で被災地はあふれていた。

岩手県陸前高田市では、生出地区、陸前高田市ボランティアセンターに挨拶、高田地区などを見て歩いた。その後、気仙沼市役所、気仙沼大島災害対策本部にて状況を伺い、気仙沼市大島に宿泊した。さらに、宮城県南三陸町まで沿岸部を視察して二手に分かれ、気仙沼市社会福祉協議会、ボランティアセンターに行くグループと、石巻から仙台に向かうグループに分かれた。仙台市では、宿泊施設などの協力の可能性としてPROP 三条館（宮城県社会福祉士会事務所のある施設）で情報交換を行った。

その結果、活動する被災地の候補として、震災前から関係のあった陸前高田市、石巻市と新たに気仙沼大島を想定し、活動拠点、宿泊できる施設などを探すことになった。

2013年度末現在の主な活動場所は、①岩手県陸前高田市、②宮城県気仙沼市大島、③石巻市、④同南三陸町、⑤東京都新宿区、⑥福島県いわき市の計六拠点となっている（2014年9月からは東京都東久留米市が加わり七拠点）。



2013年度末までの活動（現地派遣）回数は合計127回で、のべ1770人の学生及び教職員・スタッフが参加した。全学に広く門戸を開いており、コミュニティ福祉学部以外からの参加学生の割合は、およそ3割に至っている。

### コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト 3年間の活動実績(2011/7～2014/3)

| 主な復興支援活動               | 活動回数 | 参加人数 |
|------------------------|------|------|
| 陸前高田交流プログラム(岩手)        | 23   | 175  |
| 気仙沼大島交流プログラム(宮城)       | 34   | 501  |
| 石巻交流プログラム(宮城)          | 15   | 139  |
| 南三陸交流プログラム             | 5    | 57   |
| いわき交流プログラム             | 1    | 40   |
| 新宿在住支援交流サロン・さんさん広場(東京) | 49   | 858  |
| 合 計                    | 127  | 1770 |

## （２）各拠点の活動内容

### ①陸前高田交流プログラム（岩手）

立教大学と岩手県陸前高田市は、震災前から陸前高田市生出（おいで）地区での林業体験を通して交流が継続されていた。そのことから、学部において活動する場所を選定する場合も、最初に陸前高田の名前が挙がっていた。コミュニティ福祉という専門性を生かした活動を展開するためには、被災から半年程度経過した後であろうという予測のもと、半年間かけて活動拠点の形成を図ることにした。

2011年7月9日、本プロジェクトメンバーの8名（森本、松山、湯澤、原田、空閑、和、鈴木、大口）が、陸前高田市および周辺の現地調査を実施した際に、活動拠点となる場所も探した。

当時は、東北新幹線の一ノ関駅周辺のホテルもレンタカーも予約することすら困難な状況であり、活動することそのものが困難であった。陸前高田市内には旅館・民宿などは無く、他団体も活動拠点の確保が困難であり、遠野や花巻、一関から通っているということであった。学生を安全に安心して活動に参加させるための拠点探しも困難であった。最初に、陸前高田市生出地区自治会長らの案内で、「炭の家」「多目的センター」などを見て回ったが、風呂がないことや市街地から15キロ以上離れた山の中にあり、冬季の交通が困難なことから候補とはならなかった。

さらに、一関市室根にある聖公会「室根聖ナタナエル教会」も視察したが、礼拝堂に寝起きしななければならないことなどから断念した。

そのような中、メンバーの一人の松山教授が、同年4月初旬に専門職ボランティアとして仙台市若林区における活動に参加した際に知り合いになっていた、岩手県作業療法士協会理事の高梨氏に相談したところ「実家が陸前高田市なので、実家を使って貰っても構わない」という申し出を受けた。

同年8月7日に、松山教授が陸前高田市小友町にある高梨氏宅を訪れ状況を確認した。実家の空いている部屋を提供して下さるということであったが、トイレ・風呂・台所などは1カ所で

共有するため、大勢の学生で泊まることは難しいと判断した。その後、実家近くに空き家があり、貸していただけそうだとのこと、その家を管理されている黄川田巡一氏を紹介していただき、家も外側から見せていただいた。その家は、同年 7 月末まで避難所として利用されていたが、仮設住宅への入居が進み、空いたばかりだということ。その場でお願いして、学内手続きを取ることにした。

同年 8 月 28 日、原田教授と松山教授が陸前高田市を訪れ、黄川田氏から家の中を見せていただいた。布団 25 組以上、食器も大量にあり、その他、冷蔵庫、電子レンジ、風呂などあるものは自由に使って構わないという、願ってもない条件であり、大勢の学生と滞在するのにも全く問題はなかった。持ち主は柴田文秋氏（東京都八王子市在住）だが、実質的に黄川田氏が管理されているということだった。

同年 9 月 12 日～13 日、森本教授と湯澤教授、松山教授が、その家に宿泊して必要な物品などを確認した。

大学として家を借りるということで、学内手続きにやや時間が掛かったが、「陸前高田サポートハウス」と命名し、地区の自治会長、高梨氏、黄川田氏、近くで震災直後から活動していた NGO の方々に、サポートハウス運営委員になっていただいた。「ゴミは住民が 1 軒 1 袋、記名した上でないと出せない」など、地元のルールがあったため、黄川田氏に家の管理とゴミ出し、掃除などをお願いし、現地コーディネーターとなっていたいただいた。

同年 11 月 3 日、運営委員の方々に集まっていただき開所式を行った。大学として、煙探知機や地デジアンテナの設置、ストーブやホットカーペットなど冬の対策をするなど準備を行った。

同年 11 月 20 日から松山ゼミの合宿（8 名）を行い、学生が大勢宿泊できるよう、カーペットを敷いたり、食器や布団の整理をしたり、部屋のレイアウトを変更して準備を整えた。

#### 陸前高田市における活動

|       |                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動開始  | 2012 年 1 月～                                                                                                                                                                                                         |
| 場所    | 岩手県陸前高田市                                                                                                                                                                                                            |
| 派遣回数  | ほぼ毎月 1 回、計 23 回                                                                                                                                                                                                     |
| 参加人数  | のべ175名                                                                                                                                                                                                              |
| 趣旨・目的 | 「支援される人と支援する人」という枠組みの中でボランティアをすることではなく、被災された方々と継続的に交流することを目的としている。20 歳前後の社会経験の少ない若者の学生が、初めて訪れた地で、地元市民と交流して、思い出を一緒に作る。被災された方々にとって、地元の風習や踊り、料理の作り方を学生に教える行為は、本来自らが持っていた力を発揮する機会となり、自己肯定感にもつながっていく。                    |
| 概要    | <p>小友町の民家を借りて活動拠点（「陸前高田サポートハウス」）とし、交流プログラムを開始。①観ること、②感じること、③聴くこと、④交流すること、⑤手紙を出すこと、の 5 つの活動を主眼とする。</p> <p>被災した方々に津波被害の様子やその後の避難生活などの話を繰り返し聴き、サポートハウスで一緒に地元料理を作り、食べながら対話し、「被災者－支援者」の関係性を超えて、人生の“先輩”方から多くのことを学ぶ。学生</p> |

|  |                                                                                                                                                                    |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>はプログラム終了後、交流した方々に手紙や写真を送ることを恒例化している。</p> <p>※視察先：元の陸前高田駅や駅前通り、陸前高田市役所、市民会館、マイヤ、高田高校、体育館、雇用促進住宅、小友中学校、三日市公民館前、小友駅、箱根山展望台、気仙中学校、今泉地区、竹駒駅、モビリアオートキャンプ場の仮設住宅など。</p> |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※2014 年 1 月より、小友コミュニティセンターから、津波襲来時の写真とCD収録データの整理保管作業の依頼を受け、700 枚近い写真全てをプリントしてファイリングを始めた。

#### 陸前高田市におけるその他の活動

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名 | よみがえれ、思い出プロジェクト！ 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 趣旨  | 市内4カ所の市立保育所が発行してきた修了記念文集を復刻し、無料配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 内容  | <p>各保育所が卒園記念として毎年発行してきた手作りの修了文集には、当時の写真や将来になりたい仕事や名前の由来などが自筆で書かれており、保育所行事の写真なども多く掲載されていた。津波によって多くの修了生が命を失うと同時に助かった人の多くも家や財産と共に修了文集も流されてしまっていた。その文集が欲しいという声があったが、保育所も流失してしまった。小友保育所と今泉保育所には原本も残っていなかった。</p> <p>可能な限り綺麗な文集を収集し、復刻版を発行することにし、助成金を得て印刷し無料で配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高田保育所分＝1992年度から2009年度まで（1993, 94, 95年度を除く）<br/>15年分：計900冊</li> <li>・長部保育所分＝1992年度から2010年度まで（2008年度を除く）<br/>18年分：計210冊</li> <li>・小友保育所分＝1991年度から2010年度まで（2007年度を除く）<br/>18年分：計185冊</li> </ul> <p>合計 51年分 1995冊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『今泉保育所のあゆみ』（1958年から2002年まで44年分の集合写真等が掲載されている冊子37頁） 500冊</li> </ul> <p>合計 2,495冊</p> <p>配布は各保育所職員が「直接手渡しして近況を知りたい。」と希望されたことから、市広報にて市民に案内し、希望する方が修了した各保育所に直接取りに行くようにした。また地区の99%が流失してしまった今泉地区では、住民が多くの仮設住宅に散らばり県外避難している住民も多かったが、今泉自治会が直接各戸配布をして下さり、県外避難者には郵送して下さった。</p> |

|     |                                            |
|-----|--------------------------------------------|
| 事業名 | よみがえれ、思い出プロジェクト！ 2                         |
| 趣旨  | 25年前に中学校と文通していたYさん（仮設入居者）と、当時の中学生の再会を実現する。 |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内容 | 27年前に長野県の中学校文化祭で飛ばした風船を拾ったYさんが、そのクラスに手紙を出し2年間文通が続いていた。2年間で200通以上の手紙とその後文化祭に招待されて貰った記念品などの全てを津波で流失してしまった。50年間毎日つけていた日記と大切に保管していた手紙は、毎日読み返していた大切な思い出の品だった。当時のクラス担任を探し出し、卒業生に連絡を取り、思い出の写真や品物を届けることを計画。40歳になっていた元中学生を捜し、長野県で同窓会を開催すると共にYさんを招待し、25年ぶりの再会を果たした。同時に、元中学生から当時の写真や手紙、文化祭資料などが贈呈された。この様子が地元テレビ、新聞で大きく報道され、市の広報にも大きく採り上げられた。その後文通が再開され、仮設住宅を元中学生たちが訪問するなど交流も続いている。 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## ②気仙沼大島交流プログラム（宮城）

宮城県北東部の気仙沼湾に位置する面積 9.05km<sup>2</sup>の大島は、東日本大震災により地震・津波ばかりでなく火災にも見舞われた。離島という立地条件により救援活動が遅れ、住民は孤立状態を余儀なくされた。小中学校は各 1 校のみで、2013 年度末現在も、中学校の校庭には仮設住宅が設置されている。

2011 年 7 月 10 日、プロジェクトメンバーの現地視察の際に、気仙沼および気仙沼大島も訪問した。これは、森本教授と関係のあった 21 世紀社会デザイン研究科講師の石川先生より、活動の場所として気仙沼大島を勧められたため、石川先生も同行して実際の状況やボランティアの活動状況を把握しようと考えたからである。気仙沼大島では、津波被害を受けなかった民宿に泊まり、大島災害対策本部を訪ね状況を伺った。

同年 7 月 31 日、湯澤教授、松山教授、空閑准教授、和助教、大口（院生）が再度、気仙沼大島を訪ねた。その時は、「出来るだけ異なる宿泊先に泊まり、それぞれ現状を伺い活動のニーズを探る」ことを目的にした。さらに一部のメンバーは、震災直後から島で活動していた『つなプロ』と連絡を取り、第三者的な立場から見た島内の状況を伺った。

その中で、湯澤教授が宿泊した明海荘の主人が中学校の PTA 会長をしていることが分かり、今後活動を開始するために窓口的な役割を期待した。翌 8 月 1 日は気仙沼市社会福祉協議会に伺い話を聴いたが、社協としては島内の人間関係が難しいこともあることからしばらくは活動を予定していないということであった。そのため、気仙沼大島での活動は、誰かからの紹介で開始するのではなく、どの団体からも中立的な立場を取ることが必要であると考えた。

同年 8 月 8 日に、松山教授が明海荘を訪ね支援活動のニーズを訊いたところ、小学生や中学生の勉強をみてほしいという要望が出された。会場としては、宿泊先として明海荘を利用するなら明海荘の大広間を使用しているということであった。PTA として活動の案内などをしてくださることなどを確認した。

プロジェクトとしては、子どもの学習支援を明海荘で開始することにした。最初の活動として中立的な立場で開始する事ができ、これを入口として継続することで活動が拡大していくことなどを確認し、9 月からの活動開始を目指して準備に入った。

### 気仙沼大島における活動

|       |                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動開始  | 2011 年 9 月～                                                                                                                                                                                                          |
| 場所    | 気仙沼市大島（宮城県北東部気仙湾の離島、面積 9.05 km <sup>2</sup> ）<br>大震災により地震、津波に加えて火災にも見舞われた。離島のため孤立状態となり救援活動が遅れた。今もなお中学校の校庭に仮設住宅が設置されている。                                                                                              |
| 派遣回数  | ほぼ毎月 1 回、計 34 回                                                                                                                                                                                                      |
| 参加人数  | のべ501名                                                                                                                                                                                                               |
| 趣旨・目的 | 2011年9月、島の子どもたちへの学習サポートや立教生との交流活動をめざして「立教大学べんきょうお手伝い隊」を結成。これを機にほぼ毎月1回の定期訪問開始。<br>小学生から高校生まで、子どもたちが自己肯定感を高めていけるような関わりをめざす。島では珍しい存在である大学生が、子どもたちの「身近な先輩」として、子どもたちの人生の記憶に刻まれる、かけがえのない出逢いを紡ぐ。                            |
| 活動概要  | 地域コミュニティ再生に向けて、大島小学校の季節行事（砂の造形展・運動会・学習発表会・卒業式等）への参加、運営補助。島唯一の児童館での学生企画のクリスマス会（定例化）。おおしまハーティケアセンター（高齢者施設）での交流会の企画、仮設住宅での「おちゃっこ」交流会や健康教室など。<br>その他、大島で開催される「気仙沼つばきマラソン」への参加、児童館や公民館、再開した商店、食堂等への訪問などによる島の現状把握（定期的な実施）。 |

※大島の震災復興は、島の地域社会の存立基盤をいかに持続可能なものとしていくのか、という課題を問うことなしに達成されえない状況である。2014年度以降は、この命題を念頭に置いた上で、島民の想いや願いに寄り添いながら、新たなステージとなる支援活動を展開していきたいと考えている。

### ③石巻交流プログラム（宮城）

石巻市を拠点とする活動は、本プロジェクト委員長の森本教授の研究室が、震災前から既に、同市の小規模多機能型居宅介護施設「めだかの楽園」と調査を通じて関係性を築いていたことが、足掛かりとなっている。

震災発生後、同施設に無事を確認したところ、建物が被災して全壊した「めだかの楽園」と通所介護施設「めだかの楽校」が、早期の事業再開を目指していることが判明した。

そのため、2011 年 5 月に大学院生が訪れ、再開の準備を手伝うとともに、今後のプロジェクトの活動先としての受け入れを打診し準備を重ねた。

## 石巻市における活動

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動開始  | 2011 年 7 月～                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 場所    | 石巻市「めだかの楽園」（小規模多機能型居宅介護施設）、「めだかの楽校」（通所介護施設）                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 派遣回数  | 春・夏・冬の定期的な派遣中心に、計 15 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 参加人数  | のべ139名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 趣旨・目的 | <p>施設の利用者やスタッフをはじめとする住民が力を取り戻し、コミュニティ再生につながる活動を、現地のニーズを尊重しつつ側面支援する。常に寄り添い、求めがあったら手助けができる体制、関係づくりに主眼。</p> <p>被災直後よりも深い悲しみに苦しんでいる人たちがいるという事実を忘れずに寄り添い、被災地で起こっていることを他人事とせず、現地で起こっていることを知る努力をする。自分たちに何ができるのかを常に考え行動する学生を一人でも多く増やしていくことが本プロジェクトの目的の一つ。</p> <p>災害の多い日本において、震災の経験が次世代や他の地域に引き継がれるように努めることも、この活動に携わっている者の使命。</p> |
| 活動概要  | <p>活動初期は、全国から届いた支援物資の近隣住民への配布や、仮設住宅への引っ越し作業の手伝いなど。その後、「細く長くつながっていききたい」という現地の希望に応じて、3.11追悼の会、川開き祭り、クリスマス会の手伝いなどを実施。</p> <p>「めだかの楽園」では、支援というよりも一緒に考えて行動すること、共に楽しみたいという要望が強くあり、立教生の訪問や手伝いが非常に喜ばれている。</p>                                                                                                                    |

※2014 年 3 月、「めだかの楽園」は石巻市元倉地区に通所介護事業を残しつつ、「小規模多機能型居宅介護事業」を同市蛇田地区へ移転した。今後は、さらにサテライト施設の開設も予定されている。また、プロジェクトメンバーの大学院生が、同施設の職員として入職することも決定している。現地の方々の意向を尊重するという基本姿勢は崩さず、復興の状況変化にも十分に注意を払い、学生の力を引き出し、復興の一助になる活動の可能性をさらに追求していきたいと考えている。

## ④南三陸交流プログラム（宮城）

宮城県南三陸町での支援活動は 2011 年 8 月から開始し、コミュニティを紡ぎ直すために様々な活動をしている地元住民らから話を聞き、交流を継続することを主眼としてきた。

当初の活動は、ゼミの活動としてスタートし、プロジェクトの一活動拠点としての基盤作りに努めてきた。プロジェクトメンバーの森本ゼミ、河東仁ゼミ、空閑ゼミが、南三陸町社会福祉協議会被災者生活支援センターや応急仮設住宅に設置されたサテライト施設などを訪れ、講習会や交流会をおこなってきた。年に 4 度ほど南三陸町を訪れ、さまざまなキーパーソンとのつながりを深めた。

## 南三陸町における活動

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動開始    | 2011 年 8 月～                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 場所      | 宮城県南三陸町                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 活動期間と概要 | <p>第 1 期：2011 年 8 月 22 日～25 日／学生 9 名、教員 1 名…空閑ゼミ／主たるプログラム＝田んぼの再生。</p> <p>第 2 期：2011 年 9 月 10 日～12 日／学生 5 名、大学院生 1 名、教員 1 名…森本ゼミ／追悼コンサート（BAY SIDE ROCK FESTIVAL）運営補助。</p> <p>第 3 期：2012 年 8 月 6 日～8 日／学生 15 名、教員 1 名…河東ゼミ／「文化政策から考えるコミュニティ形成と復興」をテーマに伝統工芸や民芸品の創作に携わる方々を訪問。</p> <p>第 4 期：2013 年 8 月 1 日～3 日／学生 12 名、教員 1 名…空閑ゼミ／南三陸町在住の若者らとの懇談会。</p> <p>第 5 期：2013 年 9 月 15 日～17 日／学生 10 名、教員 1 名…河東ゼミ／アーティストを招聘し、多くの町民と共にアートプロジェクトに参加し、文化政策を体感。</p> <p>その他、「被災者生活支援員制度」のもと、仮設住宅などでの生活支援員や住民らとの交流、復興支援福祉アドバイザーらとの交流等。</p> |
| 参加人数    | のべ57名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 趣旨・目的   | 宮城県南三陸町での支援活動は2011年8月から開始し、コミュニティを紡ぎ直すために様々な活動をしている地元住民らから話を聞き、交流を継続することを主眼としてきた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

※2014 年度以降は、これまでの成果を踏まえて、プロジェクトの拠点として本格的に活動を開始し、参加学生にも広く門戸を広げる。これまでのコミュニティを紡ぎ直す活動を、地元住民をエンパワーメントする活動へと、発展させてゆく予定。

具体的な活動としては、生活支援員の方々の活動を DVD 映像として記録に残すプログラムや、津波で甚大な被害をうけた沿岸地域の方々から、「暮らしの記憶」を聴き取って記録して行くプログラム、地元特産品のワカメ漁師の支援等を行っていく予定である。

## ⑤新宿区在住支援交流サロン・さんさん広場（東京）

本活動は、東京都の「避難者の孤立化防止事業補助金交付要綱」に基づき、東京都新宿区社会福祉協議会（以下、新宿社協と略）が実施している事業の一環として行われている活動である。

### 新宿区における活動

|      |                                                                                                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動開始 | 2012 年 1 月～                                                                                                                                                              |
| 場所   | <p>新宿区都営百人町</p> <p>※都営百人町アパートは、約 2000 世帯の住民が住む大規模団地で、高齢化率が約 40%（平均年齢 70 歳以上）と高く、以前から孤立化防止が課題となっていた。また、生活保護や母子世帯、社会生活が難しい世帯など生活全般に支援が必要な方々が数多く居住し、加えて外国人コミュニティに囲まれている</p> |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>状況から、若い世代の大半が外国籍という「文化の壁」もある地域。</p> <p>広域避難者支援サロン「さんさん広場」は、当初、対象者を広域避難者に限定することも検討されていたが、2012年5月、広域避難者以外の地元住民の子どもたちが参加するようになり、地域住民に開かれた多世代交流サロンとして展開することになった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 派遣回数  | 計 49 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 参加人数  | のべ858名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 趣旨・目的 | <p>東京都新宿区社会福祉協議会による「避難者の孤立化防止事業補助金事業」の一環として行われている活動に参加。</p> <p>「支援をする側」と「支援をされる側」の区別がなくなり、地域の課題への対応策の検討に学生が地元住民と同じテーブルで参画しつつある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 活動概要  | <p>2011年8月、早稲田大学の復興支援学生団体が新宿区社会福祉協議会と広域避難者の子どもを対象とした寺子屋を開催したことを契機に、12月に本学を含む複数の大学（東洋大学、文教大学、法政大学、早稲田大学、学習院女子大学、立正大学等）の復興支援学生団体が、学生ネットワーク（Joy Study Project）を結成。</p> <p>2012年1月より学部プロジェクトとして活動開始。多数の関係機関、大学と連携・協働しながら活動を企画・実践。</p> <p>高齢化により地域イベントが少なくなっている現状に着目し、地元自治会（百人町4丁目連絡会）との協働による地域イベント「さんさん夏祭り」を企画。地域コミュニティの活性化と広域避難者支援を連動させている。</p> <p>学生は活動地域の防災に対する関心が高いことに着目し、新たな展開として、東日本大震災の教訓を活かした地域防災・減災を企画した。現在、地元自治会の防災部の会議に参加しながら、災害時の備えやボランティア活動の検討、学生のネットワークを活用した東北や関西の学生団体への救援要請の仕組み検討など、活発な議論を交わしている。</p> <p>学生は、「地域コーディネーター」のようなポジションで活動。復興支援の枠組みを超え、福島県等からの広域避難者と地域住民ら多様なバックグラウンドを持つ人々を結びつけるソーシャルインクルージョンの域に挑戦している。</p> |

※この状況を踏まえて、学生は2014年4月以降の新たな活動方針を「在住支援」と定めた。従来の広域避難者支援は、「定住」や「帰還」という「未来の選択を促す」要素があったが、「今を大事にする」という観点から、選択に悩む広域避難者に寄り添い、地域課題に悩む住民に寄り添いながら、ともに「在住」の基盤を整えていく予定である。今後も、本プロジェクトは、参加学生に対して伴走的な支援を行っていく。



## ⑥いわき交流プログラム（福島）

福島県いわき市は、沿岸部では大きな津波被害を受け、流失した地区も少なくない。さらに、原発事故により相当数の人が避難した。その後、放射線量が早い段階で低下したいわき市には、市民が戻るだけでなく、県外に避難していた原発地域の人々が流入し、原発作業員も滞在地としたことなどから、3万人以上の人口増をみた。

ほとんどの被災地で人口減、過疎化の加速が起きている中で、逆にいわき市では人口が増加し、宿泊施設や賃貸アパート、マンションの不足現象が起きている。住宅地の中には、原発地域8町村の避難者向けの応急仮設住宅とみなし仮設が点在。補償問題も絡み、避難者同士やいわき市民との間に人間関係の軋轢も生んでおり、精神的サポート、新たなコミュニティの創造が急務となっている。

コミュニティ福祉学部には、震災前から福島県と関係が深かった教員が複数おり、震災後も、各教員らが個人的に支援活動を展開してきた。スポーツウェルネス学科の大石和男教授は、福島県立双葉高校出身であり、双葉町長（2014年現在）が同級生という間柄でもあった。プロジェクトメンバーの松山教授は、福島県医療ソーシャルワーカー協会と20年来の関係があったことから、震災直後からいわき市に何度か赴き、個人的な支援活動を実施し、ゼミ生を連れていくなどしていた。

2011年4月18日、松山教授が個人的に福島県郡山市で最大の避難所（約3,000人と言われている）となっていたビッグパレットふくしまを、福島県医療ソーシャルワーカー協会の大川原会長（当時）と視察し、対応策を協議した。翌4月19日、いわき市の鈴木幸一副会長（当時）のもとを訪ね、福島労災病院の避難所巡回チームに同行し、檜葉町からの避難者がいた中央台南小学校やいわき高専などの避難所を訪問、避難生活の現状と避難所の管理状況を視察した。その後、鈴木氏の案内で、市内四ツ倉の非常線から小名浜までの沿岸部における津波被害の状況などを視察した。さらに、3月11日以降のいわき市内の状況について詳細に伺うことができた。

2011年8月17日～18日、松山ゼミの4年生6名が、福島労災病院と太田熱海病院（郡山市）を訪ね、避難所への支援活動の状況などについて話を伺った。

9月21日～22日には、福祉学科2年生の科目「福祉ワークショップ」（松山クラス）の学生17名が福島労災病院を訪ね、鈴木氏より「いわき市の状況と医療ソーシャルワーカーの役割」という講演を聴き、交流した。

いずれも、事前に放射線量についての勉強会を行い、学生自ら数値の理解をするとともに、保証人に対して説明文書を作成、同意が得られた場合にのみ参加することとした。

この頃も、いわき市内は宿泊予約が全く取れない状況であったが、山の中の旅館で避難者と同じ扱いということで、ようやく宿泊場所を確保して実施した。

2012年5月16日～17日、松山教授と卒業研究で震災をテーマに選択した学生2名が福島労災病院の鈴木氏と、いわき市社会福祉協議会を訪ね、震災当時と現状についてヒアリングを行った。

同年7月10日～11日、松山教授が檜葉町地域包括支援センターのある「サポートセンターならは」を訪ね、今後も訪問することや協力を申し出た。

同年8月22日には、鈴木氏と檜葉町地域包括支援センター職員2名と共に、この日に日中立ち入りが許可された檜葉町に入り、町役場、社会福祉会館を訪ね、町の様子を見て回った。社会福祉

会館は3月11日に町民が避難した後、翌12日にいわき市に移動した当時の状態のままであった。その際、「震災前から行われていた敬老会での寸劇を町民が楽しみにしているので台本作りを手伝ってほしい」と依頼され、一緒に台本を作った。

同年9月8日、いわき明星大学体育館で檜葉町敬老会が開催され、寸劇を手伝うとともに、来賓としてあいさつをした。その後、福島労災病院の鈴木氏には、本学の全学共通カリキュラム「コミュニティ福祉から考える震災復興支援」のゲストスピーカーとして、2012年度、13年度、14年度と3回、他に学内公開講演会にお招きし、話をしていただいている。

#### いわき市におけるプロジェクトの活動

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 2014年3月17日（月）～19日（水）「いわきバスツアー」                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 場所   | 福島県いわき市内<br>※いわき市は沿岸部が大きな津波被害を受け、多くの地区が流失。原発事故により相当数の人が避難したが、その後、放射線量が早い段階で低下したため、市民に加えて県外に避難していた原発地域の人々が流入し、3万人以上の人口増となる。これにより宿泊施設や賃貸アパート、マンションの不足現象が起き、住宅地の中には、原発地域8町村の避難者向けの応急仮設住宅とみなし仮設が点在。補償問題も絡み、避難者同士やいわき市民との間に、人間関係の軋轢も生んでいる。精神的サポートを含めて、新たなコミュニティの創造が急務とされている。                                                                |
| 参加人数 | 34名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 活動概要 | 津波の被害状況の視察、東日本国際大学・いわき明星大学の教員からの講演と学生との交流、いわき市社協、福島労災病院からの講演、宿泊先のスパリゾートハワイアンズの支配人による講演会。双葉町役場で町長からの説明を受ける。教員4名、学生30名が参加し、定期的活動の足掛かりとなる。<br>※いわき市における交流プログラムの実施は、第一に原発事故の影響から、放射線量が落ち着くのを待たねばならなかったこと、第二に放射線量がある程度低下しても、真に安全かどうか学生や保護者らの不安があり、特に若い女子学生を連れて行くことについては慎重を期す必要がある、等の理由から時間を要したが、安全面の確認が取れたことから、2014年度より定期的な実施が可能となる見込みが立った。 |

※2014年度からは、本プロジェクトの拠点として、本格的に活動を開始。震災直後から、福島＝原発事故＝放射線被害という一面的な報道が多かったことから、プログラムを通じて、学生にはまず、いわき市が津波被害も受けている事実と現状を把握してもらい、原発地域から避難している住民に対する偏見や差別問題にも目を向け、避難者と地元住民らの新たなコミュニティづくりにも貢献していく予定である。

### （３）今後の活動の見通し

コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクトが本格的な活動を開始して３年が経過した。この間、陸前高田、気仙沼大島、石巻、新宿（広域避難者等支援）をはじめ、南三陸、いわきなどで活動を積極的に展開してきた。また、2013年度からは全カリ（全学共通カリキュラム）に新科目の授業「コミュニティ福祉から考える震災復興支援」を開講し、震災の風化を防ぐとともに、これからの復興について継続的に考える機会を設けている。

#### 社会構造の変化へ対応する視点を

現地では、地域によって差はあるものの、津波被害のあった沿岸部には盛り土がなされ、災害（復興）公営住宅の建設も急ピッチで進められており、表面的には復旧・復興が進んでいるように見える。しかし応急仮設住宅では、自力で高台に転居する人、親戚に身を寄せる人などが増加し、空室が増加する一方で、移転する術（すべ）を持たない人たちの疲れが目立ってきている。仮設住宅に取り残された人たちの多くは、高齢者や単身世帯、あるいは一人親世帯であったりする。

こうした状況は、過疎化・高齢化・少子化が進む地域で、震災以前からゆっくり進行していたと考えられるが、震災後、その現象が加速したとみることもできる。つまり、これからの支援活動は、単に被災地の復旧・復興という意味ではなく、今後、日本各地で予想される社会構造の変化への対応という視点が求められていると言える。

#### 「支援」を超えて

その根幹には、私たちと現地の方々は、支援する者⇒受ける者という関係ではなく、相互に育ちあい、学び合う関係であるという考え方がある。例えば、その地域の郷土芸能や郷土料理は学生にとって初めてのものも多いが、それらは、その地域の歴史と文化を知ることであり、それを学ぶという意味では、学生は教わる立場であり、現地の方は教える立場ということになり、最近ではむしろ、教わることのほうが多いのではないかと感じている。その意味で、「支援」という言葉をいつまでも使うわけにはいかないかも知れない。

#### 新旧住民の「接着剤」に

今後、被災地で盛り土や災害（復興）公営住宅の建設が進み、「日常生活の再建」が進むにつれて、以下の２つの課題が生じてくるのではないかと考えられる。

- ①災害（復興）公営住宅入居者や高台に自力移転した、言わば「新住民」と、その地に以前から暮らしていた「旧住民」との間に、ある種の「葛藤」が生じ、一体的なコミュニティ形成がスムーズに行われなかったかもしれないこと
- ②転居できずに今後も仮設住宅に住み続けるしかない人たちが出現し、周囲のコミュニティから隔絶されていくこと

この両者は別々の課題のように見えるが、コミュニティの再編・再生、社会的包摂の課題であり、コミュニティ福祉学部が専門とする領域である。もちろん、私たちが被災地のそうした課題

をすべて解決できるとは考えてはいないが、この3年間で築いたそれぞれの地域での信頼関係を少しだけ敷衍（ふえん）することで、両者の「接着剤」となり、解決に寄与できるのではないかと考えている。

#### **全学的な展開を期待**

こうした活動は、5年～10年かかるものであり、大学は、上手に世代継承ができれば、十分その役割を果たすことができると思われる。その意味で、昨年度から開始した全カリ授業や、学生が自主的に作り上げたサークル活動などに大きな期待をしている。また、他学部への展開も、それぞれの学部での専門性を考えると、総合大学であることのメリットを発揮できるのではないかとと思われる。その意味で、今後は本プロジェクト活動の全学的な展開も期待している。

■気仙沼市大島活動内容一覧

※＝参加者数

| 期数   | 日程               | 活動内容                                                    | 活動拠点            | 移動手段等   | 参加者数 | ※  |
|------|------------------|---------------------------------------------------------|-----------------|---------|------|----|
| 第1期  | 2011.9/2-9/5     | 子どもとの交流と学習支援、大島視察                                       | 学習支援は旅館を借用      | ・夜行バス   | 18   | 9  |
| 第2期  | 2011.10/1-10/3   | 子どもとの交流と学習支援、大島視察                                       |                 | ・徒歩     | 28   | 11 |
| 第3期  | 2011.11/4-11/7   | 学習支援、レクリエーション、仮設住宅訪問                                    | レクリエーション等は小学校など | ・フェリー   |      |    |
| 第4期  | 2011.12/16-12/19 | 児童館でクリスマス会、学習支援、レクリエーション                                |                 | ・夜行バス   | 40   | 13 |
| 第5期  | 2012.1/7-1/8     | 気仙沼港視察、学習支援、レクリエーション                                    |                 | ・サポートカー |      |    |
| 第6期  | 2012.2/4-2/6     | 気仙沼視察、学習支援、レクリエーション、ピザづくり                               |                 | ・フェリー   |      |    |
| 特別活動 | 2012.2/13-2/14   | 活動先における清掃作業                                             |                 | ・新幹線    | 40   | 15 |
| 特別活動 | 2012.2/25-2/26   | 活動先における石窯作り                                             |                 | ・フェリー   | 15   | 17 |
| 第7期  | 2012.3/2-3/4     | 気仙沼視察、大島視察、学習支援、レクリエーション                                |                 |         | 54   | 14 |
| 第8期  | 2012.4/14-4/15   | 気仙沼視察上同、学習支援、レクリエーション、語り部復興屋台村見学                        |                 |         | 0    | 9  |
| 第9期  | 2012.5/12-5/13   | 気仙沼視察、学習支援、レクリエーション、仮設住宅訪問、女子バスケットボール部参加、太鼓見学           |                 |         | 8    | 17 |
| 第10期 | 2012.6/2-6/3     | 学習支援、小・中・高生とのレクリエーション                                   | 小学校             |         | 17   | 19 |
| 第11期 | 2012.6/30-7/1    | 気仙沼視察、学習支援、レクリエーション、バレーボール(部活)に参加、他大学生との交流、球技大会参加       |                 |         | 23   | 15 |
| 第12期 | 2012.8/4-8/5     | 気仙沼視察、学習支援、レクリエーション                                     |                 |         | 22   | 18 |
| キャンプ | 2012.8/24-2/26   | 気仙沼視察、キャンプ実施(野外シアター、ネイチャーゲーム等)                          | 休暇村             |         | 48   | 16 |
| 第13期 | 2012.8/29-8/31   | 砂の造形展参加、校長先生の講話、仮設住宅でのお茶会、中高生向け個別学習、大島視察                | 小学校             |         | 52   | 19 |
| 第14期 | 2012.9/22-9/23   | 気仙沼視察、学習支援、レクリエーション、太鼓見学、大島施設                           |                 |         | 66   | 19 |
| 第15期 | 2012.10/20-10.21 | 校長先生講話、子どもとの大島探検、連絡船船長の講話、学習発表会参加、ハロウィンパーティ、仮設住宅でのお茶会   |                 |         | 8    | 9  |
| 第16期 | 2012.11/17-11/18 | 学習支援、レクリエーション、クリスマス会の準備                                 |                 |         | 13   | 14 |
| 第17期 | 2012.12/14-12/16 | 学習支援、仮設住宅と児童館でクリスマス会、レクリエーション                           |                 | ・新幹線    | 78   | 10 |
| 第18期 | 2013.1/5-1/6     | 学習支援、レクリエーション、気仙沼視察                                     |                 | ・フェリー   |      |    |
| 第19期 | 2013.2/23-2/24   | 気仙沼視察、学習支援、訪問交流活動、小学校清掃活動に参加、校長先生と懇談会、保護者との交流会、レクリエーション |                 | ・ひまわり号  | 13   | 18 |
| 第20期 | 2013.3/18-3/19   | 気仙沼視察、校長先生を囲む会、卒業式・謝恩会に参加、訪問交流活動、学習支援、子どもと島内ピクニック       |                 |         | 41   | 11 |
| 第21期 | 2013.4/20-4/21   | 気仙沼視察、学習支援、つばきマラソンボランティアとランナーとしての参加、大島視察                |                 |         | 60   | 15 |
| 第22期 | 2013.5/18-5/19   | 小・中合同運動会に参加、学習支援、レクリエーション、ピザづくり                         |                 |         | 30   | 9  |
| 第23期 | 2013.6/29-6/30   | 気仙沼視察、学習支援、スポーツ大会、大島視察                                  | 開発センター          |         | 32   | 24 |
| 第24期 | 2013.8/10-8/11   | 気仙沼視察、気仙沼みなとまつりに参加、リアスアーク美術館視察、仮設住宅での訪問交流活動             |                 |         | 49   | 27 |
| 第25期 | 2013.8/28-8/30   | 小学校砂の造形展に参加、気仙沼視察、ハーティケアセンター訪問、大島視察、訪問交流活動              |                 |         | 18   | 14 |
| 第26期 | 2013.9/28-9/29   | 気仙沼視察、学習支援、「2013はまらんや踊り」上映と懇親会、元校長先生との交流プログラム           |                 |         | 34   | 11 |
| 第27期 | 2013.10/19-10/20 | 気仙沼・大島視察、学習支援、気仙沼さいがいがエフエムの方との交流、学習発表会のお手伝い             |                 |         | 62   | 12 |
| 第28期 | 2013.11/9-11/10  | 学習支援、レクリエーション、現地のSさんとの交流                                |                 |         | 30   | 15 |
| 第29期 | 2013.12/20/12/22 | 学習支援、クリスマス会、復興マルシェのDさんとの交流                              |                 |         | 52   | 17 |
|      |                  |                                                         |                 |         | 47   | 11 |
|      |                  |                                                         |                 |         | 9    | 11 |
|      |                  |                                                         |                 |         | 38   | 14 |
|      |                  |                                                         |                 |         | 44   | 22 |

■石巻市活動内容一覧

※＝参加者数

| 期数   | 日程               | 活動内容                                                                             | 活動拠点・場所               | 移動手段        | ※  |
|------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------|----|
| 第1期  | 2011.7/31-8/2    | 川開き祭りへの参加(灯籠流しのお手伝い等)・めだかの楽園事業所再開イベントのお手伝い・仮設住宅への引っ越し作業のお手伝い・利用者との交流・南浜町の視察      | めだかの楽園<br>仮設住宅        | ・新幹線<br>・JR | 9  |
| 第2期  | 2011.9/13-9/17   | 桃生地区生きがいデイサービスのお手伝い・めだかの楽園お手伝い・利用者との交流                                           | めだかの楽園、石巻市内           | ・新幹線<br>・JR | 3  |
| 第3期  | 2011.9/22-9/24   | 石巻市内の被災・復興状況の視察                                                                  | めだかの楽園、石巻市内           | ・新幹線<br>・JR | 5  |
| 第4期  | 2011.11/22-11/24 | めだかの楽園お手伝い・利用者との交流・芋煮会のお手伝い・大橋仮設住宅訪問・冬服配布のお手伝い                                   | めだかの楽園、大橋仮設住宅         | ・新幹線<br>・JR | 4  |
| 第5期  | 2011.12/22-12/25 | 佑ホームクリニック主催のクリスマス会のお手伝い・めだかの楽園利用者との交流(クリスマスプレゼント企画の実施等)・女川町・牡鹿半島方面の視察            | めだかの楽園・大橋仮設住宅         | ・新幹線<br>・JR | 5  |
| 第6期  | 2012.2/15-2/18   | 傾聴ボランティア(大橋仮設住宅集会所)への参加、めだかの楽園利用者との交流、女川町・牡鹿半島方面の視察、南浜町・門脇地区の視察                  | めだかの楽園・大橋仮設住宅、石巻市内    | ・新幹線<br>・JR | 6  |
| 第7期  | 2012.3/10-3/11   | 「東日本大震災での福祉支援のあり方シンポジウム」のお手伝い、めだかの楽園 3.11 鎮魂イベントのお手伝い                            | 石巻グランドホテル、めだかの楽園、石巻市内 | ・新幹線<br>・JR | 12 |
| 第8期  | 2012.7/31-8/2    | 川開き祭りへの参加(灯籠流しのお手伝い・神輿担ぎへの参加等)、めだかの楽園利用者との交流、石巻市内の被災・復興状況の視察                     | 石巻市内<br>めだかの楽園        | ・新幹線<br>・JR | 11 |
| 第9期  | 2012.10/6-10/7   | 「東北元気フェスティバル in 石巻」への参加(「石巻茶色い焼きそばアカデミー」の出店のお手伝い等)、めだかの楽園利用者との交流、石巻市内の被災・復興状況の視察 | 石巻市内<br>めだかの楽園        | ・新幹線<br>・JR | 3  |
| 第10期 | 2012.12/22-12/24 | めだかの楽園クリスマス会に参加(プレゼント企画の実施等)、石巻市内から気仙沼方面の被災・復興状況の視察                              | 石巻市内<br>めだかの楽園        | ・新幹線<br>・JR | 15 |
| 第11期 | 2013.3/9-3/12    | めだかの楽園「舞魂祭」のお手伝い(石巻焼きそばの出店の出店等)・利用者との交流、石巻市内の被災・復興状況の視察                          | 石巻市内<br>めだかの楽園        | ・新幹線<br>・JR | 20 |
| 第12期 | 2013.7/31-8/1    | 川開き祭りへの参加(灯籠流しのお手伝い等)、めだかの楽園利用者との交流・学生企画イベントの実施<br>石巻市内の被災・復興状況の視察               | 石巻市内<br>めだかの楽園        | ・新幹線<br>・JR | 12 |
| 第13期 | 2013.12/21-12/23 | めだかの楽園クリスマス会で利用者との交流・学生企画イベントの実施、石巻市内の被災・復興状況の視察、福祉仮設住宅「あがらいん」視察                 | 石巻市内<br>めだかの楽園        | ・新幹線<br>・JR | 6  |
| 第14期 | 2014.3/13-3/15   | めだかの楽園の移転の手伝い、石巻市内の視察(Newse、復興マルシェ、門脇地区、南浜町、日和山)                                 | 石巻市内<br>めだかの楽園        | ・新幹線<br>・JR | 13 |
| 第15期 | 2014.3/22-3/24   | めだかの楽園の移転の手伝い、石巻市内の視察(Newse、復興マルシェ、門脇地区、南浜町、日和山)                                 | 石巻市内<br>めだかの楽園        | ・新幹線<br>・JR | 15 |

■陸前高田市活動内容一覧

※＝参加者数

| 期数  | 日程               | 活動内容             | 滞在拠点・場所                    | 移動手段等 | ※  |
|-----|------------------|------------------|----------------------------|-------|----|
| 準備期 | 2011.11/20-11/21 | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流 | 陸前高田市内、大船渡市、サポートハウス        | ・高速バス | 7  |
| 第1期 | 2012.1/8-1/9     | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流 | サポートハウス<br>モビリア仮設住宅        | ・高速バス | 7  |
| 第2期 | 2012.2/18-2/19   | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流 | 元陸前高田駅、サポートハウス<br>モビリア仮設住宅 | ・高速バス | 5  |
| 第3期 | 2012.3/19-3/20   | 被災状況視察、被災者と交流    | 気仙沼市内、陸前高田市、サポートハウス        | ・高速バス | 8  |
| 第4期 | 2012.3/21-3/22   | 被災状況視察、被災者と交流    | 気仙沼市内、陸前高田市、サポートハウス        | ・高速バス | 10 |

|        |                  |                                                                           |                                                                                    |                                 |    |
|--------|------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|----|
| 第 5 期  | 2012.6/2-6/3     | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流                                                          | モビリア仮設住宅、サポートハウス、<br>気仙沼市                                                          | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 6  |
| 第 6 期  | 2012.6/15-6/17   | 仮設住宅の方と交流、流しそう麺準備、神戸<br>大生と交流                                             | 気仙沼市、モビリアン仮設住宅、高<br>田地区、サポートハウス、三日市仮<br>設住宅                                        | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 4  |
| 第 7 期  | 2012.7/7-7/8     | 実施せず                                                                      |                                                                                    |                                 | 0  |
| 第 8 期  | 2012.7/13-7/15   | 流しそう麺準備、仮設住宅の方と交流、被災<br>状況視察、                                             | 高田地区、気仙沼市、サポートハウ<br>ス、モビリア仮設住宅                                                     | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 5  |
| 第 9 期  | 2012.7/27-8/1    | 流し素麺実施、子どもたちとの交流と学習支<br>援、被災状況視察                                          | モビリア仮設住宅、箱根山展望台<br>サポートハウス                                                         | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 13 |
| 第 10 期 | 2012.8/24-8/25   | 実施せず                                                                      |                                                                                    |                                 |    |
| 第 11 期 | 2012.9/14-9/16   | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流                                                          | 高田地区、小友地区、広田地区<br>モビリア仮設住宅、サポートハウス                                                 | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 7  |
| 第 12 期 | 2012.10/13-10/15 | ZERO バス下見、被災状況視察、仮設住宅<br>の方と交流、Yさんと交流                                     | 高田地区、モビリア仮設住宅<br>サポートハウス                                                           | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 5  |
| 第 13 期 | 2012.12/7-12/10  | Yさんと交流、入院中の仮設住宅の方への<br>見舞                                                 | サポートハウス、大船渡病院                                                                      | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 3  |
| 第 14 期 | 2013.1/19-1/20   | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流(Yさ<br>ん、Dさん)、                                            | 南気仙沼、鹿折地区、モビリア仮設<br>住宅、サポートハウス                                                     | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 4  |
| 第 15 期 | 2013.2/21-2/23   | 被災状況視察、モビリア仮設住宅の方と交<br>流(Yさん、Tさん)、東海新報社訪問、滝の<br>里仮設住宅の方と交流(Mさん)           | 気仙沼鹿折地区、気仙大工伝承館、<br>八木澤商店街、小友地区、サポート<br>ハウス、東海新報、気仙大工伝承<br>館、モビリア仮設                | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 7  |
| 第 16 期 | 2013.3/12-3/14   | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流                                                          | 鹿折唐桑駅、米沢商会ビル、陸前高<br>田駅、小友地区、八木澤商店街、モ<br>ビリア仮設、サポートハウス、モビリア<br>仮設、今泉地区              | ・新幹線<br>・ドラゴンレー<br>ル<br>・サポートカー | 12 |
| 第 17 期 | 2013.5/1-5/3     | 被災状況視察、Yさん夫妻と交流、東海新<br>報社訪問、モビリア仮設住宅の方と交流(Y<br>さん・Tさん宅)、仮設住宅自治会長さんと交<br>流 | 三日市地区、鹿折地区、モビリア仮<br>設住宅、サポートハウス、高田地区、<br>小友地区、三日市地区、箱根山台、<br>八木澤商店                 | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 7  |
| 第 18 期 | 2013.6/14-6/16   | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流                                                          | 陸前高田元市街地、小友地区、八木<br>澤商店、サポートハウス                                                    | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 7  |
| 第 19 期 | 2013.7/12-7/14   | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流                                                          |                                                                                    | ・新幹線<br>・サポートカー<br>・レンタカー       | 11 |
| 第 20 期 | 2013.8/19-8/22   | 被災状況視察、仮設住宅の方と交流、東海<br>新報社訪問                                              | 小友地区、三日市地区、大船渡市内<br>東海新報、高田地区、サポートハウ<br>ス、モビリア仮設住宅、八木澤商店<br>気仙地区                   | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 15 |
| 第 21 期 | 2013.9/2-9/5     | 被災状況視察、東海新報社訪問、仮設住宅<br>の方と交流                                              | 高田地区、モビリア仮設住宅、展望<br>台、八木沢商店、小友地区、三日市<br>地区、大船渡市内、穴通し磯、碁<br>石、気仙沼市、サポートハウス、東海<br>新報 | ・新幹線<br>・サポートカー<br>・レンタカー       | 13 |
| 第 22 期 | 2013.10/25-10/27 | 仮設住宅の方と交流(T・Y さん)、被災状況<br>視察、東海新報社                                        | 高田地区、小友地区、八木沢澤商店<br>今泉地区、鹿折唐桑地区、エースポ<br>ート、モビリア仮設住宅、気仙沼市、<br>サポートハウス、東海新報          | 新幹線、<br>サポートカー<br>レンタカー         | 7  |
| 第 23 期 | 2013.11/8-11/10  |                                                                           |                                                                                    | ・新幹線<br>・サポートカー                 | 7  |
| 第 24 期 | 2013.12/6-12/8   | 実施せず                                                                      |                                                                                    |                                 | 0  |
| 第 25 期 | 2014.1/17-1/19   |                                                                           |                                                                                    |                                 | 5  |
| 第 26 期 | 2014.3/13-3/15   | 実施せず                                                                      |                                                                                    |                                 | 0  |

2013 年 9 月 避難行動聴き取りをアーカイブ化

■南三陸活動内容一覧

※＝参加者数

| 期数  | 日程             | 活動内容                                                 | 活動拠点・場所 | 移動手段     | ※  |
|-----|----------------|------------------------------------------------------|---------|----------|----|
| 第2期 | 2011.9/10-9/12 | 被災地視察、「入谷YSE工房」見学、追悼コンサート運営補助、Sさん・Mさんによる講話、田んぼの塩抜き作業 | 南三陸町    | JR・新幹線、車 | 7  |
| 第3期 | 2012.8/6-8/8   | 仮設住宅訪問、被災地視察、YES工房見学、現地で被災者支援を行う方との懇談会               | 南三陸町    | JR・新幹線、車 | 15 |
| 第4期 | 2013.8/1-8/3   | Mさんの講話、生活支援員さんとの交流、被災地視察、Sさんの講話、被災者との交流              | 南三陸町    | JR・新幹線、車 | 14 |
| 第5期 | 2013.9/15-9/17 | 被災地視察、YSE工房見学、被災者との交流                                | 南三陸町    | JR・新幹線、車 | 11 |

■新宿活動内容一覧

※＝参加者数

| 期数       | 日程      | 活動内容           | 活動拠点・場所 | ※  |
|----------|---------|----------------|---------|----|
| 2011年11月 | 準備会議1   | さんさん広場準備会議     | 新宿区     | 15 |
| 12月      | 準備会議2   | さんさん広場準備会議     | 新宿区     | 16 |
| 2012年1月  | 準備会議3   | さんさん広場準備会議     | 新宿区     | 16 |
| 2月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 28 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 3月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 6  |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 4月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 17 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 5月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 28 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 6月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 31 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 7月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 19 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 8月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場、さんさん夏祭り | 新宿区     | 53 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 9月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 20 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 10月      | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 14 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 11月      | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 15 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 12月      | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 16 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 2013年1月  | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 16 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 2月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場、さんさん冬祭り | 新宿区     | 28 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 3月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 27 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 4月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 11 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 5月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 24 |
|          | 第3週の土曜日 |                | 新宿区     |    |
| 6月       | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区     | 23 |



|         |         |                |     |     |
|---------|---------|----------------|-----|-----|
|         | 第3週の土曜日 |                | 新宿区 |     |
| 7月      | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区 | 19  |
|         | 第3週の土曜日 |                | 新宿区 |     |
| 8月      | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区 | 30  |
|         | 第3週の土曜日 |                | 新宿区 |     |
| 9月      | 第2週の土曜日 | さんさん広場、さんさん夏祭り | 新宿区 | 71  |
|         | 第3週の土曜日 |                | 新宿区 |     |
| 10月     | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区 | 14  |
| 11月     | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区 | 16  |
| 12月     | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区 | 28  |
| 2014年1月 | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区 | 32  |
| 2月      | 第2週の土曜日 | さんさん広場、さんさん冬祭り | 新宿区 | 126 |
| 3月      | 第2週の土曜日 | さんさん広場         | 新宿区 | 99  |

## （４）その他の取組み

### ■ZERO バスツアー（学生支援局「Three-S」との連携事業）

#### 【第１弾（2012 年度）】

|       |                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日   | 1期：2012年6月9日（土）～10（日）<br>2期：2012年6月23日（土）～24日（日）                                                    |
| 参加者数  | 1期：計16名（学生9名、スタッフ5名、リサーチ・アシスタント1名、教員1名）<br>2期：計26名（学生11名、スタッフ7名、リサーチ・アシスタント1名、教員1名、立教新座高校生徒4名・教員2名） |
| 訪問場所  | 宮城県石巻市、東松島市内（大曲地区、南浜地区）、牡鹿のれん街、御番所公園、女川町立病院、女川産業廃棄物選別処理場                                            |
| プログラム | 女川産業廃棄物選別処理場の方、さかり旅館の方の話を伺うボランティア（処理場の外壁に女川の子どもたちが書いた絵を張る）                                          |

#### 【第２弾（2012 年度）】

|       |                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日   | 2012年11月24日（土）～25日（日）                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参加者数  | 計17名（学生9名、教員1名、RA2名、スタッフ5名）                                                                                                                                                                                                                              |
| 訪問場所  | 岩手県陸前高田市                                                                                                                                                                                                                                                 |
| プログラム | ①視察：高田地区（陸前高田市街地）では、震災前・震災直後の写真や地図と目の前の景色を見比べながら、陸前高田市内を視察。三日市地区では、当時サポートハウスにて避難生活を送っていた方々が住んでいた場所を訪問。<br>②交流：主に陸前高田プログラムを通して、関わり続けてきた方との交流。サポートハウスで避難生活体験をするにあたり、当時避難されていた方からのお話。<br>③生活体験：震災発生当時に似た気候の中、震災当時サポートハウスで避難生活をされていた人数でサポートハウスに宿泊し、当時の生活を再現。 |

#### 【第３弾（2013 年度）】

|       |                                                                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日   | 2013年5月1日（水）～2日（木）                                                                         |
| 参加者数  | 計36人（学生27名、教員1名、スタッフ9名）                                                                    |
| 訪問場所  | 宮城県石巻市内、東松島市内（大曲地区、南浜地区）、石巻NEWSee、牡鹿のれん街・御番所公園、石巻漁港、女川町立病院、女川産業廃棄物選別処理場                    |
| 目的    | 主にこれから復興支援に向けて動き出そうとしている学生に、テレビでは伝わらない被災地の実状を感じてもらうことで、「何かしたい。でも何をすれば…」という想いを行動に移すきっかけにする。 |
| プログラム | 現地活動：石巻NEWSee、さかり旅館、女川産業廃棄物選別処理場にてお話を伺う。当日フィードバック（宿泊部屋、活動グループごとに意見交換）                      |

#### 【第４弾（2013 年度）】

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 実施日   | 2013年9月13日（金）～14日（土）                      |
| 参加者数  | 計13名（学生7名＋教員1名＋RA1名＋スタッフ5名）               |
| 訪問場所  | 岩手県陸前高田市内、大船渡市内（高田地区、奇跡の一本松、大船渡駅周辺、八木澤商店） |
| プログラム | 鮮魚シタボ、米沢商会、八木澤商店会長・河野和義さんのお話。奇跡の一本松見学ほか。  |

■正課授業

- ・2013年度前期：全学共通カリキュラム「コミュニティ福祉から考える震災復興支援」

■講座等

【2011 年度】

＜新入生ガイダンス＞

|     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| 実施日 | 2011年4月25日（月）                      |
| 内容  | 東日本大震災の復興支援に関する立教大学コミュニティ福祉学部の取り組み |

＜復興支援連続講座＞

|     |                                                                                                                                                                                        |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2011年5月10日（火）～12日（木）                                                                                                                                                                   |
| 内容  | 震災とボランティア～私たちにできること～<br>① 5月10日（火）「現地レポート」／仙台市若林区、石巻市：松山真教授、陸前高田市、いわき市：湯澤直美教授<br>②5月11日（水）「災害ボランティア入門」／講師：唐木理恵子氏（日本ボランティアコーディネーター協会）<br>③5月12日（木）「復興支援ボランティアレポート」／講師：佐藤太氏（英語講師、ピースボート） |

＜ランチミーティングとワークショップ＞

|     |                                                                                                                                  |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2011年5月20日（金）、6月4日（土）、11日（土）                                                                                                     |
| 内容  | ①5月20日（金）ランチミーティング<br>②6月4日（土）ビジョン・ワークショップ“はじめの一歩プランをつくる”<br>③6月11日（土）マインド・ワークショップ“震災と自分を受けとめる”<br>ファシリテーター：沖直子氏（プログラム・コーディネーター） |

＜復興支援連続講座＞

|     |                                                                                                                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2011年11月29日（火）～12月1日（木）                                                                                                                               |
| 内容  | テーマ：半年間の活動報告～学生ボランティアの可能性～<br>①11月29日（火）陸前高田市「高田サポートハウス」レポート：松山真教授<br>②11月30日（水）石巻市「めだかの楽園」でのボランティア：片山友子（RA）<br>③12月1日（木）気仙沼大島『立教べんきょうお手伝い隊』報告：湯澤直美教授 |

【2012 年度】

＜新入生ガイダンス＞

|     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 実施日 | 2012年4月6日（金）                      |
| 内容  | コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクトからのお知らせ |

＜復興支援連続講座＞

|     |                                                                                                                                |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2012年4月25日（水）～27日（金）                                                                                                           |
| 内容  | ①4月25日（水）気仙沼大島『立教べんきょうお手伝い隊』報告：湯澤直美教授＋参加学生<br>②4月26日（木）石巻市「めだかの楽園」でのボランティア：森本佳樹教授＋参加学生<br>③4月27日（金）陸前高田市 視察と交流プログラム：松山真教授＋参加学生 |

<夏季復興支援ボランティア説明会>

|     |                                                                                                                                       |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2012年7月10日（火）～12日（木）                                                                                                                  |
| 内容  | ①7月10日（火） 陸前高田市 仮設住宅での流しそうめん等：松山真教授＋参加学生<br>②7月11日（水） 気仙沼大島べんきょうお手伝い隊、砂の造形展：湯澤直美教授＋参加学生<br>③7月12日（木） 石巻市「川開き祭り」：荻生奈苗。新宿区「百人町夏祭り」：大口達也 |

<復興支援連続講座>

|     |                                                                                                                                                   |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2012年12月12日（水）～14日（金）                                                                                                                             |
| 内容  | テーマ：学生ボランティアの力<br>①12月12日（水） 石巻市「めだかの楽園」でのボランティア：長倉真寿美准教授＋荻生奈苗<br>②12月13日（木） 陸前高田市「陸前高田交流プログラム」：松山真教授<br>③12月14日（金） 気仙沼大島『立教べんきょうお手伝い隊』報告：杉山明伸准教授 |

【2013年度】

<新入生ガイダンス>

|     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 実施日 | 2013年4月6日（土）                      |
| 内容  | コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクトからのお知らせ |

<復興支援連続講座>

|     |                                                                                                                                                                                  |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日 | 2013年6月25日（火）～28日（金）                                                                                                                                                             |
| 内容  | テーマ：第6回連続講座 学生ならではの復興支援活動 ～被災地の今～<br>① 6月25日（火） 石巻市での活動説明：長倉真寿美准教授<br>② 6月26日（水） 気仙沼大島での活動説明：湯澤直美教授<br>③ 6月27日（木） 陸前高田市での活動説明：松山真教授<br>新宿区での活動説明：大口達也<br>④ 6月28日（金） 各拠点の概要説明（池袋） |

■外部助成の一覧

【2011年度】

|                                 |            |
|---------------------------------|------------|
| 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」第4次助成 | 2,950,000円 |
|---------------------------------|------------|

【2012年度】

|                                 |            |
|---------------------------------|------------|
| 三菱商事復興支援財団                      | 2,500,000円 |
| 埼玉県社会福祉協議会                      | 300,000円   |
| 公益財団法人JKA                       | 3,000,000円 |
| 大和証券福祉財団                        | 500,000円   |
| 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」第8次助成 | 2,460,000円 |

【2013年度】

|            |            |
|------------|------------|
| 三菱商事復興支援財団 | 2,500,000円 |
| 全日本社会貢献機構  | 4,500,000円 |
| 電通育英会      | 1,000,000円 |

#### 4. 大学としての取組み—その2：講演会、シンポジウム等

復興支援本部の活動と並行して、学内の各学部・研究科、事務系各部署において講演会や各種のシンポジウム、セミナーが開催された。被災者の体験を直接聞く機会や、復興支援のあり方、震災以後の生き方など様々な議論がなされた。3.11 から何を学ぶか、また、いつ起こるかもしれない大災害にどのように備えるのか、被災者の気持ちに寄り添いつつ、大学は知の拠点としても災害について真摯に思考することが求められている。

※「開催趣旨」は、主催者の問題意識を感じて頂くために、すべて開催当時のままとしました。それぞれの記録については各主催団体に照会ください。

##### （１）2011 年度

|        |                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年4月23日（土）                                                                                                                                                                                                        |
| 内容・テーマ | 第1回「東日本大震災で何が起きたのか～まず現状把握から始めよう～」                                                                                                                                                                                    |
| 主催     | 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所、跡見学園女子大学大学院マネジメント研究科、21世紀社会デザイン研究学会、災害救援ボランティア推進委員会                                                                                                                                          |
| 場所     | 跡見学園女子大学 茗荷谷キャンパス2号館3階 M2301教室                                                                                                                                                                                       |
| 講師     | 吉村英子氏（跡見学園女子大学大学院マネジメント研究科教授）、中村陽一（21世紀社会デザイン研究科教授・研究科委員長）、北山晴一（21世紀社会デザイン研究学会会長）、澤野次郎氏（災害救援ボランティア推進委員会委員長）                                                                                                          |
| 開催趣旨   | 東日本大震災は私たちが生まれ、はぐくみ、生活を営んできた日本の国土と社会、人間の関係に大きな変容を迫る未曾有の惨事といえましょう。私たちはこの国土と社会をどのように再建し、どのように人間の関係を紡ぎ直していくのか。数限りない課題が待ち受けていることは疑いようありませんが、まずは直接間接に災害に関わられた方々の言葉に耳を傾け、それぞれの思いを語り合う場を持つことが大切だと考え、以下の要領で討論集会を開催することにしました。 |

|        |                                                                                                                                                                            |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年5月11日（水）                                                                                                                                                              |
| 内容・テーマ | 第1回緊急シンポジウム「震災後を語る集い—私たちに何ができるか—」                                                                                                                                          |
| 主催     | 法学部                                                                                                                                                                        |
| 発表者    | 長有紀枝（立教大学教授・難民を助ける会理事長）、太田夢香（難民を助ける会）、富貴大輔・今井尚（朝日学生新聞社記者）、角紀代恵（立教大学法学部長・教授）、李鍾元（立教大学教授）、木村真希子（立教大学兼任講師）、司会：竹中千春（立教大学教授）                                                    |
| 開催趣旨   | 2011年3月11日（金）に発生した東日本大震災の残したつめあとを、私たちはどう受け止め、自らを癒やし、再び立ち上がることができるのか。キャンパスに戻ってきた、また新しく加わった学生の方々、職員や市民の方々とともに、震災後の世界についてともに語り合い、考えたいと思います。参加された皆様にもご自身の経験や考えを語っていただきたいと思います。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年5月20日（金）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト<br>第1回イベント「立教生が語る＜震災支援ボランティア＞」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 主催     | 社会学部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 共催     | ボランティアセンター、ESD 研究センター、共生社会研究センター、平和・コミュニティ研究機構                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 報告者    | 震災支援活動に参加した本学学生（4名）、ファシリテーター：長有紀枝（社会学部教授）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 開催趣旨   | <p>3月11日の東日本大震災は、現在も私たちの心に重くのしかかっています。ご自身やご家族が被災された方もいるでしょうし、多くの皆さんは被災地の状況を見ながら、自分に何かできないかと思っているのではないのでしょうか。しかし、なにをどうすればいいのかわからない、経験も知識もない私が行ってもかえって迷惑ではないか、やはり現地は危険なのではないか、と悩んでいる方も多いと思います。</p> <p>立教生ができる支援とはなんだろう？立教生ができる支援をやろう！私たちができることを考えるプロジェクトとして、社会学部はボランティアセンターなどの協力を得ながら、「RDY（立教生ができることをやろう） 震災支援プロジェクト」を立ち上げることにしました。まずいくつかのイベントを行って、被災地や支援活動を知ることから始めたいと思います。第1回は、すでに支援活動のボランティアに参加してきた立教生の皆さんに、支援活動とはどういうことをするのか、現場でどう感じたかなどを報告していただきます。学生・院生の方をはじめ、教職員、校友、一般の皆さんのご参加をお待ちしています。</p> |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日           | 2011年5月23日（月）、5月26日（木）、6月2日（木）、6月16日（木）                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 内容・テーマ        | 東日本大震災復興支援ボランティア・ランチタイムセミナー「震災支援とわたし・立教生から伝わる道」                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 主催            | ボランティアセンター                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 報告者<br>（発表日順） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・増山智也（法学部法学科2年次・「炭の家」高齢者介護）</li> <li>・井上慶太郎（現代心理学部映像身体学科2年次・石巻、気仙沼支援）</li> <li>・山崎太郎氏（メディアセンター業務委託者、陸前高田消防団として活動）</li> <li>・石川早姫（文学部フランス文学科3年次、会津若松市で子どものケア）</li> </ul>                                                                                                                |
| 開催趣旨          | <p>東日本大震災後、現地に支援活動に行くための情報を求める学生や、後方支援として何がしたいか知りたいという学生からボランティアセンターに多くの問合せがあった。そのようなニーズに答える方法のひとつとして、比較的早期に東北の被災地に赴いて現地に滞在し、支援を行った立教の学生と業務委託職員の実際の活動報告を聞く機会を持った。現地での活動を終えて、5月の連休明けから大学の授業が始まり、東京での日常生活に戻った今も現地に対して自分は何ができるのか？ 生身の体験や人々との出会いから気づいたことを他者に伝えることや、自分なりの支援のあり方を考えていく時間を、今後支援に関わりたという学生教職員と質疑応答を通じて共有する時間となった。</p> |

|        |                                                                                                                                |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年5月26日（木）                                                                                                                  |
| 内容・テーマ | 連続講演会「原発社会に未来はあるか？」<br>第1回「原発という選択のあやうさー福島第一原発事故とその背景ー」                                                                        |
| 主催     | 平和・コミュニティ研究機構                                                                                                                  |
| 講師     | 菅井益郎氏（国学院大学 経済学部教授）                                                                                                            |
| 開催趣旨   | <p>今回の原発事故によって、ようやく原発問題を自分たちのこれからの社会の問題として正面から議論できるようになりました。今回は、技術面も含めて原発問題の全体像やこれまでの歴史を、長年にわたって原発、東京電力、政府を批判し、取り組んでこられた菅井</p> |

|  |               |
|--|---------------|
|  | 教授にお話しいただきます。 |
|--|---------------|

|        |                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年5月28日（土）                                                                                                                                                                                                   |
| 内容・テーマ | シリーズ 3.11 後の日本と社会デザイン<br>第2回「復興を考える前に」                                                                                                                                                                          |
| 主催     | 21 世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所、21 世紀社会デザイン研究学会                                                                                                                                                                        |
| 協力     | 災害救援ボランティア推進委員会                                                                                                                                                                                                 |
| 講師     | 室崎益輝氏（関西学院大学総合政策学部教授）<br>パネリスト：川村仁弘（21 世紀社会デザイン研究科・経営学部教授）、中村陽一（21 世紀社会デザイン研究科教授・研究科委員長、法学部教授）、北山晴一（立教大学名誉教授、21 世紀社会デザイン研究学会会長）                                                                                 |
| 開催趣旨   | 地震津波の猛威を前にしての茫然自失、そしていつ終わるのか予想もつかない原発事故の恐怖を思えば、復興を考えることがいかに困難な業であるか自問自答せざるを得ません。とはいえ世界の文明史を振り返るならば、復興と再建は人間の宿命です。復興は必ずなされるでしょう。しかし、どのような復興なのか。今回の講演会においては復興再建を考える前に私たちが思いを馳せ、考えをめぐらさなければならない事柄について議論を深めたいと思います。 |

|        |                                                                                                      |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 5 月 31 日（火）                                                                                   |
| 内容・テーマ | 英語による震災後のケア・レクチャーThe lecture in English "How You Can Cope with a Disaster"                           |
| 主催     | 国際センター                                                                                               |
| 講師     | 青島あすか氏（東京英語いのちの電話【Tokyo English Life Line】臨床心理士および児童保護サービス・コーディネーター）                                 |
| 開催趣旨   | 震災後、地震や津波などの被害に対する恐怖や不安を抱えている皆さんに、恐ろしい経験をした後によくみられる共通な行動反応を紹介し、恐怖や不安を和らげるさまざまな対処法について話し合います。※使用言語:英語 |

|        |                                                                                                                |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 6 月 3 日（金）                                                                                              |
| 内容・テーマ | 連続講演会「原発社会に未来はあるか？」<br>緊急講演会「ドイツは脱原発に舵を切った―‘Fukushima’のインパクト―」                                                 |
| 主催     | 平和・コミュニティ研究機構                                                                                                  |
| 講師     | Miranda Schreurs 氏（ベルリン自由大学教授、ドイツ政府原子力・再生エネルギー政策諮問委員）                                                          |
| 開催趣旨   | 福島第1原発事故は世界の原発政策を再検討する契機になった。とくにドイツは脱原発に大きく舵を切った。その経緯を日独環境政策の専門家で、今回ドイツ政府の諮問委員会のメンバーとなったシュラース教授が解説する。※使用言語:日本語 |

|        |                                        |
|--------|----------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 6 月 11 日（土）                     |
| 内容・テーマ | 連続講演会「原発社会に未来はあるか？」<br>第2回「原子力発電と地方自治」 |

|      |                                                                                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主催   | 平和・コミュニティ研究機構                                                                                                                                |
| 講師   | 佐藤栄佐久氏（前福島県知事）                                                                                                                               |
| 開催趣旨 | 原子力発電を受け入れることは地方自治体にとっては重大な決断である。福島県前知事として原発の受け入れ、安全の確保にどのように苦闘したのか、また東京電力や安全・保安庁、検察庁はどのように対応したのか。『知事抹殺』（平凡社）の著者がその経緯と被災・事故後に福島県各地を歩いた思いを語る。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 6 月 11 日（土）                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 公開シンポジウム「私たちがこれからできること―陸前高田を例に」<br>第一部：映画上映「生命（いのち）―希望の贈り物」<br>第二部：シンポジウム「私たちがこれからできること―陸前高田を例に」                                                                                                                                                                                                       |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 講師     | シンポジスト：池谷薫氏（映画監督・現代心理学部映像身体学科特任教授）、足立千佳子氏（RQ 市民災害救援センター ボランティア）、学生 3 名（現地ボランティア体験者）<br>進行：砂川浩慶（本学社会学部メディア社会学科准教授）、事前説明：工藤秀夫（学生部学生生活課長）                                                                                                                                                                 |
| 開催趣旨   | 2011 年 3 月 11 日（金）14 時 46 分に発生した「東日本大震災」とその後の余震は 15 都府県で犠牲者を出し、500km を超える広域の被災地を生み出し、地震・津波・原発というかつてない三重苦をもたらしています。被災地はそれぞれの苦悩を持ち、復興への道のりは一様ではありません。<br>大震災に立教大学はどのような役割を果たせるのか。立教大学では長年、陸前高田市の協力を得て、林業体験を実施し、生田の郷で「立教の森」をはぐくんできました。これまでのご恩返しを兼ねて、復興へ向けて私たちが果たせることは何かを考えていきたいと思っています。今回のシンポジウムはその第一歩です。 |

|        |                                                                                                      |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 6 月 16 日（木）                                                                                   |
| 内容・テーマ | 連続講演会「原発社会に未来はあるか？」第 3 回「原発なしでも大丈夫ですか？―エネルギー基本計画の失敗と転換の必要性」                                          |
| 主催     | 平和・コミュニティ研究機構                                                                                        |
| 講師     | アンドリュー・デウィット Andrew DeWit（経済学部教授）                                                                    |
| 開催趣旨   | 震災後の日本において、従来のエネルギー基本計画が変更を迫られ、エネルギー転換が不可避の現実となった中で、エネルギー政策における制度選択およびその政策決定過程について、歴史的制度選択の観点から報告する。 |

|        |                                                                                                                                                    |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 6 月 18 日（土）                                                                                                                                 |
| 内容・テーマ | 東日本大震災復興支援セミナー（vol.1）「心のケア」                                                                                                                        |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                                                         |
| 講師     | 山中淑江（本学現代心理学部教授、学生相談所カウンセラー）                                                                                                                       |
| 開催趣旨   | 被災地の方に接する時にわたしたちはどのようなことに注意したらいいのか。日常でない体験をした方々とのコミュニケーション方法について、ワークショップ形式を交えながら体験を通して学んでいく。また日常でない場面に出会ったボランティアの人々は、自分の日常にどのように戻っていったらいいのかを考えていく。 |



|        |                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 7 月 1 日（金）                                                                                                                                                                                                                      |
| 内容・テーマ | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト<br>第 2 回イベント「＜支援ボランティア＞活動が広げるネットワーク」                                                                                                                                                                 |
| 主催     | 社会学部                                                                                                                                                                                                                                   |
| 共催     | E S D 研究センター                                                                                                                                                                                                                           |
| 報告者    | 浅川達人（明治学院大学ボランティアセンター長補佐・社会学部教授）、市川<br>享子（明治学院大学ボランティアコーディネーター）、支援ボランティアとし<br>て活動した明治学院大学学生（3 名）                                                                                                                                       |
| 開催趣旨   | 東日本大震災の直後から被災地での支援活動を組織化し、学生ボランティアを派遣して<br>きた明治学院大学ボランティアセンターのスタッフおよび活動に参加した学生に、ボラン<br>ティアの組織化から参加までの経緯と活動の状況、岩手県立大学・東北福祉大学などの<br>ネットワーク化についてお話いただく。これを通じて、今後の支援活動の参考とし、学生<br>のボランティアに対する関心を喚起する。また、報告会のあとに討論の時間を設けて、情<br>報交換の機会を提供する。 |

|        |                                                                                                                                                                                                      |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 7 月 6 日（水）                                                                                                                                                                                    |
| 内容・テーマ | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト<br>第 3 回イベント「震災支援の現状と復興に向けた挑戦～被災地の現場から～」                                                                                                                           |
| 主催     | ESD 研究センター                                                                                                                                                                                           |
| 共催     | 社会学部、異文化コミュニケーション研究科、21 世紀社会デザイン研究科                                                                                                                                                                  |
| 報告者    | 広瀬敏通氏（RQ 市民災害救援センター総本部長）                                                                                                                                                                             |
| 開催趣旨   | 被災地では今何が起きているのか。今、どのような支援を必要とし、復興のために今後<br>どのような支援が必要となるのか。RDY 第 3 回イベントでは、講師に RQ 市民災害救援セ<br>ンターより広瀬敏通氏（総本部長）をお招きします。被災地を拠点とし、震災直後から緊<br>急および長期支援を行っているセンターの支援活動の現状や、復興に向けた今後の取り組<br>みについてご講演いただきます。 |

|        |                                                                                                          |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 7 月 6 日（水）                                                                                        |
| 内容・テーマ | 東日本大震災復興支援セミナー（vol.2）「地域を知る」                                                                             |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                               |
| 講師     | 村上清氏（BNY メロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社、希望<br>王国岩手文化大使、陸前高田支援連絡協議会 Aid TAKATA 代表）                              |
| 開催趣旨   | 陸前高田市の出身で、市長と共に市の復興計画に取り組む村上氏から、陸前高田の地域<br>の魅力や歴史、人々が培ってきた文化などを含め、現地の様子や支援を考える学生に向け<br>て、力強いメッセージを伝えて頂く。 |

|        |                                                                       |
|--------|-----------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 7 月 8 日（金）                                                     |
| 内容・テーマ | 連続講演会「原発社会に未来はあるか？」<br>第 4 回「原発事故後を考える集い～なぜパニックは起きたのか（起きていな<br>いのか）～」 |
| 主催     | 平和・コミュニティ研究機構                                                         |
| 講師     | 黄盛彬（社会学部教授）、パネリスト：アンドリュー・デウィット（経済学部                                   |

|      |                                                                                                                                               |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 教授)、五十嵐暁郎(法学部教授)、石坂浩一(異文化コミュニケーション学部教授)、金守香氏(エリート日本語学校校長)、武玉江(大学院法学研究科博士後期課程)、マーク・カプリオ(異文化コミュニケーション学部教授)、水上愛子(国際センター職員)、李香鎮(異文化コミュニケーション学部教授) |
| 開催趣旨 | 東日本大震災と原発事故の影響をグローバルな視点から考える。「東日本大震災・原発事故を外国(外国人)はどう受け止めたか」という基調報告に続き、多様な専門、背景を持つ本学教員、国際センター職員が加わり、国際社会の様々な受け止め方、大学の国際化への影響などについて報告していく。      |

|        |                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年7月8日(金)                                                                                                            |
| 内容・テーマ | 東日本大震災復興支援セミナー(vol.3)「震災支援の実際」                                                                                          |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                              |
| 講師     | 宮崎賢哉氏(財団法人日本法制学会災害救援ボランティア推進委員会)                                                                                        |
| 開催趣旨   | 被災地に入ることの心構えとは、活動現場を知ること、活動の種類に必要な知識を得ることが初めの一歩である。しかし、それ以上に誰のためにということを常に心に留めておく大切さ、決して自己満足にならないために人とのかわりに心を砕くことを考えていく。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年7月11日(月)                                                                                                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 第2回緊急シンポジウム「震災後を語る集い—私たちはいかに報道したか」報告者からの報告、および報告者間、参加者との意見交換                                                                                                                                                                                      |
| 主催     | 法学部                                                                                                                                                                                                                                               |
| 報告者    | 大牟田透(朝日新聞社・科学医療エディター)、道傳愛子(NHK国際放送)、野中章弘(21世紀社会デザイン研究科特任教授、アジアプレス代表)                                                                                                                                                                              |
| 開催趣旨   | 2011年3月11日(金)に発生した東日本大震災が残したつめあとを、私たちはどう受け止め、自らをいやし、再び立ち上がることができるのか。震災後2ヶ月経った5月11日に、緊急シンポジウム第1回「震災後を語る集い—私たちは何ができるか—」を開催しました。引き続き、震災後4ヶ月目の7月11日に、第2回を開催します。私たちの目となり耳となるのが、メディアです。今回は、新聞・テレビ・フリーランスの専門家をお招きし、震災をどのように報道したかというテーマについて、ともに考えていただきます。 |

|        |                                                                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年7月16日(土)                                                                                                                             |
| 内容・テーマ | 公開シンポジウム「私たちがこれからできること—実践ボランティア講座—」<br>第一部：映画上映「生命(いのち)—希望の贈り物」<br>第二部：シンポジウム「私たちがこれからできること—実践ボランティア講座—」                                  |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                                                |
| 講師     | シンポジスト：池谷薫氏(映画監督・現代心理学部映像身体学科特任教授)、合田茂広氏(ピースポート災害ボランティアセンター理事)、学生3名(現地ボランティア経験者)<br>進行：空閑厚樹(本学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科准教授)                    |
| 開催趣旨   | 2011年3月11日(金)14時46分に発生した「東日本大震災」とその後の余震は、15都府県で犠牲者を出し、500kmを超える広域の被災地を生み出し、地震・津波・原発というかつてない三重苦をもたらしています。被災地はそれぞれの苦悩を持ち、復興への道のりは一様ではありません。 |

|  |                                                                                                                                                                                                         |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>この大震災に際して、立教はどのような役割を果たせるのか。立教大学では「東日本大震災復興支援活動指針」を策定し、全学的な連携・協力の下、被災地の復興支援をさらに進めていくことになりました。また、それぞれの学部でも取り組みが始まっています。</p> <p>大震災により、大きな傷を負った方々とどう向き合い、どのように関わっていくことができるのかを、ボランティア活動経験者と考えていきます。</p> |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|        |                                                                                                                                                                                                           |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 7 月 22 日（金）、23 日（土）                                                                                                                                                                                |
| 内容・テーマ | 映画上映会・対談「原爆から原発へ」                                                                                                                                                                                         |
| 主催     | 現代心理学部                                                                                                                                                                                                    |
| 共催     | 心理芸術人文学研究所、ボランティアセンター                                                                                                                                                                                     |
| 報告者    | <p>映画「二重被爆～語り部・山口彊の遺言」（稲塚秀孝監督作品）</p> <p>対談：稲塚秀孝氏（監督・企画・プロデュース）、佐藤一彦（現代心理学部教授）</p> <p>映画「祝の島（ほうりのしま）」（瀬戸あや監督作品）</p> <p>対談：瀬戸あや氏（監督）、前田英樹（現代心理学部教授）</p>                                                     |
| 開催趣旨   | <p>日本の「原子力利用」の原点には第二次世界大戦における広島、長崎の被爆問題を据える視点が重要です。深刻な原発事故は日本に何をもたらすのか、戦後の原点である原爆投下から原発国日本の現状を、2 回の上映を通して考えたいと思います。『二重被爆』は最近国際問題となりました。また、『祝の島（ほうりのしま）』は、29 年にわたる原発反対運動の元となっている瀬戸内海の島民の素朴な生活を描いたものです。</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 10 月 1 日（土）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 講演会「東日本大震災が意味するもの—スピリチュアルな価値観からの考察」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 主催     | コミュニティ福祉学部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 共催     | コミュニティ福祉研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 報告者    | 飯田史彦氏（飯田史彦スピリチュアル・ケア研究所代表、元福島大学教授）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 開催趣旨   | <p>周知の通り、東日本大震災がわれわれに与えた影響は計り知れない。家や職や家族を失った人々。崩壊した町。消滅したコミュニティ。過酷な避難生活。収束点が見えない原発事故。いわれのない風評被害。深刻な影響を受けた日本経済。数え挙げると負の影響は限りない。そして、東京電力福島原発の予断を許さない状況は、日本のみならず全世界中の重要な関心事になっている。しかしその一方で、支援の輪が世界的規模で広がっているのも事実である。市井の人々による地道な支援のほか、経済界、産業界、芸能界、スポーツ界など多くの立場の人々からさまざまな形の援助の手が差し伸べられている。また復興という名の下に日本全体が一つの方向を向いて、多くの国民が力を合わせ協力しようとする風潮が生まれているようにも思われる。</p> <p>今回の講演ではこれらのテーマに関して、特にスピリチュアルな観点から解説をしていただき、平和な未来に向けてわれわれに何が求められているのかを考えてみたい。また同時に被災者を癒やす手段として、飯田氏がスピリチュアル・ケアの実践で用いる「音楽療法」についても解説をしていただき、トーク&amp;ライブ形式での実演もしていただく予定である。</p> |

|        |                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 10 月 11 日（火）                                                                    |
| 内容・テーマ | <p>第 3 回緊急シンポジウム「震災後を語る集い—原発事故と放射能汚染を追いかけて」</p> <p>ドキュメンタリー映画上映『ネットワークでつくる放射能汚染地図』</p> |
| 主催     | 法学部                                                                                    |

|      |                                                                                                                                                                              |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 報告者  | 七沢潔（NHK ディレクター）、長谷川健一（福島県飯館村前田地区区長、酪農家）                                                                                                                                      |
| 開催趣旨 | 法学部主催緊急シンポジウム「震災後を語る集い」として、5月11日に第1回「わたしたちに何ができるか」、7月11日に第2回「私たちはいかに報道したか」を開催しました。そして、震災後7ヶ月目の10月11日に、第3回を開催します。震災後、ますます深刻さを増す放射能汚染の問題を取り上げ、関心を寄せる方々とともに語り合い、考える機会としたいと思います。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年10月15日（土）、16日（日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 内容・テーマ | シリーズ 3.11 以後の日本と社会デザイン<br>第3回 東日本大震災と防災教育の今後                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 主催     | 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 内容     | <p>15日（土）</p> <p>◇防災教育の実践事例発表（防災教育チャレンジ）</p> <p>講師：林春男氏（京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授）、中村陽一（21世紀社会デザイン研究科教授・研究科委員長、法学部教授）、</p> <p>防災教育実践事例の発表者／1）神奈川県立高津養護学校、2）千葉県立東金特別支援学校、3）新潟県糸魚川市立根知小学校、4）岩手県釜石市立釜石東中学校、5）宮城県南三陸町立歌津中学校、6）秋田県大館市立第二中学校、7）宮城県立大河原町立金ヶ瀬中学校、8）愛知県立半田商業高等学校、9）千葉県立姉ヶ崎高等学校、10）北海道滝川高等学校、11）新潟県立柏崎工業高等学校、12）東京都立田無工業高等学校、13）奈良県高塚台2丁目自治会、14）「やさしい日本語」有志の会、15）みえ防災コーディネーター、16）茅ヶ崎トラストチーム、17）八女市上陽防火委員会</p> <p>16日（日）</p> <p>◇防災教育交流フォーラム</p> <p>テーマ「東日本大震災において防災教育がどう役立ったのか」</p> <p>主催：21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所</p> <p>講師：北山晴一（立教大学名誉教授、21世紀社会デザイン研究学会会長）、林春男氏（京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授）</p> <p>被災地からの報告者／1）岩手県釜石市立釜石東中学校、2）宮城県南三陸町立歌津中学校、3）宮城県気仙沼市危機管理課、4）NPO 法人冒険あそび場～仙台ネットワーク、5）あそび ma.senka、6）ぼうさい甲子園受賞団体、7）ぼうさい探検隊マップコンクール優秀団体</p> |
| 開催趣旨   | 東日本大震災では防災教育のあり方が大きく問われた。生徒・児童全員が無事に避難できた学校もあれば、逆に避難に失敗し、多大な犠牲を出した学校も出た。そこで今回は、災害多発時代を迎える中で、防災教育の今後のあり方を、防災教育の現状と東日本大震災において防災教育がどう役立ったかの報告をもとに掘り下げていくこととしたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 実施日    | 2011年10月23日（日）                        |
| 内容・テーマ | 「信頼社会への挑戦—3.11の悲しみを乗り越えて、今、日本の社会を再構築す |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | るー」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 主催   | 21 世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 講師   | 内山節（21 世紀社会デザイン研究科、文学部教授）、熊野英介（公益財団法人信頼資本財団理事長）、中村陽一（21 世紀社会デザイン研究科教授・研究科委員長、法学部教授）・コーディネーター：石川治江（21 世紀社会デザイン研究科教授、公益財団法人信頼資本財団理事）                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 開催趣旨 | <p>現代の日本を含む先進国が抱える問題の一つに、物質的には満足しているにも関わらず、精神的な飢餓・貧困化が進んでいることが挙げられる。そしてその原因は、行き過ぎた工業社会と金融資本主義が、人と人、人と社会、人と自然との「関係性」を劣化させてきたことにある。今こそわれわれは現代の先進国が抱える精神的な飢餓・貧困問題の解決のために、人と人、人と社会、人と自然との「関係性」を再構築し、「信頼」に基づく持続可能な社会「信頼社会」を実現するための対話と実践を始めるべきではないだろうか。</p> <p>特に「3.11 東日本大震災」により失われた多くの尊い命は、生き残った私たちに改めて「生きる意味」と「人と人とのつながり」の大切さ、力強さを教えてくれた。多くの犠牲と悲しみを乗り越えて、新しい社会の在り方をこの日本から世界へ提示していくための議論をぜひ展開したい。</p> |

|        |                                                                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 10 月 26 日（水）                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト第4回イベント「ふるさととは負けないー東日本大震災からの復興・再生ー」                                                                                                    |
| 主催     | ESD研究センター                                                                                                                                                               |
| 共催     | 社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト、異文化コミュニケーション研究科、21 世紀社会デザイン研究科                                                                                                   |
| 講師     | 河野和義氏（株式会社八木澤商店会長）                                                                                                                                                      |
| 開催趣旨   | <p>岩手県陸前高田市では、これまで「持続可能な地域づくり」の地域実践の一つとして「地元学」が実践されてきました。しかし、3.11 に起こった東日本大震災により、全てを失ってしまいます。本講演会では、講師に株式会社八木澤商店の河野和義氏をお招きし、自らの実体験をもとに陸前高田市の今の姿と今後の展望について語っていただきます。</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 10 月 29 日（土）、30 日（日）                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 内容・テーマ | 第 2 回「アクティビティ・ケア実践フォーラムー震災後のアクティビティ・ケアの重要性とこれから」                                                                                                                                                                                                                                         |
| 主催     | 日本福祉文化学会                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 共催     | 社会福祉研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 講師     | <p>10 月 29 日（土）</p> <p>講演 1「震災と福祉文化」：河東田博（日本福祉文化学会 会長／コミュニティ福祉学部福祉学科教授）、講演 2「今求められる、高齢者・障がい者への寄りそいケア」：綿祐二氏（文京学院大学人間学部人間福祉学科教授）、実践報告「アクティビティ・ケア活動実践報告」</p> <p>10 月 30 日（日）</p> <p>全体会・分科会「アクティビティ・ケア見本市」</p> <p>講演「高齢者施設における木造化、木質内装化について」安梅勅江氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）、パネルディスカッション「震災後のア</p> |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | クティビティ・ケアの重要性とこれから」                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 開催趣旨 | 未曾有の大災害を経験した今、被災者に限らず多くの人々の「心のケア」が求められています。被災された方々への住宅や生活に対する支援は進みつつありますが、復興に向け、高齢者・障がい者の心の栄養素となるアクティビティ・ケアがますます重要になってくるでしょう。私たち日本福祉文化学会と高齢者アクティビティ開発センターは、被災地の高齢者および障がい者施設への支援をすすめてまいりました。この度のフォーラムでは、過去の災害や、今回の被災地での活動報告を通して、震災後のアクティビティ・ケアの重要性とこれからについて考え合いたいと思います。 |

|        |                                                                                                                                                          |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年11月15日（火）                                                                                                                                           |
| 内容・テーマ | 公開講演会「震災の経験を伝え、生かすー宮城県観光の復興へ」                                                                                                                            |
| 主催     | 観光学部                                                                                                                                                     |
| 発表者    | 志賀秀一（宮城県観光創造会議座長）、佐藤久一郎（松島観光協会会長）、佐藤かつよ、渡邊とみゑ（南三陸町語り部）                                                                                                   |
| 開催趣旨   | 東日本大震災から8ヶ月が経過した今、被災地は何を思っているのか。そして、復旧・復興に向けて、どのような取り組みを行っているのか。宮城県から、復興に向けた取り組みを行っている方々を招き、被災地の今までとこれからについて、特に「観光」に焦点をあててお話いただき、今われわれは何をすべきか、考える機会としたい。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年11月26日（土）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 国際シンポジウム「日本におけるエネルギー政策の変遷」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 主催     | 経済研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 表者     | <p>◇パネルディスカッション1:「これまでのエネルギー政策の検証および現状」<br/> プレゼンター：児玉龍彦氏（東京大学先端科学技術研究センター教授）「原発事故の被災者の今後」、吉岡斉氏（九州大学比較社会文化研究院社会情報部門教授）「日本の原子力発電政策の構造」金子勝氏（慶應義塾大学経済学部経済学科教授）「福島原発事故以降のエネルギー政策をめぐる対抗」討論者：マルティン・シュルツ氏（富士通総研上席主任研究員）</p> <p>◇パネルディスカッション2:「フクシマと世界のエネルギー政策」<br/> プレゼンター：郭曉斌氏（中国現代国際関係研究所）「中国から見たフクシマショックと原発への影響」、ユ・ジョンミン氏（エネルギー気候政策研究所）「韓国から見た原発の将来」、アンドリュー・デウィット（経済学部経済政策学科教授）「スマートパワーとスマートシティの政治制度」討論者：ミランダ・シュラーズ氏（ベルリン自由大学比較政治学部教授）</p> <p>◇パネルディスカッション3:「今後のエネルギー政策および日本経済の展望」<br/> プレゼンター：山下紀明氏（環境エネルギー政策研究所主任研究員）「地域と都市の自然エネルギー推進」、マルティン・シュルツ氏（富士通総研上席主任研究員）「エネルギーの生産性ー日本のエネルギー市場の解放によるチャンス」、大林ミカ氏（自然エネルギー財団アドボカシー助成事業部ディレクター）「フクシマの経験がもたらすもの：持続可能なエネルギー社会と日本の転換」、ミランダ・シュラーズ氏（ベルリン自由大学比較政治学部教授）「フクシマがドイツと世界に与える影響」討論者：金子勝氏（慶應義塾大学経済学部経済学科教授）</p> |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催趣旨 | 3.11およびその後の福島第一原発事故を契機に、エネルギーに関する議論が、国内外を問わず活発化している。しかし、エネルギー政策は従来、国策的要素が強く、当事国の日本でさえ情報不足から必ずしも生産的な議論が行われているとは言えない。今ほど、過去を検証し現在を見つめなおすことで、その未来を展望することが求められている時はない。本シンポジウムでは、3.11以前からエネルギー分野で積極的な研究・活動を展開してきた専門家を招き、これまでの日本のエネルギー政策を検証するだけでなく、各国のエネルギー政策の考察を試みる。 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|        |                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年11月28日（月）～12月2日（金）                                                                                       |
| 内容・テーマ | 東日本大震災写真展ツアー「みちのく photo caravan～東北のキセキ～」@立教大学                                                                 |
| 主催     | みちのくcaravan、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト、立教大学Frontiers、社会学部                                              |
| 発表者    | フォトジャーナリスト：渋谷敦志、佐藤慧、安田菜津紀                                                                                     |
| 開催趣旨   | "みちのくcaravan"が開催を企画している巡回写真展を、立教大学で開催します。この写真展を通じて、東北の震災からの復興に関心を持っていただき、またこの機会に復興支援ボランティアへの参加者が増えることを願っています。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                            |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年12月2日（金）                                                                                                                                                                                                              |
| 内容・テーマ | 公開講演会「東日本大震災とパブリックリレーションズ～その時、広報は役に立ったのか～」(ビジネスデザイン研究科開設10周年記念、電通パブリックリレーションズ創業50周年記念)                                                                                                                                     |
| 主催     | ビジネスデザイン研究科                                                                                                                                                                                                                |
| 発表者    | 花上憲司氏（㈱電通パブリックリレーションズ）、細川一成氏（〃）、田中延幸氏（〃）、亀川雅人（ビジネスデザイン研究科教授・研究科委員長、経営学部教授）                                                                                                                                                 |
| 開催趣旨   | 2011年3月11日、東北地方を襲った巨大地震と大津波は人々に甚大な被害を与えました。多くの行政機関、企業、団体は、それぞれの立場でできる限りの対応をし、日本復活を目指しました。その時、広報はどのように機能したのでしょうか。救命救急、復旧、復興の3つのステージにおいて、人々が何をし、そして何を伝えたのか、3つのケーススタディを基に、コミュニケーション概念の中心になりつつあるパブリックリレーションの果たすべき役割と可能性を考察します。 |

|        |                                                                                                                                                       |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年12月4日（日）                                                                                                                                         |
| 内容・テーマ | シリーズ 3.11 以後の日本と社会デザイン<br>第4回「飯舘村はよみがえる～飯舘村30年のくらし」                                                                                                   |
| 主催     | 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                               |
| 発表者    | 菅野典雄氏（福島県飯舘村長）<br>パネリスト：吉村英子氏（跡見学園女子大学大学院マネジメント研究科教授）、川村仁弘（21世紀社会デザイン研究科、経営学部教授）、笠原清志（経営学部、21世紀社会デザイン研究科教授）コメンテーター：中村陽一（21世紀社会デザイン研究科教授・研究科委員長、法学部教授） |
| 開催趣旨   | シリーズ4回目となる今回は、福島県飯舘村の菅野典雄村長をお迎えし、原発事故によって傷ついた村のくらしとこれからの課題を語り尽くしていただくことを通じて、飯舘村の未来、さらには3.11以後の日本の未来につなげる議論を深めていきたい。                                   |

|        |                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 12 月 11 日（日）                                                                                                                                                                                                    |
| 内容・テーマ | 第 4 回緊急シンポジウム「震災後を語る集い 市民徹底討論:原発事故をどう乗り越えるか」                                                                                                                                                                           |
| 主催     | 法学部                                                                                                                                                                                                                    |
| 発表者    | 討論者（ファシリテーター）等：七沢潔（NHK ディレクター）、野中章弘（本学 21 世紀社会デザイン研究科特任教授、アジアプレス代表）、伊東光司（福島県立安積黎明高等学校教諭）、大竹儀一（福島県立安積高等学校教諭）、星隆雄（福島県立郡山東高等学校教諭）、黒田かをり（一般財団法人 CSO ネットワーク事務局長、理事）、黒崎輝（福島大学准教授）、五野井郁夫（本学法学部助教）、古賀光生（本学法学部助教）、竹中千春（本学法学部教授） |
| 開催趣旨   | これまでの 3 回の議論を踏まえ、震災から 9 ヶ月経った 12 月 11 日に第 4 回「市民徹底討論：原発事故をどう乗り越えるか」を開催いたします。立教大学の学生、職員、他大学の学生、関心のある市民の方々とともに考え、じっくりと討論する機会としたいと思います。                                                                                   |

|        |                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 12 月 14 日（水）                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 陸前高田支援ボランティア・フォローアップ・ミーティング<br>第一部：フォローアップ 支援ボランティア体験の共有と深化および心理的ケア<br>第二部：ネクスト・ステップのために                                |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                              |
| 開催趣旨   | 体験したことが今の自分にとって、どのような意味をもつのか、また今後、自分たちが主体となってできる今後の支援についてなど広く考え、意見交換をおこなう。また被災地支援にとどまらず、日常的なボランティア活動との接点についても、考える機会とする。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 12 月 16 日（金）                                                                                                                                                                                                                                  |
| 内容・テーマ | シンポジウム「被災地からの復興—相馬からの挑戦—」                                                                                                                                                                                                                            |
| 主催     | 21 世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                                                             |
| 講師     | パネリスト：立谷秀清氏（福島県相馬市長、全国医系市長会会長）・松村有子氏（東京大学医科学研究所特任助教）・吉田克彦氏（特定非営利活動法人 相馬フォロアーチーム職員）・高城大吾氏（特定非営利活動法人 難民を助ける会 福島担当職員）【司会】長有紀枝（21 世紀社会デザイン研究科、社会学部教授）                                                                                                    |
| 開催趣旨   | 福島県の浜通りの北に位置する相双地区は、福島第一原子力発電所の事故により甚大な影響を受けた 12 市町村からなるが、その中で唯一、避難区域の設定を受けず、今後の浜通り復興の中心となると思われるのが相馬市である。相馬市は医師である立谷市長の斬新な取り組みでも知られ、被災地主体の復興のオピニオンリーダーの役割も担っている。本シンポジウムでは相馬市の自治体としての取り組みとともに、医療や避難民対策、心のケアからの分野で復興支援を行う関係者をお招きし、被災地主体の復興の実践例として検討する。 |

|        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 実施日    | 2011 年 12 月 17 日（土）               |
| 内容・テーマ | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト |



|      |                                                                                                                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 第5回イベント 「福島」から「フクシマ論」へ—『『フクシマ』論』著者、開沼 博さんと福島の若者が語る「フクシマ」—                                                                                                                 |
| 主催   | TEAM iups、社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト                                                                                                                          |
| 共催   | ESD研究センター、平和・コミュニティ研究機構                                                                                                                                                   |
| 講師   | 基調発表：西丸亮氏、遠藤健氏（TEAM iups）<br>第1部ディスカッション：登壇者：開沼博氏（社会学者）、TEAM iups、福島の若者から4名<br>第2部ディスカッション：登壇者：学生2名、開沼博氏、鴻英良氏（演劇批評家）、梅原宏司（社会学部現代文化学科兼任講師）、司会：松崎桜子氏（TEAM iups）             |
| 開催趣旨 | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクトの第5回イベントとして、福島県出身の若者で構成されている団体TEAM iupsの企画により、福島第一原子力発電所の歴史と社会構造を分析した『『フクシマ』論』（青土社、2011年）の著者である開沼博氏をお招きし、福島の過去、現在、未来について考えるトークイベントを開催する。 |

|        |                                                                                                                                                                                                            |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2011年12月18日（日）                                                                                                                                                                                             |
| 内容・テーマ | シリーズ 3.11 後の日本と社会デザイン<br>第5回 希望学を語る—社会科学の新たな地平へ—                                                                                                                                                           |
| 主催     | 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                    |
| 講師     | 玄田有史（東京大学社会科学研究所教授）、長有紀枝（21世紀社会デザイン研究科、社会学部教授）、中村陽一（21世紀社会デザイン研究科委員長、法学部教授）                                                                                                                                |
| 開催趣旨   | 「希望」は生きる所為にどれだけかわっているのだろうか。そもそも「希望」とはどのような意味を持つのだろうか。この問いに真っ向から、まっとうに向き合ってきた玄田有史氏を迎え、「希望」について議論する場とする。3.11に起こった現実を受け、人々が生きる原点とは一体どのようなことなのか、また、いまだ認識する方法を持たず、試行錯誤する私たちが思考するための道を探るキーワードとして「希望（学）」に注目してみたい。 |

|        |                                                                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012年1月23日（月）                                                                                                               |
| 内容・テーマ | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト<br>第6回イベント「僕が見た被災地／私たちが見た被災地—支援活動を振り返って—」                                                 |
| 主催     | 社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト                                                                                      |
| 共催     | 経済学部                                                                                                                        |
| 講師     | 第一部：講演「僕が見た被災地—10ヶ月を振り返って—」<br>講師：矢部寛明氏（ボランティアコーディネーター、「底上げ JAPAN」代表）<br>第二部：ディスカッション<br>講師：矢部寛明氏、支援活動に従事した立教生4名（経済学部生2名、社会 |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 学部生 2 名)                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 開催趣旨 | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクトの第6回イベントとして、仙台、石巻、南三陸、気仙沼への物資輸送支援、気仙沼でのホテル再開のための支援活動、ボランティアコーディネーター、ボランティア宿泊施設の運営など、「底上げ JAPAN」代表として精力的に活動している矢部寛明氏をお招きし、第一部では、支援活動の現状、被災地の実態、NPOのあり方などについて、講演をいただく。第二部では、被災地支援活動に従事した立教生も登壇して、それぞれが見た被災地について話し合うとともに、今後の被災地支援の方向性、学生など若い世代にできることについて討論を行う。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 2 月 27 日（月）                                                                                                                                                                                                                                  |
| 内容・テーマ | 「原発訴訟のトップランナーとして—伊方反原発訴訟弁護団長・藤田一良さんが語る—」                                                                                                                                                                                                            |
| 主催     | 共生社会研究センター                                                                                                                                                                                                                                          |
| 共催     | 司書課程                                                                                                                                                                                                                                                |
| 講師     | 藤田一良氏（弁護士）                                                                                                                                                                                                                                          |
| 開催趣旨   | 2011年3月、東日本大震災後に福島第一原発で事故が発生したことで、原発の安全性があらためて問われている。1973年に提起され、原発の安全性の問題が広範に論じられた伊方原発1号機訴訟（1992年原告敗訴確定）の資料は、現在共生社会研究センターで所蔵・公開されている。この資料の寄贈元である原告側弁護団長の藤田一良弁護士をお招きし、日本最初の原発訴訟において提示された論点、原告・被告側それぞれの論証の内容と問題点、そして本訴訟とその資料の有する今日的意義について、縦横に語っていただく。 |

|        |                                                                                                                                                                |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 3 月 3 日（土）                                                                                                                                              |
| 内容・テーマ | シリーズ 3.11 以後の日本と社会デザイン<br>第6回 つなげよう 参加の力—"チカラになりたい"想いを生かすコーディネーション                                                                                             |
| 主催     | 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                        |
| 共催     | 共催：全国ボランティアコーディネーター研究集会2012実行委員会、特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会、21世紀社会デザイン研究学会                                                                                    |
| 講師     | 岡村こず恵（大阪ボランティア協会主幹）、有原領一（宮古市社会福祉協議会、宮古市生活復興支援センター ボランティア・市民活動センター主任）、中村陽一（21 世紀社会デザイン研究科委員長・教授、法学部教授）、長谷部治氏（神戸市社会福祉協議会、特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会理事・コーディネーター） |
| 開催趣旨   | 甚大な被害をもたらした東日本大震災を受け、被災地の実情や活動するボランティアの状況、被災地支援や復興に関わる団体の抱える課題などを踏まえた上で、これからの復興や新しい社会デザインのために、特にボランティアコーディネーターがどのように行動していけばよいのかを深めていく。                         |

|        |                                               |
|--------|-----------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 3 月 11 日（日）                            |
| 内容・テーマ | 第5回緊急シンポジウム「震災後を語る集い—震災とアジアの市民社会:東日本大震災から1年—」 |
| 主催     | 法学部                                           |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講師   | <p>オープニング・スピーチ：国分良成（慶應義塾大学）</p> <p>◇セッション1：「東日本大震災とアジアの市民社会」司会：竹中千春（本学法学部）</p> <p>報告1：長有紀枝（本学社会学部）「東日本大震災と人間の安全保障」</p> <p>報告2：五野井郁夫（本学法学部）「直接民主主義の復権？：ピープルパワーと非暴力直接行動の政治表現をめぐって」討論：藤原帰一（東京大学）、大矢根聡（同志社大学）</p> <p>◇セッション2：「大災害とアジアの市民社会」司会：金子芳樹（獨協大学）</p> <p>報告1：清水展（京都大学）「フィリピン・ピナトゥボ大噴火（1991）による先住民アエタの被災と新生：「創造的復興」支援と市民社会を考える」</p> <p>報告2：山本博之（京都大学）「社会秩序の再編における「地域の知」の役割——災害対応の地域研究の観点から」</p> <p>報告3：西芳実（京都大学）「紛争・災害後社会の復興と市民社会—スマトラ沖地震津波被災地の経験から」討論：小嶋華津子（筑波大学）</p> |
| 開催趣旨 | <p>これまでの4回の議論を踏まえながら、震災後1年目を迎えた3月11日、共同研究「広域アジアの市民社会構築とその国際政治的課題」に参加するメンバーの研究成果を発信しつつ、さまざまな分野の専門家、市民、学生の方々と語り合い、新たな課題を考える機会したいと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

## （２）2012 年度

|        |                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 5 月 26 日（土）                                                                                                                                                                                                                        |
| 内容・テーマ | 公開講演会「東日本大震災の教訓と今後の巨大災害への備え」                                                                                                                                                                                                              |
| 主催     | 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                                                   |
| 講師     | 林春男（京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授）                                                                                                                                                                                                                |
| 開催趣旨   | <p>東日本大震災から1年余りが経過する中で、災害の全体像が明らかになるとともに、さまざまな教訓も導き出されようとしています。一方で、首都直下地震や東海、東南海、南海地震の発生の危険性が指摘されるなど、今後の巨大災害への備えも急がなくてはなりません。政府の「防災対策検討推進会議」委員として、防災対策の充実・強化の検討に携わってこられた 林 春男 氏（京都大学防災研究所教授）をお招きし、問題提起と、「3.11以後の日本と社会デザイン」について深く考えます。</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 6 月 15 日（金）                                                                                                                                                                                                 |
| 内容・テーマ | 「震災後日本の新しいパラダイムを求めて～オランダ・モデルから学ぶ市民社会の形成～」                                                                                                                                                                          |
| 主催     | 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                            |
| 講師     | リヒテルズ直子（オランダ教育・社会研究家）、ファシリテーター：伊藤道雄（21 世紀社会デザイン研究科特任教授）                                                                                                                                                            |
| 開催趣旨   | <p>昨年の東日本大震災への対応は、政府のガバナンスのあり方が有効に機能しなかったこと、そしてそれ以上に大きな課題として、地震多発地帯の日本に大多数の“国民”が知らない間に54基もの原発が稼働していたこと、すなわち国の政策に参加する“市民”が欠如していたことを露呈した。一方、阪神大震災時と同様に、全国から市民や市民組織が集まり、ボランティア活動を展開し、行政と協力するなど、新しい市民社会の流れが生まれている。</p> |

|  |                                                                                                                                 |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 本講演では、市民の力で原発の建設を阻止し、社会福祉、ワークシェアリング、インクルージョン（共生）の先進国として世界に一つの『モデル』を提供してきたオランダの学校教育、そして市民社会の形成の経験に焦点を当て、参加者と共に考察、日本社会のビジョンを展望する。 |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|        |                                                                                                   |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 6 月 19 日（火）                                                                                |
| 内容・テーマ | 講演会「東日本大震災以降、21 世紀の日韓関係」                                                                          |
| 主催     | 平和・コミュニティ研究機構                                                                                     |
| 講師     | 梁起豪氏（韓国・聖公会大学教授）                                                                                  |
| 開催趣旨   | 東日本大震災は政治・社会・経済、あらゆる意味で韓国において関心と呼んだ。梁氏の共著「3.11 東日本大震災と日本」を紹介しつつ、今後の日韓関係において考えるべき課題を提示し、参加者と議論したい。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 6 月 25 日（月）                                                                                                                                                                                                           |
| 内容・テーマ | 東日本大震災、その日相馬市では何がおこったのかー産学官による GIS（地理情報システム）を用いた支援活動ー                                                                                                                                                                        |
| 主催     | 社会情報教育研究センター                                                                                                                                                                                                                 |
| 講師     | 長谷川普一氏（新潟市都市政策部 GIS センター）                                                                                                                                                                                                    |
| 開催趣旨   | 2011年3月11日に発生した東日本大震災により、福島県相馬市は多くの尊い命と財産を失った。特に津波による被害は重篤で沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。新潟市は相馬市からの支援要請を受け、GIS（地理情報システム）を活用した支援を行った。その際、学生ボランティアなどの協力を得ながら、全住民位置情報を作成した。「産学官によるGISを用いた支援活動」から見える今後の行政サービスの在り方や災害時におけるGISの活用事例についてお話しいただく。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 6 月 29 日（金）                                                                                                                                                                                                                                      |
| 内容・テーマ | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト<br>第7回イベント「新宿区での避難者支援とコミュニティづくりー東京でできる支援活動を考えるー」                                                                                                                                                                      |
| 主催     | 社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト                                                                                                                                                                                                                  |
| 講師     | 中山岳文氏（新宿区社会福祉協議会）、鶴飼明弘氏（NPO 法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン事務局）、七野美奈子氏（NPO 法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン事務局）                                                                                                                                                        |
| 開催趣旨   | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクトの第7回イベントとして、東京で被災地からの避難者への支援活動に携わる方々からご報告いただく。新宿区では、社会福祉協議会、NPO、近隣の大学（立教大学を含む）、地域住民が連携しながら、被災地からの避難者に対して子どもの学習支援活動、カフェのような互いに話ができる場をつくる活動などを行い、コミュニティづくりをどう進めていくかを模索している。これらの活動についての報告や、東京で行う支援活動として、今何が必要で、何が可能かを考える。 |

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 7 月 28 日（土）                  |
| 内容・テーマ | トークショー「震災とアートとモンパルナス」               |
| 主催     | 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館実行委員会（NPO 法人ゼファ |

|      |                                                                                                                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 一池袋まちづくり／立教大学／東武百貨店／豊島区)                                                                                                                                                                                     |
| 講師   | 高山登氏（東京藝術大学名誉教授＜現代芸術＞）、千石英世（本学文学部教授、文芸評論家）                                                                                                                                                                   |
| 開催趣旨 | 豊島区の旧長崎町に存在した、さくらが丘パルテノン（アトリエ村）で幼少期を過ごした講師の高山登氏は、宮城県気仙沼市にアトリエを構えていたが、震災と津波で消失した。復興への思いを、当地で芸術活動を再開することで力にしたいと創作に取り組まれている。懐かしい池袋モンパルナスが氏の活動の原動力であり、芸術がもたらす復興への新たな希望とともに、池袋モンパルナスが変わることなく人々に力を与え続けることに思いを馳せたい。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 7 月 28 日（土）                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 内容・テーマ | 立教SFR「東日本大震災・復興支援関連研究」成果報告会                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 主催     | リサーチ・イニシアティブセンター                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 講師     | 村田次郎（理学部教授）「災害復興の為の環境放射能調査とその新規計測法の開発」、間々田孝夫（社会学部教授）「震災被害の格差に関する統計的社会調査による実証研究－震災被害と社会階層の関連」、上條直美（異文化コミュニケーション研究科特任准教授）「東日本大震災からはじまる学び－学校教育における実践事例研究」                                                                                                                                        |
| 開催趣旨   | 立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）「東日本大震災・復興支援関連研究」は、東日本大震災による被災地域の復興等に資することを目的とした研究活動を助成するために、2011年度に新設された立教SFRの研究種目です。東日本大震災・復興支援という大きな社会的課題に焦点を置いた本研究種目においては、研究成果の社会的な発信を重視しており、この趣旨にのっとり今回の活動報告会を実施する運びとなりました。今回の報告では、広く学内外にその研究経過または研究成果を報告・発信することを目的とし、昨年7月に採択が決定した6件の研究課題のうち3件の研究課題についての成果報告を実施します。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 8 月 1 日（水）                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 内容・テーマ | 東日本大震災復興支援講演会「高田病院が紡ぐもの～震災復興と地域医療」                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 講師     | 石木幹人氏（岩手県立高田病院院長）                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 開催趣旨   | 津波によって病院内全てが流された中からの再出発として、2011年から仮設の施設で診療を行っている高田病院。石木院長を講師にお招きし、高齢化、過疎化に加えて、震災で多くを失った住民に寄り添うことを第一に、全国からの支援医師らと共に地域医療の再建にかける思いをお話しいただいた。危機的状況の中で、医師としての専門性とこれまでの経験を生かした迅速な意思決定を行い、医療活動のマネジメントを率いてこられた石木院長のお話を伺う中から、与えられた環境の中で自分が持つ力を最大限に生かすこと、他者との協働によって生み出された希望の力を実践に移していくことを考える機会とした。講演会に参加した来場者から、石木院長あてのメッセージを綴ってお贈りした。 |

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 実施日    | 2012 年 8 月 11 日（土）      |
| 内容・テーマ | 公開講演会「東日本大震災の先の未来」      |
| 主催     | 日本環境教育学会                |
| 共催     | ESD 研究所・異文化コミュニケーション研究科 |
| 講師     | 池澤夏樹（作家）                |

|      |                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------|
| 開催趣旨 | 東日本大震災、特に福島第一原子力発電所事故後の日本や世界の未来について、かねてから持続可能性に関するすどい評論を行ってきた池澤氏に、ご講演いただく。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------|

|        |                                                                                                                                                                  |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 11 月 3 日（土）、4 日（日）                                                                                                                                        |
| 内容・テーマ | 復興支援特別講演会・座談会「わたしの人生・津波の前と後」<br>講演会「震災の今～石巻からの声」                                                                                                                 |
| 主催     | コミュニティ福祉学部、東日本大震災復興支援プロジェクト                                                                                                                                      |
| 講師     | 吉田富男氏（陸前高田市 仮設住宅住民）、井上利枝（介護サービス事業所 めだかの楽園 管理者）、石山うみか（介護サービス事業所 めだかの楽園 ケアマネージャー）                                                                                  |
| 開催趣旨   | 東日本大震災復興支援プロジェクトの講演会・座談会を、新座キャンパスの学園祭 IVY Festa 開催期間中に実施します。震災から約 1 年半が経った今、プロジェクトの現地活動の安定化に大きく貢献されている方を講師にお招きし、これまでの活動を振り返るとともに、学生に復興支援活動に参加してもらうことを目的として開催します。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 11 月 7 日（水）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 内容・テーマ | 講演会「あの時、避難所は..."おだがいさま"が支えた 169 日間—ビッグパレットふくしま避難所が教えてくれたこと—」／立教 SFR 重点領域プロジェクト研究                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 主催     | ESD 研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 講師     | 天野和彦（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 開催趣旨   | 東日本大震災、東京電力福島第一原発事故において、約 2500 人の被災者を受け入れ、福島県内最大規模といわれた「ビッグパレットふくしま避難所」（郡山市）。そこに設置された「おだがいさまセンター」（生活支援ボランティアセンター）は、避難者同士の交流と、自治の促進をめざし、FM ラジオ局の開設、夏祭りの開催など、生活に潤いと活力を与える多彩な取り組みを行ってきた。2011 年 8 月末に避難所が閉鎖後、おだがいさまセンターは、郡山市富田町の仮設住宅地内に移転。今も、被災者の生活再建、コミュニティ形成のための支援活動を行っている。現在、おだがいさまセンター（富岡町生活復興支援センター）長を務める天野和彦氏に「ビッグパレットふくしま避難所」の運営経験や、災害時のボランティアと避難者の協働などについてお話いただく。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 12 月 2 日（日）                                                                                                                                                                                                                               |
| 内容・テーマ | 公開シンポジウム「3.11 を超えて：—僕らはどこを目指すべきか—」<br>映画上映会「ガイアシンフォニー第 5 番」（龍村仁監督作品）<br>講演「3.11 から何を学ぶか」、討論「3.11 を超えて：—僕らはどこを目指すべきか—」                                                                                                                            |
| 主催     | コミュニティ福祉研究所                                                                                                                                                                                                                                      |
| 講師     | 龍村仁（映画監督）、矢作直樹（東京大学医学部救急・集中治療部教授）、濁川孝志（本学コミュニティ福祉学部教授）                                                                                                                                                                                           |
| 開催趣旨   | 昨年の東日本大震災は日本に未曾有の被害をもたらした。これを、自然がもたらした単なる災害として捉えるのは簡単であるが、それではあまりにも損失が大きすぎ、僕らは次の一歩が踏み出せない。現実にはもちろん日々の生活が流れていくのだが、僕らが本当の意味で一歩を踏み出すには、つまり明日への希望を胸に生きていくためには、心の中でこの事実を受け止め、それを理解するプロセスが必要である。古来スピリチュアルな思想の中には、「全ての現象には意味がある」とする教えが数多い。龍村仁氏や矢作直樹氏はその |

|  |                                                                                                                                                                                             |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 映像や著書を通じ、この種のスピリチュアルなメッセージを投げかける。では、今回の震災にはどのような意味があるのか。そして、この事実をどのように認識し、受け止めればわれわれは次の一歩が踏み出せるのか。この問いに関して、映画「ガイアシンフォニー第5番」の上映後、講演、さらには討論を通して、その答えを探りたい。そして3.11を糸口に、これからの僕らの生き方の指針について考えたい。 |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012年12月8日（水）～16日（日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 内容・テーマ | 「つながる。陸前高田と立教大学」交流展～3.11 東日本大震災を忘れないために～                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 主催     | 立教大学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 共催     | 東京芸芸劇場、後援：豊島区                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 企画     | NPO 法人陸前高田市支援連絡協議会（Aid TAKATA）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 概要     | <p>【陸前高田関連】パネル 25 枚（提供／Aid TAKATA）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在りし日の陸前高田、被災直後の状況、現在の様子、復興への歩み、</li> <li>・ゆめちゃんボード（ほぼ実寸大）</li> </ul> <p>【立教大学関連】パネル 35 枚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神、東北との歴史的な経緯／農村伝道、林業体験など</li> <li>・陸前高田市との連携・交流協定、東京芸芸劇場との連携協定</li> <li>・支援活動／災害ボランティア、子ども支援</li> <li>・交流活動／野球教室、盆踊り大会</li> <li>・コミュニティ福祉学部「東日本大震災復興支援プロジェクト」の活動</li> <li>・発信活動／「R のことばⅠ～Ⅳ」ほか</li> </ul> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012年12月8日（土）                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 公開講演会「被災地の本当の話をしよう」                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 主催     | 東日本大震災復興支援本部                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 講師     | <p>戸羽太氏（陸前高田市長）</p> <p>パネラー：戸羽市長、陸前高田市民、本学学生</p> <p>司会：村上清氏（NPO 法人 陸前高田市支援連絡協議会 Aid TAKATA 代表）</p>                                                                                                                                                                                |
| 開催趣旨   | 立教大学は、12月5日（水）より16日（日）までの12日間、東京芸芸劇場にて、『つながる。陸前高田と立教大学』交流展～3.11 東日本大震災を忘れないために～を開催しています。陸前高田市の被災前と直後、現在の様子を写真で展示し、併せて立教大学の林業体験以来の関わりや学生ボランティア活動、当地の方々との交流の様子をパネルなどでご紹介しています。本講演会は期間中の企画の一つとして行われますが、震災から1年10カ月を迎えようとしている今、被災地の現状はどうなっているのか、復興への歩みは着実に進んでいるのか、戸羽太陸前高田市長にお話しいただきます。 |

|        |                                                                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012年12月12日（水）                                                                                                                       |
| 内容・テーマ | 陸前高田支援ボランティア・ふりかえりの会                                                                                                                 |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                                           |
| 講師     | <p>戸羽太氏（陸前高田市長）</p> <p>パネラー：戸羽市長、陸前高田市民、本学学生</p> <p>司会：村上清氏（NPO 法人 陸前高田市支援連絡協議会 Aid TAKATA 代表）</p>                                   |
| 開催趣旨   | 2012年度の夏季、秋季陸前高田支援ボランティアと広田地区支援活動に参加した学生に加えて、2011年度の同活動に参加した学生、及び引率した職員も合同で開催した。2011年度から継続的に活動を行っている学生を中心に、会の企画と当日の準備やファシリテーションを行った。 |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>前半は、各活動の代表者がスライドを使って現地での様子を報告し、後半はグループに分かれてテーマごとのディスカッションを行った。また、広田地区の仮設住宅で作成されているふくろうのマスコットや、学生が作成した活動のニュースレター、参加者のふりかえり文集を参加者に配布した。</p> <p>日常の学生生活に戻った中で、現地で受け止めた様々な状況や出会った人々との交流を、再び対話することによって共有した。また、他者の考えに耳を傾けることによって、復興支援に対しての考え方を整理し、深め合うことができた。</p> |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2012 年 1 月 10 日（木）                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 内容・テーマ | 映画「傍～3 月 11 日からの旅～」(伊勢真一監督) 上映会&トーク                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講師     | 伊勢真一（映画監督、ドキュメンタリー映像作家）、細谷亮太（聖路加国際病院小児総合医療センター長）                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 開催趣旨   | <p>2011 年 3 月 11 日、突然「そのこと」は起こった。多くの人が為すすべもなく、「そのこと」=東北地方の地震、津波、原発事故に大きく揺さぶられた。そして 4 日後、仲間のカメラマンが宮城県亶理町に住む友人のミュージシャンの安否を尋ね被災地に入り、撮影が始まった。宮城県亶理町と、同じく友人の住む福島・飯舘村に通い続けることになる。映像を撮るということは、「忘れない」ということなのだ。人間は忘れてしまうけど、映像は「忘れない」。傍（かたわら）に耳を澄ませて欲しい。春が来て、夏が来て、秋が来て、冬が来て、再び春は来る。「いのち」は生きる方へ向かうのだから。(伊勢真一監督の言葉:いせフィルム WEB サイトより一部抜粋)</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 1 月 10 日（木）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 公開講演会「3・11 後の国際協力人材育成とは」～アジア・南米・アフリカでの過去の教訓から考える～                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 主催     | グローバル人材育成センター開設準備室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 講師     | 秋元由紀氏（特定非営利活動法人メコン・ウォッチ／ビルマ情報ネットワーク）、印鑰智哉氏（㈱オルター・トレード・ジャパン）、船田クラーセンさやか氏（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）、ほか本学学生<br>ファシリテーター：米川正子（21 世紀社会デザイン研究科特任准教授）                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 開催趣旨   | <p>「3・11 後の国際協力人材育成とは」～アジア・南米・アフリカでの過去の教訓から考える。1954 年にビルマ（ミャンマー）で始まった日本の政府開発援助（ODA）は、これまで世界 100 カ国以上で展開されてきました。しかし、2011 年の東日本大震災を受け、これまで援助する側にいた日本は大規模な援助を受ける側となり、国際協力の新しい時代を迎え、これまでの国際協力について、課題や在り方があらためて問い直され始めています。21 世紀の現在、国際協力を通して平和な世界づくりに貢献していくために、日本の大学はどのような人材育成に取り組んでいくべきでしょうか。過去の経験から学ばず理想論を追い求めるのではなく、これまでの日本の援助を多様な立場の方々と共に振り返りながら、皆さんと一緒に考えていきましょう。スピーカーに開発援助機関、現地と日本の市民社会、学生の方を迎え、来場者の皆さんと共に考えながら「3・11 後の国際協力の人材育成」に関する提言をまとめていきます。</p> |

|        |                                         |
|--------|-----------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 1 月 22 日（火）                      |
| 内容・テーマ | 公開講演会「フクシマ放射能汚染と人権」／立教 SFR 重点領域プロジェクト研究 |
| 主催     | ESD 研究所                                 |
| 講師     | 國分俊樹（福島県教職員組合書記次長）                      |



|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催趣旨 | 東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故から間もなく2年、福島県内の学校では除染作業が行われているが、今もなお、子どもたちや教職員は放射能の危険にさらされている。今回、講師にお招きする國分俊樹氏（福島県教職員組合書記次長）は、福島第一原発事故後、教育現場に向けて、放射能の危険性とその対応策を紹介してきた。また、福島県教職員組合は、昨年「放射線教育対策委員会」を設置し、福島の実情に即した放射線教育の在り方と、子どもたちの未来を考える取り組みを続けている。本講演会では、学校における放射線教育の重要性を呼びかける國分氏に、福島県内の放射能汚染の現状と、放射能汚染による人権の侵害と回復についてお話しいただく。 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013年1月28日（月）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 内容・テーマ | 公開講演会「大いなる田舎飯舘村に放射能が降った～学校教育再建・復興への取り組み～」／立教SFR重点領域プロジェクト研究                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 主催     | ESD研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 講師     | 広瀬要人氏（飯舘村教育委員会教育長）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 開催趣旨   | 飯舘村は、NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟している、福島県の“大いなる田舎村”であり、「までい」（昔から使われている言葉で「丁寧に」「心をこめて」「じっくり」といった意味）を村づくりの理念として、平成の大合併にもくみせず個性的な村づくりを行ってきた。そんな飯舘村が、東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、全村民の村外避難を余儀なくされた。本講演会では、長年福島県内の教育現場に携わり、現在、飯舘村教育委員会教育長を務める広瀬要人氏に、原発事故後、異郷の地で村民の絆の再構築を図り、学校教育の再建・復興に取り組んでいる飯舘村の現状と課題についてお話しいただく。「放射能被災者に対するいじめやいわれなき差別、風評被害をなくす前提は、原発被災地の正しい理解であり、それこそが、何にも勝る“支援”、誰にでもできる“支援”だと思う」と語る広瀬氏の言葉に耳を傾けたい。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013年3月5日（火）                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 内容・テーマ | 公開講演会「放射能汚染環境下の暮らし」／立教SFR重点領域プロジェクト研究                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 主催     | ESD研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講師     | 河田昌東氏（NPO法人チェルノブイリ救援・中部理事）                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 開催趣旨   | 東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故で、さまざまな環境汚染が生じた。事態はいまだ収束していない。これから私たちは、放射能とどのように向き合い、生活していくべきなのか。今回講師にお招きする河田昌東氏は、1990年からチェルノブイリ原発事故（1986年4月発生）の汚染地域ウクライナ・ナロージチ地区に入り、被災者の救援活動に取り組んできた。福島第一原発事故後は、チェルノブイリの経験をふまえた被災地支援を行っている。本講演会では、これまでの調査・分析をもとに、福島第一原発事故とチェルノブイリ原発事故を比較し、放射能環境汚染下における暮らしの在り方を考える。 |

|        |                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013年3月17日（日）                                                                             |
| 内容・テーマ | 公開シンポジウム「災害と環境教育」                                                                         |
| 主催     | 日本学術会議                                                                                    |
| 共催     | 立教大学 ESD 研究所、立教 SFR 重点領域プロジェクト研究、JST RISTEX<br>「いのちを守る沿岸域の再生と安全・安心の拠点としてのコミュニティの実装」プロジェクト |
| 後援     | 公益社団法人日本環境教育フォーラム                                                                         |
| 講師     | 登壇者：石川幹子（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科                                                        |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 教授)、鬼頭秀一(日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)、桑子敏雄(日本学術会議特任連携会員、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授)、鳥居敏男(環境省東北環境事務所長)、畠山信(NPO 法人森は海の恋人副理事長)、牧野駿(南三陸町伊里前契约会前会長)、阿部正人(南三陸町立伊里前小学校教諭)、久村美穂(RQ 聞き書きプロジェクト代表)、宮内泰介(北海道大学大学院文学研究科教授)、進士徹(NPO 法人あぶくま NS ネット代表)、広瀬敏通氏(RQ 災害教育センター代表)、阿部治(本学 ESD 研究所長、社会学部教授)、関礼子(日本学術会議連携会員、本学社会学部教授)、小澤紀美子(日本学術会議連携会員、東海大学教養学部特任教授)                                                                                                                                                                                                          |
| 開催趣旨 | 3.11 後、2 年が経過し、東日本大震災の復興にあたって、ハードな復興がいまなお主流の状況の中で、この時期だからこそ可能になり、また、要になってきている、「ひと」とコミュニティの視点からの復興のあり方の理念を明確に打ち出すことが求められている。日本学術会議環境学委員会では、2012 年 12 月 5 日付で、『『ひと』と『コミュニティ』の力を生かした復興まちづくりのプラットフォーム形成の緊急提言』を出したが、本シンポジウムでは、その具体的な取り組みと、そこにおける ESD(持続可能な発展のための教育)の視点の重要性について提起したい。現在、ハードの復興の手法と、それとせめぎ合うソフトの計画系の復興の手法が中心的に展開している中で、「ひと」とコミュニティの視点からの復興においてのソフト的な点で必要なことは何か、そこにおける「学び」の重要性、広い意味での環境教育の重要性についてシンポジウムの中から明らかにする。そのことを通じて、学校教育や社会教育の中で取り組まれている従来の防災教育の枠組みを脱して、「災害に学ぶ」という視点を入れた災害教育と、災害が多い日本ならではの環境教育の新たな提起をし、3.11 以後の教育の枠組みの再構成を促していきたい。 |

### (3) 2013 年度

|        |                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 5 月 3 日                                                                                                                                                                                                                                  |
| 内容・テーマ | 連続公開講演会「3.11 Without Sound (音のない 3.11～被災地にろう者もいた～)」                                                                                                                                                                                             |
| 主催     | 異文化コミュニケーション研究科                                                                                                                                                                                                                                 |
| 講師     | 今村彩子(映像作家、名古屋学院大学・愛知学院大学兼任講師)                                                                                                                                                                                                                   |
| 開催趣旨   | 東日本大震災の時、耳が聞こえない人たちはどのような被災体験をしたのでしょうか。被災地のろう者の 1 年間を通して、ろう者がぶつかるさまざまな壁を描き出したドキュメンタリー作品「音のない 3.11」(25 分、日本手話・英語字幕)を鑑賞するとともに、その映像作家である今村彩子氏のお話を伺います。また、第 9 回国際類像性シンポジウムの一環として手話によるコミュニケーションに焦点を当て、手話の持つ類像性が人々をどのようにつないでいたのかについてもディスカッションを掘り下げます。 |

|        |                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 5 月 21 日(火)～27 日(月)                                                                |
| 内容・テーマ | 公開シンポジウム「災害と環境教育」                                                                         |
| 主催     | 日本学術会議                                                                                    |
| 共催     | 立教大学 ESD 研究所、立教 SFR 重点領域プロジェクト研究、JST RISTEX<br>「いのちを守る沿岸域の再生と安全・安心の拠点としてのコミュニティの実装」プロジェクト |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 後援   | 公益社団法人日本環境教育フォーラム                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 講師   | 登壇者：石川幹子（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）、鬼頭秀一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）、桑子敏雄（日本学術会議特任連携会員、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）、鳥居敏男（環境省東北環境事務所長）、畠山信（NPO 法人森は海の恋人副理事長）、牧野駿（南三陸町伊里前契约会前会長）、阿部正人（南三陸町立伊里前小学校教諭）、久村美穂（RQ 聞き書きプロジェクト代表）、宮内泰介（北海道大学大学院文学研究科教授）、進士徹（NPO 法人あぶくま NS ネット代表）、広瀬敏通氏（RQ 災害教育センター代表）、阿部治（本学 ESD 研究所長、社会学部教授）、関礼子（日本学術会議連携会員、本学社会学部教授）、小澤紀美子（日本学術会議連携会員、東海大学教養学部特任教授）                                                                                                                                                                       |
| 開催趣旨 | 3.11 後、2 年が経過し、東日本大震災の復興にあたって、ハードな復興がいまなお主流の状況の中で、この時期だからこそ可能になり、また、要になってきている、「ひと」とコミュニティの視点からの復興のあり方の理念を明確に打ち出すことが求められている。日本学術会議環境学委員会では、2012 年 12 月 5 日付で、『ひと』と『コミュニティ』の力を生かした復興まちづくりのプラットフォーム形成の緊急提言』を出したが、本シンポジウムでは、その具体的な取り組みと、そこにおける ESD（持続可能な発展のための教育）の視点の重要性について提起したい。現在、ハードの復興の手法と、それとせめぎ合うソフトの計画系の復興の手法が中心的に展開している中で、「ひと」とコミュニティの視点からの復興においてのソフト的な点で必要なことは何か、そこにおける「学び」の重要性、広い意味での環境教育の重要性についてシンポジウムの中から明らかにする。そのことを通じて、学校教育や社会教育の中で取り組まれている従来の防災教育の枠組みを脱して、「災害に学ぶ」という視点を入れた災害教育と、災害が多い日本ならではの環境教育の新たな提起をし、3.11 以後の教育の枠組みの再構成を促していきたい。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 5 月 25 日（土）                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 内容・テーマ | 講演会「イエシュウの言葉と震災と～生活の中で聖書を読みほぐす～」                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 主催     | キリスト教教育研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 講師     | 山浦玄嗣氏（山浦医院医師）                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 開催趣旨   | 講師の山浦玄嗣氏は、大船渡市で医師としてご活躍される一方で、カトリック信者として教会生活を営まれている。そして、聖書を気仙地方の地のことばで読むために、ギリシア語原典からケセン語訳の聖書を翻訳するなど貴重な研究を続けている。2011 年 10 月には我が国の各地の方言を巧みに用いて聖書を訳出した「ガリラヤのイエシュウ—日本語訳新約聖書四福音書—」を刊行した。また 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では、大船渡市で被災されながらも診療活動を早期から再開し、地域医療の中心を担った。この度の講演では、ご自身の被災体験を踏まえてキリスト者としての信仰、そして聖書の言葉の体感的理解をお話しいただく。 |

|        |                                                                                   |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 5 月 25 日（土）                                                                |
| 内容・テーマ | 公開講演会「3.11 後のアート・文化と社会デザイン」                                                       |
| 主催     | 21 世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                          |
| 講師     | ◇キーノートスピーチ：「文化戦略・文化政策と社会デザイン」近藤誠一（文化庁長官）<br>◇講演：「企業メセナと社会創造」加藤種男（アサヒグループ芸術文化財団顧問） |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>問、公益社団法人企業メセナ協議会専務理事)</p> <p>◇パネル・ディスカッション：「3.11 後のアート・文化と社会デザイン—コミュニティ・記憶・公共性」五十嵐太郎（建築史家、東北大学大学院教授）、太下義之氏（三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング主席研究員）、福屋粧子（建築家、東北工業大学専任講師）、長坂俊成（本学 21 世紀社会デザイン研究科、社会学部教授）、《コーディネーター》片山正夫（本学 21 世紀社会デザイン研究科教授、公益財団法人セゾン文化財団常務理事）、《総合司会》中村 陽一（本学 21 世紀社会デザイン研究科、法学部教授、立教大学社会デザイン研究所所長）</p> |
| 開催趣旨 | <p>東日本大震災から 2 年余りが経過し、被災地の復興をめぐるはまだ膨大な課題が横たわっている。しかし、その一方で、震災後、（建築なども含め）アートや文化領域からの多彩な取り組みが、現地とともにしなやかに展開されたことはささやかな希望の種であったといえるのではないだろうか。本企画では、そうした取り組みを議論の糸口としながら、あらためてアート・文化が社会デザインのなかで果たせる役割や活動の意義と今後の課題を、住民・市民の諸活動、文化政策、企業メセナ、そしてもちろんアーティストの視点から、またサブテーマとしてコミュニティ・記憶・公共性といった切り口を交えながら、明らかにしていきたい。</p>    |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 6 月 19 日（水）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 内容・テーマ | 映画「先祖になる」上映会 池谷薫監督によるティーチ・イン「この夏、被災地へ行こう！」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 主催     | 東日本大震災復興支援本部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 開催趣旨   | <p>映画「先祖になる」は、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市を舞台として、農業と林業に従事する一人の男性の被災後の生活を 1 年半にわたり撮影したドキュメンタリー映画であり、現代心理学部映像身体学科元特任教授の池谷薫氏による監督作品である。地震と津波に遭いながらも真っ直ぐな生きざまを貫く主人公を描いた本作品は、国際的にも大きな反響を呼んだ。本学と陸前高田市は 2003 年に本学学生部が林業体験プログラムを開始して以来、互いに深いつながりを築いてきた。今回の震災を受け、本学は同市を重点支援地域に指定し、多くの学生・教職員が自分たちにできる活動が続けている。この上映会を通じて、被災した地域にあらためて思いをはせ、これからの復興や私たちに何ができるかについて一緒に考える機会としたい。</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 6 月 28 日（金）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 内容・テーマ | 講演会「被災された方々・被災地と共に歩む～今、そしてこれからわたしたちにできること」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 主催     | RUM（Rikkyo University Mission）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 講師     | 加藤博道主教（日本聖公会東北教区主教、「いっしょに歩こう！プロジェクト」本部長）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 開催趣旨   | <p>東日本大震災の発生から 2 年を経た今、被災地ではさまざまな立場の人の尽力によって、徐々に新しい生活を始めた方々、地域がある一方、今もなお困難の中に身を置かざるを得ない多くの方々がいらっしゃるのも事実である。そんな中、地震発生直後から被災された方々に寄り添いつつ、共に歩むことを旨に活動が続けてきた、日本聖公会「いっしょに歩こう！プロジェクト」が、本年 5 月をもってその活動にピリオドを打つことになった。しかしそれが、被災された方々、地域との共生を終えることではないことは言うまでもない。メディアの報道量も減り続ける中、単に地震からの復興としてではなく、東北の方々と共に歩み続けることを今後も実践していくために、今、そしてこれからわたしたちにできることは何か。「キリスト教に基づく教育」を建学の理念として掲げてきた本学だからこそで</p> |

|  |                                    |
|--|------------------------------------|
|  | きること、これからの協働・共生の可能性を考え分かち合う機会としたい。 |
|--|------------------------------------|

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 9 月 8 日（日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 内容・テーマ | 上映会「福島の声を聴く～福島県立相馬高校放送局の震災後の活動と『今伝えたいこと』～」／立教 SFR 重点領域プロジェクト研究                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 主催     | ESD 研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 講師     | 渡部義弘氏（福島県立相馬高校放送局顧問）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 開催趣旨   | 東日本大震災から 1 年が経った 2012 年 3 月、東京・笹塚で、ある演劇作品が初演された。福島県立相馬高校放送局の「今伝えたいこと（仮）」は、高校生たちが、お互いに震災への思いを持ち寄ってつくられた約 35 分の作品である。地震、津波、原発事故後の被災地の現状、放射能汚染への不安や怒りを訴えた現役女子高生たちの声は大きな反響を呼び、その後も各地で上演、上映が行なわれている。今回は「今伝えたいこと（仮）」(DVD 映像)、ラジオドキュメント「緊急時避難準備不要区域より」(2011 年 6 月)、テレビドキュメント「Girl's Life in Soma」(2012 年 6 月)、テレビドキュメント「相馬高校から未来へ」(2013 年) 他を上映。相馬高校放送局顧問の渡部義弘氏をお招きし、作品の創作過程や上演・上映先での反応、生徒の変化など、震災後の活動についてお話しいただく。今を、そして未来を生きていく少女たちの、大人の世界へ向けたメッセージに耳を傾けてほしい。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 10 月 5 日（土）                                                                                                                                                                                                |
| 内容・テーマ | 防災教育交流フォーラム                                                                                                                                                                                                       |
| 主催     | 21 世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                          |
| 講師     | ◇1 日目／防災教育交流会<br>・基調講演「防災教育とは何かを改めて考える」<br>講師：諏訪清二氏（兵庫県立舞子高等学校 環境防災科科长）、五島政一氏（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部総括研究官）<br>・防災教育関連プロジェクト実施事業者による事業・事例紹介と意見交換会<br>・防災教育交流会講評<br>◇2 日目／中間報告会<br>・防災教育チャレンジプラン実践団体発表<br>・全体講評 |
| 開催趣旨   | 東日本大震災では防災教育の在り方が大きく問われた。生徒・児童全員が無事に避難できた学校もあれば、逆に避難に失敗し、多大な犠牲を出した学校も出た。そこで今回は、災害多発時代を迎える中で、防災教育の今後の在り方を、防災教育の現状と東日本大震災において防災教育がどう役立ったかの報告をもとに掘り下げていくこととしたい。                                                      |

|        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 11 月 27 日（水）                |
| 内容・テーマ | 講演会「おもかげ復元師が見た東日本大震災」              |
| 主催     | 立教大学人権・ハラスメント対策センター                |
| 共催     | コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室、ボランティアセンター |
| 講師     | 笹原留似子氏（榊桜代表取締役、復元納棺師）              |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催趣旨 | 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災は、死者・行方不明者約 2 万人を数えました。震災後間もなく被災地へ入られた笹原留似子氏は、津波や火災で大きな損傷を受けたご遺体を生前の穏やかな姿に戻す、復元納棺師ボランティアとして献身されました。今年 4 月には大震災で孤児となった子どもたちのために NPO 法人代表と共同で「子ども夢ハウスおおつち」を立ち上げ、新たな被災地支援を始められています。復元納棺師として日々ご遺体と向き合い、被災地の方々との交流を続けている笹原氏に大震災への思いや、復元納棺師としての仕事についてご講演いただき、ひとの尊厳について考えます。 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 12 月 1 日（日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 内容・テーマ | 「自治の村・会津檜枝岐の人びとにまなぶ—映画『やるべえや』と震災後の『福島』」／立教 SFR 重点領域プロジェクト研究                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 主催     | ESD 研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 講師     | 安孫子亘氏（長編ドキュメンタリー映画『やるべえや』撮影、監督）、藤井賢誠氏（福島県双葉郡双葉町 光善寺副住職）                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 開催趣旨   | 東日本大震災後の日本社会が直面しているのは、本当の意味で持続可能な暮らしをどのように構想するのか、という問いである。福島県会津地方・檜枝岐村では、600 人余りの村人が、厳しい自然条件を生き抜くためのさまざまな知恵と精神を先祖代々伝えてきた。その一つが村の神への奉納芝居「檜枝岐歌舞伎」（福島県重要無形文化財）である。檜枝岐村の人々が培ってきた自立心と互助力は、震災後、浜通りからの避難者や子供たちを受け入れる基盤となった。本講演会では、映画上映を通じて檜枝岐村の伝統と歴史を学ぶとともに、浜通りの歴史を知る双葉町住民の声に耳を傾け、持続可能な社会を構想するために私たちが受け継ぐ課題とは何かを考える機会としたい。 |

|        |                                                                                                                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 12 月 5 日（木）                                                                                                                                                          |
| 内容・テーマ | 立教 S F R 「東日本大震災・復興支援関連研究」研究成果報告会                                                                                                                                           |
| 主催     | リサーチ・イニシアティブセンター                                                                                                                                                            |
| 講師     | 野中健一教授（文学部）「東日本大震災による住民の食用野生生物利用への影響とその食文化を守るための研究」<br>空閑厚樹准教授（コミュニティ福祉学部）「震災後復興構想における持続可能なコミュニティ形成の方法論に関する調査研究」<br>森本佳樹教授（コミュニティ福祉学部）「被災地および被災者の支援のあり方に関する探索的研究～生活者の視点から～」 |
| 開催趣旨   | 立教大学学術推進特別重点資金（立教 SFR）「東日本大震災・復興支援関連研究」は、東日本大震災による被災地域の復興等に資することを目的とした研究活動を助成するために、2011 年度に新設された立教 SFR の研究種目です。本年度は以下の 3 研究課題について報告を行います。                                   |

|        |                                                   |
|--------|---------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 12 月 7 日（土）～15 日（日）                        |
| 内容・テーマ | 第 2 回「つながる。陸前高田と立教大学」交流展（東京芸術劇場）                  |
| 主催     | 立教大学                                              |
| 共催     | 陸前高田市、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、                    |
| 後援     | 豊島区、NPO 法人ゼファー池袋まちづくり                             |
| 企画     | NPO 法人陸前高田市支援連絡協議会 Aid TAKATA                     |
| 概要     | <パネル・写真展示><br>・陸前高田市の現在の状況と課題、立教大学学生による復興支援ボランティア |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>ア活動、市民との交流活動の様子<br/>＜イベント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸羽太陸前高田市長講演会・白井貴子コンサート（7日 14:45）※</li> <li>・金賢治氏講演（8日 13:00、15:00）</li> <li>・濱守栄子ミニライブ（8日 14:00、16:00、14日 13:00、15:00）</li> <li>・陸前高田市物産販売 他</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                              |
| 開催趣旨 | <p>立教大学と陸前高田市は、2012年5月23日に連携及び交流に関する協定を締結しました。この協定に基づき、両者は、災害ボランティアや子ども支援ボランティアをはじめとした支援活動、野球教室や学部の教育・研究を通じた交流活動、教員の専門性を生かした支援活動、映像プロジェクト「Rのことば」による情報発信など、多様な分野での連携・協力を実施しています。</p> <p>陸前高田市では、今もなお5,000人の方々が仮設住宅での生活を余儀なくされています。一方、マスコミなどで報道される機会も減少し、震災の記憶の風化が進んでいます。今回の交流展は、陸前高田市の現状をより多くの方に知っていただくことを目的に企画されました。会場では、立教大学による支援活動の模様や、陸前高田市で進む震災復興計画の現状の様子と今後の課題を写真・映像などにより紹介します。その他、戸羽太陸前高田市長による講演会（7日）や、同市教育委員会前次長の金賢治氏（大船渡市立大船渡中学校校長）による講演（8日）を行うなど、さまざまな企画を予定しています。</p> |

|        |                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013年12月7日（土）                                                                                                                               |
| 内容・テーマ | 陸前高田市・戸羽太市長講演会&白井貴子スペシャルライブ                                                                                                                 |
| 主催     | 立教大学                                                                                                                                        |
| 講師     | <p>講演「陸前高田の現状と課題、そして希望ある未来へ」</p> <p>講師：戸羽太氏（陸前高田市長）、白井貴子スペシャルライブ</p>                                                                        |
| 開催趣旨   | <p>東京芸術劇場で12月7日（土）から15日（日）まで開催される、第2回「つながる。陸前高田と立教大学」交流展の一環として、岩手県陸前高田市の戸羽太市長と、陸前高田市の復興支援活動を行うシンガーソングライターの白井貴子氏をお招きし、講演会とスペシャルライブを行います。</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013年12月7日（土）                                                                                                                                                                                                                                |
| 内容・テーマ | 立教大学ボランティアセンター設立10周年記念シンポジウム                                                                                                                                                                                                                 |
| 主催     | ボランティアセンター                                                                                                                                                                                                                                   |
| 講師     | <p>特別講演「陸前高田の現状と課題、そして希望ある未来へ」講師：戸羽太（陸前高田市長）</p> <p>シンポジウム「立教大学でのボランティア活動～東日本大震災復興支援ボランティアの実践」シンポジスト：根岸えま（社会学部4年次、2012年度ポール・ラッシュ博士記念奨学金受給者）、浅見由希乃（コミュニティ福祉学部3年次、Three-S学生ボランティア）、中村みどり（ボランティアセンター ボランティアコーディネーター）、及川賢一（陸前高田市社会福祉協議会事務局長）</p> |
| 開催趣旨   | <p>立教大学には、ポール・ラッシュ博士の「祈りと奉仕」を主眼とした「奉仕」活動をはじめとするボランティア活動の長い歴史がある。ボランティアセンターは2003年に発足し、2013年は設立10周年を迎えた。その節目に感謝礼拝を捧げ、記念シンポジウムを行い、東日本大震災と言う未曾有の大震災の復興支援ボランティアを切り口として、現代における高等教育機関としての大学ボランティアセンターの果たすべき役割を検証した。</p>                             |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 12 月 8 日（日）                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 内容・テーマ | 公開講演会「3・11 後のアート・文化と社会デザイン」                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 主催     | 21 世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 講師     | Ⅰ 基調トークセッション／増田寛也（野村総合研究所顧問、前・岩手県知事）、北山晴一（立教大学名誉教授）<br>Ⅱ 文化資源と社会デザイン—記憶を受け継ぎ未来をつくるために／基調講演「現代社会における記憶・記録の重要性」講師：鷺見洋一（慶應義塾大学名誉教授）パネルディスカッション／パネリスト：太下義之（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング主席研究員）、甲斐賢治（せんだいメディアテーク 企画・活動支援室室長）、板垣淑子（NHK 報道局社会番組部おはよう日本チーフ・プロデューサー）コーディネーター：曾田修司氏（跡見学園女子大学教授） |
| 開催趣旨   | 東日本大震災から 2 年半以上が経過する中、依然として「復興」にはばらつきがあり、課題もますます複雑化しつつある。そうした状況のもとで、アート・文化には何ができただのか、またこれから何が期待されているのか、文化資源と社会デザイン、記憶・記録という観点を生かしつつ関係者と考え、今後の実践への契機としたい。                                                                                                                     |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2013 年 12 月 12 日（木）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 内容・テーマ | 公開講演会『3.11 後の大学生の軌跡』～継続するボランティア～                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 主催     | 21 世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 講師     | 【大学生アンケート調査報告・ボランティア活動報告】講師：赤澤清孝（特定非営利活動法人ユースビジョン代表）<br>【シンポジウム】パネリスト：早瀬昇（日本 NPO センター代表理事・大阪ボランティア協会常務理事）、山内幸治（特定非営利活動法人エティック〔ETIC〕統括ディレクター）、中村陽一（本学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授、社会デザイン研究所長）コーディネーター：赤澤清孝氏（特定非営利活動法人ユースビジョン代表）挨拶：早川忠孝（鴛田くに奨学基金ビヨンドX プロジェクト代表）                                                                                                                                                   |
| 開催趣旨   | 2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災と原発事故は、日本のみならず世界の人々に強烈なインパクトをもたらした。しかし、2 年 9 カ月を経て、時間と共に人々の意識や思いは薄れ、関心を持つ人々も少なくなってきた。一方で、今も現地でボランティア活動を実践している方々がいる。中でも大学生が多くを占めていることは注目すべきことだろう。そして、発災時は学生だったが卒業してもその地でボランティアを継続している方、今はその地で仕事をしている方、結婚して新しい人生をその地で歩み始めた方など、ボランティア活動を出発点としてさまざまな道を歩んでいる。では、大学生にとってボランティア活動とはいったい何なのか、いったい何が彼ら大学生たちを震災地へと突き動かすのか。まずはそうした経験知を語っていただく。さらに各分野から講師をお招きし、ボランティアと大学との役割を考えるシンポジウムを行う。 |

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 実施日    | 2014 年 1 月 11 日（土）               |
| 内容・テーマ | 「福島の高校生の生の声を聴く」（千葉県立長狭高等学校文化ホール） |
| 主催     | 「ほんとの空」鴨川実行委員会                   |
| 共催     | 鴨川市、鴨川市教育委員会、千葉県立長狭高等学校          |



|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 協力   | とどけ！民意の会、未来たち学校、子供たちの未来を考える母の会（MUC）、大山支援村                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 後援   | 立教大学 ESD 研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 講師   | 【第一部】「この青空は、ほんとの空ってことでいいですか？ 第二章 ばらあ、ばらあ」の上演（福島県立南高等学校演劇部・脚本 佐藤茂紀）<br>【第二部】長狭高校生徒会による企画「高校生同士の意見交換会」                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 開催趣旨 | 東日本大震災から3年目。いまだに続く仮設住宅での暮らし、避難していてもしていかなくても、福島の方々は、不安が伴う生活を長期にわたり余儀なくされています。マスコミでは報道されにくい被災した方々に思いを寄せ、地元でも言い出せずにいるであろう心中を直接お聞きしたい、芝居を通して、さらに上演後の舞台で高校生のナマの声に耳を傾け、「いま」の思いに寄り添いたいと思います。「忘れないこと」「共感する」ことなら、今すぐ私たちにできること。ひとりでも多くの“共感者”をつくり、私たちは「忘れていない」ことを福島の高校生に伝えたい、そして関東にいる私たち一人ひとりが、それぞれに「何ができるか」を改めて考えるきっかけにしたいと考えました。さらに、出演者と観劇に来た若者とが出会い、共に日本の未来を作っていく仲間として、つながり合うきっかけとなることを願っています。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2014 年 1 月 13 日（月・祝）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 内容・テーマ | 「福島の高校生の生の声を聴く」（長生村文化会館ホール）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 主催     | 「ほんとの空」上演実行委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 共催     | パーマカルチャー井戸端会議@ちば、協力：子どもと一歩の会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 舞台協力   | 音のすけっとマル、劇団新生ふるきやら                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 応援団長   | 酒井秀光氏（成美学園学園長）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 特別協賛   | 城南信用金庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 後援     | 朝日新聞千葉総局、生活協同組合パルシステム千葉、千葉日報、長生村教育委員会、東京新聞、茂原市教育委員会、読売新聞社東京本社千葉支局、立教大学 ESD 研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 概要     | 【第一部】「この青空は、ほんとの空ってことでいいですか？ 第二章 ばらあ、ばらあ」の上演（福島県立南高等学校演劇部・脚本 佐藤茂紀）<br>【第二部】「福島を忘れない」井戸端会議                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 開催趣旨   | 東日本大震災から3年目。いまだに続く仮設住宅での暮らし、避難していてもしていかなくても、福島の方々は、不安が伴う生活を長期にわたり余儀なくされています。マスコミでは報道されにくい被災した方々に思いを寄せ、地元でも言い出せずにいるであろう心中を直接お聞きしたい、芝居を通して、さらに上演後の舞台で高校生のナマの声に耳を傾け、「いま」の思いに寄り添いたいと思います。「忘れないこと」「共感する」ことなら、今すぐ私たちにできること。ひとりでも多くの“共感者”をつくり、私たちは「忘れていない」ことを福島の高校生に伝えたい、そして関東にいる私たち一人ひとりが、それぞれに「何ができるか」を改めて考えるきっかけにしたいと考えました。さらに、出演者と観劇に来た若者とが出会い、共に日本の未来を作っていく仲間として、つながり合うきっかけとなることを願っています。 |

|        |                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2014 年 1 月 27 日（月）                                                          |
| 内容・テーマ | 東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト<br>第8回イベント「地域社会を育むもの—被災地における文化の再生と支援者の役割」 |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主催   | 社会学部、東日本大震災・RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 講師   | 橋本裕之氏（追手門学院大学社会学部教授）                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 開催趣旨 | 2011年3月11日の東日本大震災発生以来、岩手県沿岸地域の民俗芸能支援を行ってこられた橋本裕之氏（震災発生当時、盛岡大学教授）をお招きし、人々の祈りの対象として継承されてきた鶴鳥神楽や黒森神楽、釜石市・虎舞の支援活動の報告を通して、民俗芸能という文化資源が地域社会を再生する際に欠かせない契機となっていることをお話しいただく。また、被災体験の聞き取りを継続している桜井厚氏（本学兼任講師）にコメンテーターとして加わっていただき、地域社会における文化の力とそれを支える支援者の役割について検討する。ディスカッションでは、復興支援に関わる RDY に参加している学生、大学院生、教職員、一般参加者を交えた活発な議論を行う。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2014年3月1日（土）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 内容・テーマ | 公開講演会「震災から3年の被災地を考える ―障がい者と福島の今―」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 主催     | 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 講師     | 竹下敦子（特定非営利活動法人ハックの家施設長）、障子上喜一（特定非営利活動法人ハックの家利用者）、加藤亜季子（特定非営利活動法人難民を助ける会東北事務所長）、横山恵久子（特定非営利活動法人難民を助ける会相馬事務所職員）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 開催趣旨   | 東日本大震災から3年を迎える被災地の現状を、「障がい者」「原発事故の影響下にある住民」という、特に困難な立場におかれている人々に焦点を当て、現場からの報告を聞くとともに、今後必要とされる支援について考える。障がい者は、震災時の死亡率が健常者の2倍という数字が示すとおり災害弱者である。これら障がい者が働く東北の福祉事業所では震災前から低賃金という問題を抱えており、さらに震災後は取引先企業の被災により下請け作業そのものも激減している。このような状況下、岩手県の特定非営利活動法人「ハックの家」から職員と利用者（障がい当事者）を招き、復興に向けた福祉事業所の取り組みを報告いただく。共催団体の「難民を助ける会」職員からは、社会福祉法人「星雲工房」はじめ他の障がい者施設の状況について報告する。また、原発事故の影響で、他の被災地と比較して復興が遅々として進まない福島の現況を福島県相馬市出身であり、自身も被災しながら緊急・復興支援に従事してきた支援関係者が、避難生活を続ける被災者の現状を報告する。※手話による同時通訳あり |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2014年3月11日（火）                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 内容・テーマ | 礼拝「東日本大震災を忘れないために3周年の祈り」                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 主催     | チャペル                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 講師     | 池袋キャンパス<br>司式：大学チャプレン団 奨励：五十嵐 正司チャプレン長<br>新座キャンパス<br>司式：大学チャプレン団 奨励：金 大原チャプレン                                                                                                                                                                                                   |
| 開催趣旨   | 2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災から、4周年を迎えようとしています。この日にあわせて池袋・新座両チャペルでは、「東日本大震災を忘れないためにー4周年記念の祈り」をささげます。キリスト教の精神において「記念」は、「忘れないための行為」として大切です。犠牲となられた多くの方々の存在を「忘れないために」、また今なお続く困難の中にある被災地と人びとを「忘れないために」、池袋・新座両キャンパスのチャペルで、同じ時間にチャプレンが祈りをささげます。多くの皆さまとご一緒に祈りの時が持てることを願っています。ぜひ、お越し下さい。 |

|        |                                                                                                                                                                                 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日    | 2014 年 3 月 19 日（水）                                                                                                                                                              |
| 内容・テーマ | 公開講演会「減災のための『やさしい日本語』」                                                                                                                                                          |
| 主催     | 異文化コミュニケーション研究科                                                                                                                                                                 |
| 講師     | 米田正人（国立国語研究所名誉所員、統計数理研究所客員教授）・前田理佳子（大東文化大学外国語学部日本語学科講師）                                                                                                                         |
| 開催趣旨   | 東日本大震災から早 3 年、日本語を母語としない定住者に対して、災害時にどのような情報支援ができるか。本公開講演会では、日本で暮らす日本語非母語話者の共通語である「日本語」に対して提案されている「やさしい日本語」に焦点をあてる。＜午前の部＞では、その特徴や社会的意義を学び、さらに＜午後の部＞では実際に「やさしい日本語」を使うための技法を身につける。 |

□正課授業の取組み

- ・社会学部「震災のフィールドワーク」2012 年度（通年）、2013 年度（通年）
- ・全学共通カリキュラム「コミュニティ福祉から考える震災復興支援」2013 年度（前期）
- ・全学共通カリキュラム「震災復興論入門」2013 年度（後期）

## あとがき

本学では、震災直後の2011年4月に東日本大震災復興支援本部(以下復興支援本部)を設け全学的な連携・協力の下復興支援活動を進めています。活動にあたっては、本学の建学の精神である「普遍的なる真理を探究し」、「私たちの世界、社会、隣人のために」、言い換えれば、震災のことを知り、被災地の方々の気持ちを理解し、被災地の方々とよりそい共に生きることを理念とし、学生・教職員が多様な活動を展開しています。

復興支援本部では、震災直後から避難所での支援、瓦礫の撤去、子供学習支援等の学生・教職員によるボランティア活動を開始しました。本学の重点支援地域として協定を結んだ陸前高田市を中心に仮設図書館支援、スポーツ教室、震災の風化を防ぐことを目的とした東京芸術劇場・キャンパス内での陸前高田交流パネル展、留学生によるスタディツアー等を開催してきました。また、コミュニティ福祉学部、社会学部、チャペルなど学部、事務部局による復興支援を「立教大学災害ボランティア援助金」により経済的に支援してきました。

震災以来、復興支援活動に関わった学生・教職員は、一步前に歩まれようとする被災地の方々の姿勢や、外部からのボランティアを温かく受け入れてくださる方々の優しさ、二度とこうした悲劇を繰り返さないために若者たちにご自分の辛い経験を伝えて下さる方々の姿に出会い、多くのことを学ばせていただきました。「何もしなくてもいいので、そこに生きて居てくれればいい」という被災地の方々の言葉に、学生たちは言い知れぬ励ましと気づきを与えられているのです。

被災地での活動を経験したある学生はこう語っています。「私たちにとって、そこで出会った人たちは、『被災地の人』ではなく大槌、陸前高田、唐桑の人になりました。これからは、被災地としてくくるのではなく、それぞれの町をしっかりと見ていきたいと思います。」

支援する側と支援を受ける側との関係ではなく、共に生きる人として被災地の方々と交流させていただくことは、本学の教育にとり大きな実りとなっています。復興のステージは日々移り変わっていきますが、復興支援本部では、息の長い支援活動・交流を続けていきます。

2015年3月

立教大学東日本大震災復興支援本部  
本部長 西原 廉太

※本記録制作にあたり、陸前高田市役所、特定非営利活動法人陸前高田市支援連絡協議会(Aid TAKATA)はじめ関係者の皆様にはたいへんお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

**東日本大震災復興支援活動の記録  
2011－2013**

2015 年 4 月発行

東京都豊島区西池袋 3－34－1

立教大学

東日本大震災復興支援本部事務局

総長室教学連携課

TEL : 03－3985－4676

FAX : 03－3985－2827